

別記様式第2号（その1の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホジシ ヨシビジュツダガク								
フリガナ大学の名称	ジョシビジュツダガク								
大学本部の位置	女子美術大学 (Joshibi University of Art and Design)								
大学の目的	東京都杉並区和田1丁目49番8号								
大学の目的	<p>本学は、芸術に関する最高の理論及び技術を教授研究し、教養高く芸術的創造力の豊かな女性を育成することを目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>共創デザイン学科は、伝達や用途などの目的や機能を考え、デザインする能力を身に付け、顧客や消費者をはじめとする多様な立場の人々と協働して、商品やサービスの価値を共に創り上げることのできる能力を備えた人材の養成を目的とする。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	芸術学部 【College of Art and Design】 共創デザイン学科 【Department of Collaborative Design】	4	60	—	240	学士（芸術） (Bachelor of Fine Arts)	令和5年4月 第1年次	東京都杉並区和田1丁目49番8号	
	計		60	—	240				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>芸術学部 共創デザイン学科 [定員増] (令和4年3月認可申請) (60) 女子美術大学短期大学部 造形学科 [定員減] (令和4年4月届出予定) (△60)</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
	共創デザイン学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	芸術学部 共創デザイン学科	3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	4 (2)	77 (32)
		計	3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	4 (2)	— (—)
	既設分	芸術学部 美術学科	13 (13)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	22 (22)	21 (21)	179 (179)
		デザイン・工学学科	14 (14)	4 (4)	0 (0)	4 (4)	22 (22)	17 (17)	184 (184)
		アート・デザイン表現学科	9 (9)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	16 (16)	15 (15)	147 (147)
		学部共通科目	4 (4)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	2 (2)	97 (95)
		計	40 (40)	16 (16)	0 (0)	10 (10)	66 (66)	55 (55)	— (—)
	合計		43 (43)	19 (19)	0 (0)	10 (10)	72 (72)	59 (57)	— (—)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		57 (55)	53 (50)	110 (105)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	0 (0)	2 (2)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計		59 (57)	53 (50)	112 (107)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	59,106.42 m ²	19,214.08 m ²	— m ²	78,320.50 m ²	女子美術大学短期大学部（必要面積3,600m ² ）と共用				
	運 動 場 用 地	— m ²	42,268.25 m ²	— m ²	42,268.25 m ²					
	小 計	59,106.42 m ²	61,482.33 m ²	— m ²	120,588.75 m ²					
	そ の 他	961.00 m ²	4,384.76 m ²	— m ²	5,345.76 m ²					
	合 計	60,067.42 m ²	65,867.09 m ²	— m ²	125,934.51 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		女子美術大学短期大学部（必要面積3,750m ² ）と共用			
		50,762.57 m ² (50,762.57 m ²)	23,228.60 m ² (23,228.60 m ²)	— m ² (— m ²)	73,991.17 m ² (73,991.17 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 女子美術大学短期大学部と共用				
	27 室	45 室	260 室	10 室 (補助職員 0人)	— 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		左記は共同研究室 1 室				
		共創デザイン学科		1 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分は、以下のとおり。 図書 404,644 〔72,168〕 (394,478 〔70,492〕) 学術雑誌 472〔134〕 (472〔134〕) 視聴覚資料 6,548(6,308) 女子美術大学短期大学部と共用		
	共創デザイン学科	3,497〔842〕 (807〔194〕)	—〔—〕 —〔—〕	—〔—〕 —〔—〕	104 (24)	6,279 (6,120)	— (—)			
	計	3,497〔842〕 (807〔194〕)	—〔—〕 —〔—〕	—〔—〕 —〔—〕	104 (24)	6,279 (6,120)	— (—)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体 図書館は女子美術大学短期大学部と共用		
		4,175.61 m ²	449		372,728					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		885.80 m ²	多目的運動場 10,400 m ² テニスコート 3 面							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	届出学科全体 大学全体での共用分の図書費は、大学全体の総額 21,956千円/年のうち、17,126～18,728千円/年
		教員 1 人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	—	—	
		共 同 研 究 費 等		1,500千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	—	—	
		図 書 購 入 費	4,830千円	4,830千円	4,830千円	3,228千円	3,228千円	—	—	
		設 備 購 入 費	55,354千円	75,234千円	16,644千円	29,334千円	29,704千円	—	—	
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	大学全体での共用分の図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。		
		1,888千円	1,691千円	1,691千円	1,691千円	—	—			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							

既設大学等の状況	大学の名称		女子美術大学						
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	大学院美術研究科 博士後期課程 美術専攻	3	3	—	9	博士（美術）	0.22 0.22	平成8年度	神奈川県相模原市南区麻溝台1900番地 東京都杉並区和田1丁目49番8号
	博士前期課程 美術専攻	2	35	—	70	修士（美術）	0.97 1.01	平成6年度	神奈川県相模原市南区麻溝台1900番地
	デザイン専攻	2	15	—	30	修士（美術）	1.20	平成6年度	神奈川県相模原市南区麻溝台1900番地 東京都杉並区和田1丁目49番8号
	芸術文化専攻	2	7	—	14	修士（美術）	0.35	平成17年度	神奈川県相模原市南区麻溝台1900番地
	芸術学部 美術学科	4	190	3年次 14	788	学士（芸術）	1.12 1.13	平成22年度	同上
	デザイン・工芸学科	4	220	3年次 16	912	学士（芸術）	1.09	平成22年度	同上
	アート・デザイン表現学科	4	160	3年次 10	660	学士（芸術）	1.15	平成22年度	東京都杉並区和田1丁目49番8号
	大学の名称		女子美術大学短期大学部						
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	造形学科	2	180	—	360	短期大学士（芸術）	0.90	昭和32年度	東京都杉並区和田1丁目49番8号
附属施設の概要	<p>1 名称：女子美術大学美術館 (①女子美アートミュージアム、②女子美ガレリアニケ) 目的：本学の教育理念に則り、教育及び研究並びに博物館法に定める大学附属博物館としての活動と、社会に対する普及活動を行う。 所在地：①神奈川県相模原市南区麻溝台1900番地（女子美術大学10号館1階） ②東京都杉並区和田1丁目49番8号（女子美術大学1号館1階） 設置年月：①平成13年10月 ②平成8年10月 規模等：①延床面積 1,455.31㎡ ②延床面積 97.00㎡</p> <p>2 名称：女子美術大学研究所 目的：本学の研究基盤をより一層整備し、研究活動による成果を広く公開するとともに、社会と連携しつつ研究開発を行い、もって芸術、文化の発展に貢献する。 所在地：東京都杉並区和田1丁目49番8号（女子美術大学1号館2階） 設置年月：平成15年4月 規模等：延床面積 47.78㎡（女子美オープンカレッジセンターと共用）</p> <p>3 名称：女子美オープンカレッジセンター 目的：主として本学の教育的資源を活用し、広く社会に対し専門的な学習の機会を提供するとともに、芸術文化の発展に寄与する。 所在地：東京都杉並区和田1丁目49番8号（女子美術大学1号館2階） 設置年月：平成15年4月 規模等：延床面積 47.78㎡（女子美術大学研究所と共用）</p>								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」, 「新設学部等の目的」, 「新設学部等の概要」, 「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず, 斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については, 共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は, 「教育課程」, 「教室等」, 「専任教員研究室」, 「図書・設備」, 「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず, 斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は, 「教育課程」, 「校地等」, 「校舎」, 「教室等」, 「専任教員研究室」, 「図書・設備」, 「図書館」, 「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず, 斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。
- 6 空欄には, 「—」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要															
(芸術学部共創デザイン学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	女子美基礎講座	1前	2			○								兼3	オムニバス
	女子美の教養	1前	2			○								兼6	オムニバス
	小計 (2科目)	—	4			—								兼8	
学部共通科目	ジェンダーとアート研究	2・3・4前・後		2			○							兼1	
	歴史の中の女性	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	女性と法	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	ジェンダー論	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	ジェンダーとアート概論	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	情報とアート	2・3・4前・後		2			○							兼1	
	人権・ダイバーシティとアート	2・3・4前・後		2			○							兼1	
	哲学	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	歴史学	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	文学	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	文化人類学	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	思想史	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	コミュニケーション論	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	比較文化論	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	異文化理解	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	言語学	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	伝統文化論	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	法学（日本国憲法）	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	社会福祉学	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	国際関係論	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	経済学	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	観光学	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	教育原論	1前・後		2		○								兼1	
	アートと法入門	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	芸術文化政策論	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	日本語A	1前		1			○							兼1	
	日本語B	1後		1			○							兼1	
	環境とアート	2・3・4前・後		2			○							兼2	オムニバス
	身体とアート	2・3・4前・後		2			○							兼1	
	数理科学	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	生命科学	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	心理学	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	教育心理学	2前・後		2		○								兼1	
	青年心理学	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	環境論	1・2・3前・後		2		○								兼2	
	スポーツ演習A	1・2・3前		1			○							兼1	
	スポーツ演習B	1・2・3後		1			○							兼1	
	健康科学A	1・2・3前		1			○							兼1	
	健康科学B	1・2・3後		1			○							兼1	
	精神保健	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	行動心理学	1・2・3前・後		2		○								兼1	
	身体機能論	1・2・3前・後		2		○								兼1	
小計 (42科目)	—		78			—								兼31	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
美大生としての基礎力・創造力を養う	音楽とアート	2・3・4前・後		2			○								兼1	集中
	古美術研究	3前・後		2			○								兼1	
	西洋美術史概説	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	西洋美術史特論A	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	西洋美術史特論B	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	西洋美術史特論C	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	日本美術史概説	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	日本美術史特論A	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	日本美術史特論B	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	日本美術史特論C	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	東洋美術史概説	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	東洋美術史特論A	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	東洋美術史特論B	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	美学	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	現代美学	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	芸術学A	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	芸術学B	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	芸術学C	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	現代美術論	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	デザイン史A	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	デザイン史B	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	印刷概論	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	美術解剖学A	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	美術解剖学B	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	図学A	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	図学B	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	書道A	1・2・3前		1			○								兼1	
	書道B	1・2・3後		1				○							兼1	
	文化遺産学	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	写真史	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	色彩学A	1・2・3前		2		○									兼1	
	色彩学B	1・2・3後		2		○									兼1	
	造形心理学	1・2・3前・後		2		○									兼1	
小計 (33科目)	—		64				—							兼26		
学部共通科目	プロジェクト・スタディーズ	2・3・4通		2			○								兼3	集中
	アーティスト・イン・レジデンス	2・3・4通		2			○								兼1	集中
	国際芸術プログラム	2・3・4休		2			○								兼1	集中
	地域共創学	1・2・3前・後		2		○									兼2	
	アーティスト・イン・レジデンス概論	1・2・3前・後		2		○									兼3	オムニバス
	カラーコーディネート基礎	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	表現と癒しの営み	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	子ども発達論	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	インテリアデザイン史	1・2・3前・後		2		○									兼1	
	インターシップ 1	3・4前・後		1					○						兼1	集中
	インターシップ 2	3・4前・後		2					○						兼1	集中
	インターシップ 3	3・4前・後		3					○						兼1	集中
	インターシップ 4	3・4前・後		4					○						兼1	集中
	博物館概論	1前・後		2		○									兼2	
	キャリア形成A	1・2・3前・後		2		○									兼3	オムニバス
キャリア形成B	1・2・3前・後		2		○									兼3	オムニバス	
キャリア形成C	2・3・4前・後		2		○									兼3	オムニバス	
キャリア形成D	2・3・4前・後		2		○									兼3	オムニバス	
情報メディア基礎演習	1・2・3前・後		2			○								兼1		
小計 (19科目)	—		40				—							兼16		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部共通科目	Joshibi Foundation English A	1前		1			○								兼4	
	Joshibi Foundation English B	1後		1			○								兼4	
	Joshibi Art English A	2・3・4前		1			○								兼1	
	Joshibi Art English B	2・3・4後		1			○								兼1	
	English in Film and the Performing Arts A	2・3・4前		1			○								兼1	
	English in Film and the Performing Arts B	2・3・4後		1			○								兼1	
	Joshibi Global English A	1・2・3前		1			○								兼1	
	Joshibi Global English B	1・2・3後		1			○								兼1	
	English Conversation A	1・2・3前		1			○								兼1	
	English Conversation B	1・2・3後		1			○								兼1	
	フランス語ⅠA	1・2・3前		1			○								兼1	
	フランス語ⅠB	1・2・3後		1			○								兼1	
	イタリア語ⅠA	1・2・3前		1			○								兼1	
	イタリア語ⅠB	1・2・3後		1			○								兼1	
	ドイツ語ⅠA	1・2・3前		1			○								兼1	
	ドイツ語ⅠB	1・2・3後		1			○								兼1	
	中国語ⅠA	1・2・3前		1			○								兼1	
	中国語ⅠB	1・2・3後		1			○								兼1	
	フランス語ⅡA	2・3・4前		1			○								兼1	
	フランス語ⅡB	2・3・4後		1			○								兼1	
	イタリア語ⅡA	2・3・4前		1			○								兼1	
	イタリア語ⅡB	2・3・4後		1			○								兼1	
	ドイツ語ⅡA	2・3・4前		1			○								兼1	
	ドイツ語ⅡB	2・3・4後		1			○								兼1	
	中国語ⅡA	2・3・4前		1			○								兼1	
	中国語ⅡB	2・3・4後		1			○								兼1	
小計 (26科目)		—		26			—								兼10	
学科専門科目	共創デザイン演習Ⅰ-A	1前	2				○								兼1	
	共創デザイン演習Ⅰ-B	1前	2				○								兼3	
	共創デザイン演習Ⅰ-C	1前	2				○		1						兼4	
	共創デザイン演習Ⅰ-D	1前	2				○								兼1	
	共創デザイン演習Ⅰ-E	1後	2				○		1						兼3	
	共創デザイン演習Ⅰ-F	1後	2				○			1					兼2	
	共創デザイン演習Ⅰ-G	1後	2				○				1				兼1	
	共創デザイン演習Ⅰ-H	1後	2				○								兼2	
	共創デザイン実践Ⅰ	1通	2					○	3	3					兼2	
	共創デザイン概論	1前	2				○		3	3					兼6	オムニバス
	ライフマネジメント論Ⅰ	1前	2				○								兼1	
	ビジネスデザイン概論	1後	2				○		1						兼2	
	コミュニケーション特論Ⅰ	1後	2				○								兼2	
	デザイン基礎集中演習	1休		2				○							兼1	集中
	ドローイング演習	1前		2				○							兼2	
	プログラミング演習	1前		2				○			1					
	インクルーシブデザイン論	1後		2				○							兼2	
	自立的キャリア教育	1・2・3通		2				○							兼1	
	産官学連携演習	1・2・3通		2				○	3	3					兼4	
	産官学連携実践	1・2・3休		1						2						集中
	共創デザイン演習Ⅱ-A	2前	2					○							兼1	
	共創デザイン演習Ⅱ-B	2前	2					○							兼3	
	共創デザイン演習Ⅱ-C	2前	2					○	1						兼1	
	共創デザイン演習Ⅱ-D	2前	2					○							兼1	
	共創デザイン演習Ⅱ-E	2後	2					○							兼2	
	共創デザイン実践Ⅱ	2通	2						3	3					兼2	
行動デザイン論	2前	2					○							兼2		
コミュニケーション特論Ⅱ	2前	2					○							兼1		
ライフマネジメント論Ⅱ-A	2後	2					○	1	1					兼1		
ライフマネジメント論Ⅱ-B	2後	2					○	2								
共創デザイン選択演習Ⅱ-A	2後		2				○	1						兼4		
共創デザイン選択演習Ⅱ-B	2後		2				○	1						兼3		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科専門科目	共創デザイン選択演習Ⅱ-C	2後		2			○			1					兼1	集中
	共創デザイン選択演習Ⅱ-D	2後		2			○			1					兼1	
	共創デザイン演習Ⅱ-F	2休		2			○			1	1					
	人間工学（スペース&プロダクト）	2前		2			○			1					兼1	オムニバス
	コミュニケーション特論Ⅲ	2前		2			○				1				兼1	
	感性異分野共創論Ⅰ	2前		2			○								兼7	
	ソーシャルグッドネスデザイン論	2後		2			○								兼1	
	留学認定科目A	2・3通		2			○			1						
	留学認定科目B	2・3通		4			○			1						
	留学認定科目C	2・3通		6			○			1						
	留学認定科目D	2・3通		8			○			1						
	留学認定科目E	2・3通		10			○			1						
	共創デザイン演習Ⅲ-A	3前	2					○		1						
	共創デザイン演習Ⅲ-B	3前	2					○		1					兼2	
	共創デザイン実践Ⅲ	3通	2						○	3	3				兼2	
	知財・ファイナンシャル概論	3前	2				○								兼2	
	ライフマネジメント論Ⅲ-A	3前	2				○			2						
	ライフマネジメント論Ⅲ-B	3後	2				○								兼1	
	ファシリテーション論	3後	2				○								兼1	
	共創デザイン選択演習Ⅲ-A	3前		2				○		1					兼1	
	共創デザイン選択演習Ⅲ-B	3前		2				○		1	2				兼1	
	共創デザイン選択演習Ⅲ-C	3前		2				○							兼3	
	共創デザイン選択演習Ⅲ-D	3前		2				○			1					
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Aa	3後		2				○		1					兼2	
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ba	3後		2				○							兼1	
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ca	3後		2				○		1						
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Da	3後		2				○							兼1	
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ea	3後		2				○		2	2				兼1	
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ab	3後		2				○		1					兼2	
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Bb	3後		2				○							兼1	
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Cb	3後		2				○							兼1	
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Db	3後		2				○							兼1	
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Eb	3後		2				○		2	2				兼1	
	感性異分野共創論Ⅱ	3前		2			○								兼7	オムニバス
共創デザイン実践Ⅳ	4前	2						○	3	3						
卒業研究	4通	8						○	3	3						
ライフマネジメント論Ⅳ-A	4前		2			○			3	3				兼1		
ライフマネジメント論Ⅳ-B	4後		2			○			3	3						
小計（70科目）	—		70	95			—		3	3					兼77	
合計（192科目）	—		74	303	0		—		3	3					兼150	
学位又は称号	学士（芸術）		学位又は学科の分野			美術関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
学部共通科目から必修科目を含め30単位以上、学科専門科目から必修科目を含め94単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。 （履修登録の上限：1年次42単位、2～4年次49単位（年間））						1学年の学期区分			2学期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

教育課程等の概要（既設学部等）

（芸術学部デザイン・工芸学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
A群	哲学	1・2・3前・後		2		○									兼1
	歴史学	1・2・3前・後		2		○									兼1
	文学	1・2・3前・後		2		○									兼1
	音楽	1・2・3前・後		2		○									兼1
	文化人類学	1・2・3前・後		2		○									兼1
	教育原論	1前・後		2		○									兼1
	教育心理学	2前・後		2		○									兼1
	青年心理学	1・2・3前・後		2		○									兼1
	法学	1・2・3前・後		2		○									兼1
	日本国憲法	1・2・3前・後		2		○									兼3
	政治学	1・2・3前・後		2		○									兼1
	社会福祉学	1・2・3前・後		2		○									兼1
	現代社会概説	1・2・3前・後		2		○									兼1
	生涯学習概論	1前・後		2		○									兼1
	数理学	1・2・3前・後		2		○									兼1
	生命科学	1・2・3前・後		2		○									兼1
	心理学	1・2・3前・後		2		○									兼1
小計（17科目）	—	—	0	34	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼16
B群	英語Ⅰ	1・2・3通		2			○								兼5
	英語Ⅱ	2・3・4通		2			○								兼2
	英会話A	1・2・3通		2			○								兼1
	英会話B	2・3・4通		2			○								兼1
	フランス語Ⅰ	1・2・3通		2			○								兼2
	フランス語Ⅱ	2・3・4通		2			○								兼1
	フランス語Ⅲ	3・4通		2			○								兼1
	イタリア語Ⅰ	1・2・3通		2			○								兼2
	イタリア語Ⅱ	2・3・4通		2			○								兼1
	イタリア語Ⅲ	3・4通		2			○								兼1
	ドイツ語Ⅰ	1・2・3通		2			○								兼1
	ドイツ語Ⅱ	2・3・4通		2			○								兼1
	中国語Ⅰ	1・2・3通		2			○								兼1
	中国語Ⅱ	2・3・4通		2			○								兼1
	日本語Ⅰ	1通		2			○								兼1
	日本語Ⅱ	2通		2			○								兼1
	コンピュータ入門A	1・2・3前・後		2			○								兼4
コンピュータ入門B	1・2・3前・後		2			○								兼3	
コミュニケーション論	1・2・3前・後		2		○									兼1	
比較文化論	1・2・3前・後		2		○									兼1	
言語学	1・2・3前・後		2		○									兼1	
異文化理解	1・2・3前・後		2		○									兼1	
小計（22科目）	—	—	0	44	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼19
C群	健康科学	1・2・3通		2			○								兼4
	スポーツ演習A	1・2・3前・後		1			○								兼1
	スポーツ演習B	1・2・3前・後		1			○								兼1
	スポーツ演習C	1・2・3前・後		1			○								兼4
	スポーツ演習D	1・2・3前・後		1			○								兼1
	精神保健	1・2・3前・後		2		○									兼1
心身医学	1・2・3前・後		2		○									兼1	
小計（7科目）	—	—	0	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼6

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
学部 共通 科目	西洋美術全史	1・2・3通		4		○									兼2	集中	
	西洋美術史特論A	1・2・3前・後		2		○									兼1		
	西洋美術史特論B	1・2・3前・後		2		○									兼1		
	日本美術全史	1・2・3通		4		○									兼3		
	日本美術史特論A	1・2・3前・後		2		○									兼1		
	日本美術史特論B	1・2・3前・後		2		○									兼1		
	東洋美術史概論	1・2・3前・後		2		○									兼1		
	東洋美術史特論	1・2・3前・後		2		○									兼1		
	古美術研究	3通		2			○								兼2		
	美学	1・2・3前・後		2		○									兼1		
	現代美学	1・2・3前・後		2		○									兼1		
	芸術学	1・2・3前・後		2		○									兼1		
	日本近代美術論	1・2・3前・後		2		○									兼1		
	現代美術論	1・2・3前・後		2		○									兼1		
	デザイン史	1・2・3前		2		○									兼1		
	造形心理学	1・2・3前・後		2		○									兼1		
	色彩学	1・2・3通		4		○									兼2		
	美術解剖学A	1・2・3前		2		○									兼1		
	美術解剖学B	1・2・3後		2		○									兼1		
	図学A	1・2・3前		2		○									兼1		
	図学B	1・2・3後		2		○									兼1		
	書道	1・2・3通		2			○								兼1		
	文化遺産学	1・2・3前・後		2		○									兼1		
	ユニバーサルアート研究	1・2・3前・後		2		○									兼2		
	博物館概論	1前・後		2		○									兼1		
小計 (25科目)	—		0	56	0	—			0	0	0	0	0	0	兼28		
E 群	基礎学習ゼミ	1前	2			○									兼5	オムニバス	
	ジェンダー論	1・2・3前・後		2		○									兼1	集中	
	ジェンダーアート入門	1・2・3前・後		2		○									兼1		
	歴史の中の女性	1・2・3前・後		2		○									兼1		
	女性と法	1・2・3前・後		2		○									兼1		
	芸術文化政策論	1・2・3前・後		2		○									兼1		
	芸術と知的財産権	1・2・3前・後		2		○									兼1		
	国際留学プログラム	1・2・3休		2			○								兼1		
	国際芸術演習A	1・2・3前		1			○								兼2		
	国際芸術演習B	1・2・3後		1			○								兼2		
	サービス・ラーニング	1・2・3通		2			○		1	1					兼7		
	キャリア形成A	1前・後		2		○									兼4		オムニバス
	キャリア形成B	2前・後		2		○									兼4		オムニバス
	キャリア形成C	2前・後		2		○									兼4		オムニバス
	キャリア形成D	3前・後		2		○									兼4		オムニバス
	インターンシップA	3・4休		1									○		兼1		集中
	インターンシップB	3・4休		2									○		兼1		集中
インターンシップC	3・4休		3									○		兼1	集中		
インターンシップD	3・4休		4									○		兼1	集中		
小計 (19科目)	—		2	36	0	—			1	1	0	0	0	0	兼22		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
学 科 専 門 科 目	デザイン・工芸選択実技A	1前	2					○	1						兼16	オムニバス オムニバス
	デザイン・工芸選択実技B	1後	2					○	1						兼15	
	デザイン・工芸論A	1前	2			○			10	1					兼2	
	デザイン・工芸論B	1後	2			○			8	3		1				
	デザイン図法	1前		2		○									兼3	
	コンピュータレシヨン演習A	1・2・3前		2				○							兼1	
	コンピュータレシヨン演習B	1・2・3後		2				○							兼1	
	色彩計画演習	1・2・3後		2				○							兼1	
	素材演習A	1・2・3前		2				○							兼2	
	素材演習B	1・2・3前		2				○							兼2	
	素材演習C	1・2・3前		2				○							兼1	
	素材演習D	1・2・3前		2				○							兼2	
	素材演習E	1・2・3前		2				○							兼1	
	素材演習F	1・2・3前		2				○							兼1	
	バリアフリー演習	1・2・3前		2				○							兼1	
	マーケティング論	1・2・3前		2			○								兼2	
	人間工学論	1・2・3後		2			○								兼1	
	デザインと法	2・3後		2			○								兼1	
	展示計画論	1・2・3後		2			○								兼1	
	デザイン心理学	1・2・3後		2			○								兼1	
	デザインサーベイ論	1・2・3後		2			○								兼1	
	インテリアデザイン史	1・2・3前		2			○								兼1	
	環境論	1・2・3前・後		2			○								兼2	
	日本服装史	1・2・3前		2			○								兼1	
	文様史	1・2・3前		2			○								兼1	
	伝統染織文化論	1・2・3後		2			○			1	1				兼3	オムニバス
	テキスタイル表現論	1・2・3後		2			○								兼1	
	空間演出論	1・2・3前		2			○								兼1	
	現代造形論	1・2・3前		2			○								兼1	
	広告論	1・2・3前		2			○								兼1	
	写真史	1・2・3前		2			○								兼1	
	造形演習A	1・2・3前		2				○							兼1	
	造形演習B	1・2・3後		2				○							兼1	
	造形演習C	1・2・3前		2				○							兼1	
	造形演習D	1・2・3後		2				○							兼1	
	エコロジカブルランニング演習	2後		1				○							兼1	
	ライティング演習	2後		1				○							兼3	
	印刷概論	2前		2			○								兼1	
	ヴィジュアルデザイン概論	1・2・3前・後		2			○								兼1	
	プロダクトデザイン概論	2前		2			○								兼1	
	環境デザイン概論	2前		2			○								兼1	
	工芸史A(染織)	2後		2			○								兼1	
	工芸史B(陶ガラス)	2前		2			○								兼1	
	映像表現演習A	2・3前・後		2				○							兼1	
	映像表現演習B	2・3前・後		2				○							兼1	
	写真演習	2・3前・後		2				○							兼1	
	英語プレゼンテーション	2・3前		2				○							兼1	
	建築材料学	2前		2			○								兼1	
	建築生産Ⅰ	2後		1			○								兼1	
	建築生産Ⅱ	4後		1			○								兼1	
	建築法規	2後		1			○								兼1	
	構造計画	4前		2			○								兼1	
	建築設備	4後		2			○								兼2	
小計(53科目)		—	8	93	0	—			15	4	0	1	0	兼65		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
学科専門科目 専攻・領域専門科目	ガイダンス等基礎演習Ⅰ-A	1前・後		2				○			1					兼5
	ガイダンス等基礎演習Ⅰ-B	1前・後		2				○			1					兼5
	ガイダンス等基礎演習Ⅰ-C	1前・後		2				○			1					兼5
	ガイダンス等基礎演習Ⅰ-D	1前・後		2				○								兼6
	ガイダンス等基礎演習Ⅰ-E	1前・後		2				○				1				兼5
	ガイダンス等基礎演習Ⅰ-F	1前・後		2				○				1				兼5
	表現演習Ⅰ	1通		2				○								兼7
	プロダクト等基礎演習A	1前		2				○								兼2
	プロダクト等基礎演習B	1前		2				○			1					兼1
	プロダクト等基礎演習C	1前		2				○			1					兼2
	プロダクト等基礎演習D	1後		2				○			1					兼1
	プロダクト等基礎演習E	1後		2				○								兼2
	プロダクト等基礎演習F	1後		2				○								兼2
	CG演習Ⅰ	1通		2				○								兼1
	環境デザイン基礎演習A	1前		2				○								兼1
	環境デザイン基礎演習B	1前		2				○								兼1
	環境デザイン基礎演習C	1前		2				○								兼1
	環境デザイン基礎演習D	1後		2				○								兼1
	環境デザイン基礎演習E	1後		2				○			1					兼1
	環境デザイン基礎演習F	1後		2				○								兼1
	CG演習	1通		2				○								兼4
	工芸基礎(染)	1前		2								1				兼5
	工芸基礎(織)	1後		2							1					兼6
	工芸基礎(刺繍)	1通		2								1				兼6
	工芸基礎(陶)	1後		2							1					兼5
	工芸基礎(ガラス)	1前		2								1				兼5
	ガイダンス等基礎演習Ⅱ-A	2前・後		2					○		1					兼5
	ガイダンス等基礎演習Ⅱ-B	2前・後		2					○		2					兼4
	ガイダンス等基礎演習Ⅱ-C	2前・後		2					○		2		1			兼3
	ガイダンス等基礎演習Ⅱ-D	2前・後		2					○		1					兼5
	ガイダンス等基礎演習Ⅱ-E	2前・後		2					○			1				兼5
	ガイダンス等基礎演習Ⅱ-F	2前・後		2					○		1			1		兼4
	表現演習Ⅱ-A	2前・後		2					○				1	2		兼1
	表現演習Ⅱ-B	2前・後		2					○							兼3
	プロダクト等演習A	2前		2					○		1					兼2
	プロダクト等演習B	2前		2					○		1					兼1
	プロダクト等演習C	2前		2					○		1					兼1
	プロダクト等演習D	2後		2					○							兼3
	プロダクト等演習E	2後		2					○		1					兼1
	プロダクト等演習F	2後		2					○		1					兼2
	CG演習Ⅱ	2前・後		2					○							兼2
	表現演習Ⅱ	2通		2					○							兼1
	プロダクトデザイン史	2後		2				○								兼1
	環境デザイン演習A	2前		2					○		1					兼1
	環境デザイン演習B	2前		3					○							兼1
環境デザイン演習C	2後		2					○							兼1	
環境デザイン演習D	2後		2					○							兼2	
環境デザイン演習E	2後		2					○		1					兼1	
製図演習	2前		2					○							兼1	
CAD演習	2後		2					○							兼1	
プレゼン演習Ⅰ	2前		2					○							兼1	
染Ⅰ	2通		5								1				兼4	
織Ⅰ	2通		5							1					兼5	
刺繍Ⅰ	2通		4								1				兼5	
材料学A(繊維)	2通		4				○								兼1	
陶Ⅰ	2通		7							1					兼4	
ガラスⅠ	2通		7								1				兼5	
材料学B(陶ガラス)	2通		4				○								兼2	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
学科専門科目 専攻・領域専門科目	カジュアルデザイン演習Ⅰ-A	3前		2				○		3					兼3
	カジュアルデザイン演習Ⅰ-B	3前		2				○		2					兼4
	カジュアルデザイン演習Ⅰ-C	3前		2				○		2					兼4
	カジュアルデザイン演習Ⅰ-D	3後		2				○		2		1			兼3
	カジュアルデザイン演習Ⅰ-E	3後		2				○		2	1				兼3
	カジュアルデザイン演習Ⅰ-F	3後		2				○		3					兼3
	表現演習Ⅲ-A	3前・後		2				○		2	1		1		兼3
	表現演習Ⅲ-B	3前・後		2				○					1		兼5
	3D-CG演習	3通		2				○							兼2
	プロダクトデザインⅠAa	3前		3					○	1					兼2
	プロダクトデザインⅠAb	3前		3					○						兼2
	プロダクトデザインⅠBa	3前		3					○						兼3
	プロダクトデザインⅠBb	3前		3					○	1					兼3
	プロダクトデザインⅠCa	3後		3					○	1					
	プロダクトデザインⅠCb	3後		3					○						兼1
	プロダクトデザインⅠDa	3後		3					○	1					兼2
	プロダクトデザインⅠDb	3後		3					○						兼2
	構造演習	3前		2					○						兼1
	プレゼン演習Ⅱ	3後		2					○						兼1
	環境デザインⅠAa	3前		2					○	1					兼1
	環境デザインⅠAb	3前		2					○						兼1
	環境デザインⅠBa	3前		2					○						兼2
	環境デザインⅠBb	3前		2					○						兼1
	環境デザインⅠCa	3前		2					○	1					兼1
	環境デザインⅠCb	3前		2					○						兼1
	環境デザインⅠDa	3後		2					○						兼2
	環境デザインⅠDb	3後		2					○						兼2
	環境デザインⅠEa	3後		3					○	1					兼1
	環境デザインⅠEb	3後		3					○	1					兼1
	プレゼンテーション演習	3後		2					○						兼3
	染ⅡA	3前		7					○		1				兼6
	染ⅡB	3後		7					○		1				兼8
	織ⅡA	3前		7					○	1					兼4
	織ⅡB	3後		7					○	1					兼5
	刺繍ⅡA	3前		7					○		1				兼6
	刺繍ⅡB	3後		7					○		1				兼7
	陶ⅡA	3前		7					○	1					兼3
	陶ⅡB	3後		7					○	1					兼5
	ガラスⅡA	3前		7					○		1				兼3
	ガラスⅡB	3後		7					○		1				兼5
	カジュアルデザイン演習Ⅱ-A	4前		4					○	4					兼2
	カジュアルデザイン演習Ⅱ-B	4前		4					○	4	1				兼1
	プロダクトデザインⅡAa	4前		4					○	1					
	プロダクトデザインⅡAb	4前		4					○	1					兼4
	プロダクトデザインⅡBa	4前		4					○	3					兼5
	プロダクトデザインⅡBb	4前		4					○	3					兼5
	環境デザインⅡAa	4前		4					○	1					兼1
環境デザインⅡAb	4前		4					○						兼1	
環境デザインⅡBa	4前		4					○	1					兼1	
環境デザインⅡBb	4前		4					○						兼1	
染Ⅲ	4前		8					○		1				兼6	
織Ⅲ	4前		8					○	1					兼4	
刺繍Ⅲ	4前		8					○		1				兼5	
陶Ⅲ	4前		8					○	1					兼5	
ガラスⅢ	4前		8					○		1				兼3	
卒業制作	4後		10					○	15	4		1		兼37	
小計(114科目)		—	10	359	0			—	15	4	0	4	0	兼156	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教職に関する科目	教職概論	1前・後			2	○									兼2	集中
	教育課程論	1前・後			2	○									兼2	
	教育方法論	1前・後			2	○									兼1	
	特別支援教育論	2前・後			1	○									兼2	
	教育制度論	2前・後			2	○									兼2	
	特別活動論(総合的な学習の時間の指導法を含む)	3前・後			2	○									兼1	
	道德教育論	3前・後			2	○									兼1	
	美術科・工芸科教育法Ⅰ	2前			2	○									兼2	
	美術科・工芸科教育法Ⅱ	2後			2	○									兼2	
	美術科・工芸科教育法Ⅲ	3前			2	○									兼2	
	美術科・工芸科教育法Ⅳ	3後			2	○									兼2	
	美術科・工芸科教育法Ⅴ	3前			2	○									兼1	
	美術科・工芸科教育法Ⅵ	3後			2	○									兼1	
	生徒指導論(進路指導を含む)	3前・後			2	○									兼1	
	教育相談論	3前・後			2	○									兼1	
	教育実習指導	3後～4前			1	○									兼2	
	教育実習Ⅰ	4前・後			2									○	兼2	
	教育実習Ⅱ	4前・後			2									○	兼2	
	教職実践演習(中・高)	4後			2		○								兼3	
小計(19科目)	—			36		—								兼8		
博物館に関する科目	博物館経営論	3前・後			2	○									兼1	
	博物館資料論	2前・後			2	○									兼1	
	博物館資料保存論	3前・後			2	○									兼1	
	博物館情報・メディア論	3前・後			2	○									兼1	
	博物館実習	4通			3									○	兼2	
小計(5科目)	—			11		—								兼6		
合計(281科目)		—	20	632	47		—		15	4	0	4	0	兼274		
学位又は称号	学士(芸術)		学位又は学科の分野				美術関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
学部共通科目から必修科目を含め30単位以上、学科専門科目から必修科目を含め94単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。 (履修登録の上限：1年次42単位、2～4年次49単位(年間))						1学年の学期区分			2学期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部共創デザイン学科)			
区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部 共通 科目	女子美基礎講座	入学時に大学教育という場への戸惑いを感じている学生を支援すること、そしてロールモデルを示し本学の建学の精神を共有していくことを目的として、4年後の自己の姿をイメージさせながら新入生の大学への順応を適当なものとするべく、学習スキル（ノートの取り方、レポートの書き方、図書館の利用法など）の習得や、望ましい学習態度や動機づけを獲得する。 （オムニバス方式／全15回） （7 奥山亜喜子／2回） 本授業の趣旨本学の建学精神、歴史について主に講義を行う。 （129 保科千寿子／3回） 様々な分野で活躍する本学卒業生をロールモデルとしての紹介しながら、卒業後の進路やキャリア形成の意識づけを行い、4年間の大学での学び方を考察させる。 （110 永澤桂／10回） 図書館の利用方法、レポート・論文の書き方、プレゼンテーションの仕方など、大学で学び、研究するために必要なスキルを身につける。	オムニバス方式
	女子美の教養	「いま」の社会で自立した人間として必要不可欠な教養、女子の「美術」大学で学びを深めるための土台としての教養を「知る」ことを目的として、人文、社会、自然の分野を中心に、実技分野も含めたオムニバス形式での授業を実施する。 （オムニバス方式／全15回） （7 奥山亜喜子、16 Cosgrove Simon James／1回）（共同） 女子美の教養科目のカリキュラムとこの授業の関係について説明し、授業の進め方、受講方法についてガイダンスを行う。 （16 Cosgrove Simon James／1回） 外国語に関する教養が美術大学での学びを深めるためにどのような点が必要か、気づきを与えるための授業を行う。 （12 三谷理華／1回） 西洋美術史に関する教養が美術大学での学びを深めるためにどのような点が必要か、気づきを与えるための授業を行う。 （17 橋山満照／1回） 東洋美術史に関する教養が美術大学での学びを深めるためにどのような点が必要か、気づきを与えるための授業を行う。 （7 奥山亜喜子／5回） 人文科学・社会科学系の教養が美術大学での学びを深めるためにどのような点が必要か、気づきを与えるための授業を行う。 （126 平野智洋／4回） 自然科学系の教養が美術大学での学びを深めるためにどのような点が必要か、気づきを与えるための授業を行う。 （118 沼下桂子／2回） 自立した女性として生きていくための知識、社会における女性の地位向上を実現するための教養を身につけるための学問の紹介を行う。	オムニバス方式、 共同（一部）
	身グ にロ っ け バ ル な 多 様 性 社 会 に 必 要 な 知 識 を	ジェンダーとアート研究	世界に2つしかない女子の美術大学として、アーティストおよびアートを研究する視点でジェンダーに関する問題について国内外に発信していくための実践的な方法を身に付けることを目的として、ジェンダーの視点でアート作品を読み解き、ディスカッションやプレゼンテーションを実施する。
	歴史の中の女性	家長長制がつくり上げた「性役割」に抑圧された日本女性の歴史の中で、性役割の抑圧からの解放の道筋を学びとることを目的として、差別という高い壁にはばまれながらも、平等に向かってめげずにたたかった日本の先輩女性たちの歴史的業績を学ぶ。さらに「家族や共同体の価値」と、家長長制との関係、そして戦争・国家との関係を読みとる方法を学ぶ。	
	女性と法	日本国憲法では男女の平等が謳われ、男女共同参画社会の形成が目指される現在において、依然として男性中心の視点にとらわれている法律学のあり方を見直し、女性の視点から問い直すことを目的として、女性に関連のある様々な問題を法的な側面から、事例研究を通じて探求していく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部共創デザイン学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 部 共 通 科 目	ジェンダー論	「生物学的性差」に対する「社会的性差」とのジェンダーという考え方について、知識と理解を深めることを目的とする。「男だからこうしなければならない」「女だからこうしなけれどいけない」と思っていることの大半は、生物学的に決まっていることではなくて、社会的に人がそう考えていることにすぎない。社会が当然だと想定している性差が、社会を変えてみるといかに「当然ではない」かを実感し、その過程を通じて、自分達が当然だとしていることを疑ってみる発想をするためのイントロダクションとする。	
	ジェンダーとアート概論	世界をどのようにとらえ、関わるのか、さらには、なぜ自分が作品を創作するのか、自分とは何者なのか、などの問いについて、広い視野を持てるようになること目的として、芸術と社会の関わりを考えるために、ジェンダーをはじめ、セクシュアリティ、人種、階級など様々な幅広い視点を提供し、現代の作家の作品や思想の他、芸術制度の構築にジェンダーがどのように関わってきたかを歴史的に考察し、現在の視覚表象の特徴を読み解く。	
	情報とアート	日々進化を遂げる情報技術とアートの関係性を理解することを目的として、人々の日常の思考や行動の様式が変わりつつあるグローバルに情報化された社会で求められる新しい表現を通じてアートはどのように変わっていくのか、ディスカッションやプレゼンテーションも取り入れて考察を深める。	
	人権・ダイバーシティとアート	近年、社会や文化の発展に不可欠であるとされるダイバーシティ(多様性)概念の根底にある、性別や人種、年齢、性格、学歴、そして価値観の違いを超えて個人を尊重するという人権尊重の基礎理念を理解することを目的として、プレゼンテーションやディスカッションを取り入れつつ、ダイバーシティ概念の意義を学び、それを阻害する人権問題をアートを通じて解決する方法を探る。	
	哲学	哲学の本源に遡って、知を愛するとはどういうことなのか、そして、哲学を学ぶとはどういうことなのか理解することを目的として、哲学の個々の学説や知識を歴史的、体系的に理解するだけでなく、“今、ここ”に私が人間として在ることの意味を、人間の歴史の全体に照らし合わせながら探求する。	
	歴史学	社会の仕組みや、往時の人々の感性・思考法に興味を向け、歴史的なものの見方に親しむことを目的として、古代から中世・近世・近現代にかけての、政治、制度、経済、社会、文化等の面で重要な論点と思われるテーマを選び学習する。	
	文学	文学の鑑賞と理解のための能力の醸成を目的として、今日の国際的な状況を踏まえ、国別の枠にとらわれることなく、文学概論、文学史、文学理論、文学批評、文化研究等を主題にして、文学や文化の基本的な知識、それらを学ぶための方法論について学習する。	
	文化人類学	人類学的あるいは民俗学的な視点からみた日本文化を理解することを目的として、民間信仰的な義礼や祭り、生活慣習・伝統芸能など日本各地でのさまざまなあり方を学び、ヨーロッパなどの民間信仰と比較するなかで、人類文化としての普遍的要素を考える。	
	思想史	文化を作り出してきたのは人間の考え方、思想であり、その自文化や異文化を深く理解することを目的として、「世界」「他者」「自己」を客観的に見る視点を得たうえで、宗教思想、社会思想を含めた古今東西の思想を学ぶ。	
	コミュニケーション論	コミュニケーションとは何か、その本質について理解を深めることを目的として、自らを取り巻く世界を認識し、相手の状況を把握することで効果的なコミュニケーションを図る方法を探り、さらに、異文化間コミュニケーション、コミュニケーション不安、電子メディアに依存したコミュニケーションといった現代的な課題についても学ぶ。	
比較文化論	世界の多様な文化を知り、文化とは何なのか理解を深めることを目的として、国内外のいくつかの事例を具体例として比較し、文化の多様性を受け入れる態度を養うとともに、文化間に共通する類似性を抽出することで、人類文化の普遍性とは何かを学ぶ。		
異文化理解	自分の持っている価値観やステレオタイプの考え方を客観的に捉えることを目的として、日本社会と日本文化を考察し、意見や疑問を共有する過程で、前提となっている文化や価値観を再発見することに加え、各自が興味のあるテーマについて調査、発表することで理解を深める。留学生、帰国子女学生、海外留学に興味のある学生を主な対象とする。		

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部共創デザイン学科)			
区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目	グローバルな多様性社会に必要な知識を身につける	言語学	世界には多様な言語が存在し、その背後にある多様な社会の存在を理解することを目的として、人間にとって言語とは何かを考え、国内外のいくつかの事例を具体例として比較し、多様性を認める態度を養うとともに、その間に共通する類似性を抽出することで、言語の普遍性とは何かを学ぶ。
		伝統文化論	日本の多様な伝統文化の根底にある共通の思想、背景についての理解を深めることを目的として、茶道、華道、そして伝統芸能(能・狂言・浄瑠璃・歌舞伎・舞踊)について実践も含め広く学び、現代の生活様式や芸術文化へ与える影響等について考える。
		法学(日本国憲法)	自分(国民)と社会、国家の関係を踏まえ、憲法を中心とした法を体系的に理解することを目的として、日本国憲法の理念、内容の再確認を出発点として、憲法をめぐる「いま」社会でどのような問題が起こっているか、自らの考え、見解を示せるように思考力を養う。
		社会福祉学	現代社会における社会福祉の存在意義・原理について理解することを目的として、社会的弱者の福祉の増進と権利の擁護、及びそのための援助の方法、技術、また行政政策、福祉を考えた社会的な基盤と構造について学ぶ。
		国際関係論	グローバル化が進む国際社会の現状と今後どのように変容していくのかを理解するために必要な基礎的教養を身に付けることを目的として、社会科学の基礎知識から国際関係の基本的な概念や理論、現代国際関係の枠組みまで学びを広げ、最終的にはグローバル時代における国際的な課題について理解を深めていく。
		経済学	クールジャパン政策のもと経済産業省にクリエイティブ産業課が設置されるなど、芸術文化にも経済に関する知識、経営・マネジメントの視点が欠かせないという理念が高まる中で、芸術文化と経済に関する現状の理解を目的として、市場経済についての基礎的な理論、事業活動の運営原理を学ぶ。
		観光学	文化・芸術を活用した観光事業の開発に携わる人材が求められている昨今における「観光」の構造を理解することを目的として、観光の文化、産業の両側面から、概念や歴史、そして現代の観光現象、関連産業について学ぶ。
		教育原論	教育についての基礎的な原理を理解することを目的として、日本の社会と学校で生起している教育事象、すなわち中学校・高等学校を中心とする公教育、および社会教育について、現状と問題点を明らかにするとともに、教育とは誰のためにどのような役割を果たしているのか、どのように保証されているのか、その中身が時代の変遷とともにどう変化してきたのかなどについて考察する。
		アートと法入門	アートに関わるすべての人(アーティスト、デザイナー、学芸員、キュレーター、サポーターそして鑑賞者)にとって必要な法について理解することを目的とする。表現の自由を出発点として著作権、意匠権など創作活動を守る法の意義、作品の展示、売買、貸借にかかわる契約の知識を基礎から学ぶ。
		芸術文化政策論	高度情報社会の中で、情報メディアやITネットワークを理解し、行政や企業の現場で活用できるようになることを目的として、美術、音楽、舞台芸術など、芸術に関する基本的な知識や理論を学び、その知識を踏まえた上で、これからの社会を展望する視野と企画立案能力に加え、地域社会に活力を生む政策や産業界をリードする戦略を生み出すスキルを養成する。
日本語A	留学生・帰国子女を対象とし、日本語の基本的な語彙・文法等の知識を確認し、それらを基盤に実際の日本語力の伸長を図ることを目的として、日常生活や大学生活で必要となる日本語の運用能力(読む、書く、聞く、話す)を養うほか、日本語の学習を通して、日本の文化や社会に対する理解を深める。		
日本語B	「日本語A」に引き続き、留学生・帰国子女を対象とし、日本語の基本的な語彙・文法等の知識を確認し、それらを基盤に実際の日本語力の伸長・定着を図ることを目的として、日常生活や大学生活で必要となる日本語の運用能力(読む、書く、聞く、話す)を修得するほか、日本語の学習を通して、日本の文化や社会に対する理解を深める。		

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部共創デザイン学科)			
区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目 グローバルな多様性社会に必要な知識を身につける	環境とアート	様々な環境における人の行動とアートとの関係について、自分ならこうする(こう創造する)といった積極的に考える視点を身につけることを目的として、物理的な環境のみにかかわらず、対人関係などの社会的環境も含めた総合的な環境と人との関係について学び、アートと環境の関係性やアートの社会性について理解し、周囲の環境を観察する力を養う。また、人と環境との関係や、人間の行動と心理について理解し、アートとデザインの起源と研究史を辿り、種々の視点と考え方を整理する。 (オムニバス方式/全15回) (88 柴崎由美子/8回) 主に様々な実践例を通して、社会・環境におけるアート活動の意義を理解する。 (43 梅田亜由美/7回) 主に研究発表を通して、社会・環境の在り方に対するアートの意義を考察する。	オムニバス方式
	身体とアート	身体(心と肉体)についてすでに身につけた知識とアーティスティックな表現の関係について考察を深めることを目的として、身体を対象にしたアート、身体を用いたアートなどさまざまなアプローチで身体性を追求し、広い意味での身体表現の現在、未来について鑑賞、実践を交えて学ぶ。	
	数理科学	応用分野や主変分野と関連している数理科学について、美術大学の学生として、美の世界に潜む数学の基本的知識から、AI、データサイエンスの導入が進む社会に生きる現代人として必要な数学的理解を身につけることを目的に、制作・研究に応用できる物理学、工学の理論の基礎を学ぶ。	
	生命科学	生命の営みという総合的学問を通して、生物学、化学などの基礎知識を学び、実社会や美術制作、研究に役立てる方法を考えることを目的として、エネルギー・環境・食料・人口といったグローバルな諸問題や、高齢化・少子化・情報化といった社会問題の本質を理解するための地球人としての教養を身につける。	
	心理学	自己を知り、人生について考える機会を与えることを目的として、精神分析学、行動主義、認知主義、人間主義など幅広く心理学の諸説を取り上げ、学習、動機づけ、知覚などの領域についても解説することで、心理科学がどのように人間を研究してきたかを理解する。	
	教育心理学	発達と学習の心理を基本に、親や教師になったときに、子育てや子どもの指導のヒントとなるような知識を身に付けることを目的として、人間の行動の法則性を研究する学問である心理学によって得られた知見の中から、発達と教育、性格の発達、思考の発達、青年期の心理、学習、動機づけと学習意欲など、基礎となる知識を学ぶ。	
	青年心理学	身体的成熟・恋愛の経験・進路の決定など不安定な心理に陥りやすい時期である青年期について理解することを目的として、対人関係・自己の心理、恋愛の心理、性的発達など青年期後期にある受講者にとって身近な事例を題材に取り上げ、青年期の心理について学習するとともに、受講者の自己理解を深める。	
	環境論	芸術やデザインの立場から実例を基に環境認識・評価・応用の仕方を学ぶことを目的として、身の回りの様々な生活と環境との関わりを見つめ、環境と人間の相互の影響力を自覚し、人間及び動植物とそれらを取り巻く外界の諸要素との関係について学ぶ。また、地球環境問題・公害・アメニティー等の自然・人文・社会科学に及ぶ広範な領域にも触れ、今後の環境像やライフスタイルの在り方を考察する。	共同
	スポーツ演習A	日常生活の基盤となる基礎体力及び運動能力を養うことを目的として、生涯スポーツにつながるテニス、卓球、バドミントン、バレーボール、ゴルフ等の球技種目を行い、仲間とのコミュニケーションを図りながらスポーツ活動を楽しむ。また、運動不足が深刻化している現代日本人の自己の健康管理や自己実現という点における生涯スポーツ活動の重要性を学ぶ。	
スポーツ演習B	日常生活の基盤となる基礎体力及び運動能力を養うことを目的として、創作ダンスを通じて、仲間とのコミュニケーションを図りながらスポーツ活動を楽しむ。また、運動不足が深刻化している現代日本人の自己の健康管理や自己実現という点における生涯スポーツ活動の重要性を学ぶ。		

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部共創デザイン学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 部 共 通 科 目	グ ロー バ ル な 多 様 性 社 会 に 必 要 な 知 識 を 身 に つ け る	健康科学A	自分のからだの構造と機能について科学的な知識を備えることを目的として、人体が動く仕組みや健康・体力に影響を及ぼす諸要因(運動・栄養・心理・環境など)について、実生活に生かせる形での実践的講義を行うとともに、健康増進や体力向上のための身体運動実習(主に各種球技)を行う。一生を通じて健やかな生活を送るために、人の体型や体力といったからだの特性には個人差があり、性・年齢によって異なる上に、生活環境の影響を大きく受けることを理解する。
		健康科学B	自分のからだの構造と機能について科学的な知識を備えることを目的として、人体が動く仕組みや健康・体力に影響を及ぼす諸要因(運動・栄養・心理・環境など)について、実生活に生かせる形での実践的講義を行うとともに、健康増進や体力向上のための身体運動実習(主にレクリエーションスポーツ、フィットネスエクササイズ等)を行う。一生を通じて健やかな生活を送るために、人の体型や体力といったからだの特性には個人差があり、性・年齢によって異なる上に、生活環境の影響を大きく受けることを理解する。
		精神保健	様々な「こころの病気」や「ストレスによって起こるからだの病気」(心身症)が生じている現代社会において、精神的な健康づくりの実践の重要性および基礎知識の習得を目的として、心の発達と障害・精神的疾患・精神保健医療・母性の精神保健などの人間性長発達に伴う精神機能の変化、精神発達や精神的健康・社会的不適応に影響する要因、精神状態と身体状態との関連などを理解し、精神的健康の維持増進に関する基礎知識や実践方法を体系的に学ぶ。
		行動心理学	人の行動を観察し、非言語コミュニケーション(ノンバーバルコミュニケーション)から相手の心理を読み取る行動心理学の理解を目的として、行動心理学がマーケティングやビジネスに取り入れられた事例の紹介を通じて、基礎的知識、理論を学ぶ。
		身体機能論	身体の機能を知り、身体感覚に意識を向け、感覚を呼び起こし実感することで、見過ごしてきた感覚を大切に行動し、思考していける身体へと発展することを目的とする。社会環境や対人関係などの変化や身の回りの些細な変化は、身体に多くの情報を伝え、その捉え方から気づきや発見を探る。また、身体の内と外で起こるさまざまな事象から、感覚機能は刺激を受けて知覚するが、知覚にまで至らぬ感覚や他者の感覚にも範囲を拡張し、独自の表現へと向かうプロセスを学ぶ。
	美 大 生 と し て の 基 礎 力 ・ 創 造 力 を 養 う	音楽とアート	音楽とアートの関係性への理解を深めることで、創作活動の幅を広げ、芸術表現の多様性を理解することを目的とし、美術が音楽と接触することでの化学反応を養分としてきた関係性を、少人数のゼミ形式による授業で、実体験を通して学ぶ。
		古美術研究	古美術を通して日本の伝統文化や美意識に触れ、自らの鑑賞眼を養うことを目的として、主に奈良県・京都府さらには滋賀県など、関西地方の古社寺や博物館などに伝来・収蔵される仏像、障壁画、建築などの古美術を約一週間の行程で見学旅行を行う。
		西洋美術史概説	西洋美術史の全体像を把握することを目的として、古代から近代に至る西洋美術史上の絵画や彫刻、建築、工芸など諸分野におよぶ歴史的な流れについて取り上げ、美術大学にふさわしい美術史の知識の習得を図る。
		西洋美術史特論A	古代から中世の西洋美術史の基礎知識を習得することを目的として、美術作品としてその基本を形成する作家、作品、様式などの中から特色あるテーマを設定し、それについての講義を通じて西洋美術に対する知識や認識を得ることで、美術やアートの世界を理解する。
		西洋美術史特論B	中世・ルネサンス以降、近・現代にいたる西洋美術史の基礎知識を習得することを目的として、美術作品としてその基本を形成する作家、作品、様式などの中から特色あるテーマを設定し、それについての講義を通じて西洋美術に対する知識や認識を得ることで、美術やアートの世界を理解する。
西洋美術史特論C	主として西洋近現代の美術史および芸術学全般の基礎知識を習得することを目的として、今日のアートシーンや創作活動につながる芸術理論と作品の関係性について特色あるテーマを設定し、それについての講義を通じて西洋美術に対する知識や認識を得ることで、美術やアートの世界を理解する。		

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部共創デザイン学科)			
区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 部 共 通 科 目	美 大 生 と し て の 基 礎 力 ・ 創 造 力 を 養 う	日本美術史概説	日本美術史の全体像を把握することを目的として、古来、東アジアの一員として中国などを手本に独自の美術文化を育んできた歴史を有し、近代以降にあっては西洋化が加わって今日的な状況をみるに至っている日本美術について、脈々と形成されてきた絵画・彫刻・工芸・建築等に諸分野におよぶ歴史的な流れを考察する。
		日本美術史特論A	古来、中国をはじめ西欧等外来の文化に学びつつ、今日まで個性豊かな表現世界を作り上げてきた日本美術史への理解を深めることを目的として、長い歴史の中で形成してきた日本美術の多彩な分野の中から、主に時代を軸に個別のテーマを設定し、美術史の基礎知識の習得を図る。
		日本美術史特論B	古来、中国をはじめ西欧等外来の文化に学びつつ、今日まで個性豊かな表現世界を作り上げてきた日本美術史への理解を深めることを目的として、長い歴史の中で形成してきた日本美術の多彩な分野の中から、主にジャンルを軸に個別のテーマを設定し、美術史の基礎知識の習得を図る。
		日本美術史特論C	古来、中国をはじめ西欧等外来の文化に学びつつ、今日まで個性豊かな表現世界を作り上げてきた日本美術史への理解を深めることを目的として、長い歴史の中で形成してきた日本美術の多彩な分野の中から、主に外来の影響に関する個別のテーマを設定し、美術史の基礎知識の習得を図る。
		東洋美術史概説	東洋美術史の全体像を把握することを目的として、様々な民族や宗教を背景に生まれ、多彩な造形世界を創り上げてきた東洋美術の世界について、地域や時代を代表する作品を通じて概観し、美術・芸術がもつ多様性を学ぶと共に、美術史の基礎知識の習得を図る。
		東洋美術史特論A	美術を通して国際的な視野を養うことを目的に、伝統的な西洋美術概念には収まりきれない様々な民族文化を背景にもつ東洋美術が織りなす多彩な造形世界の中から、主としてアジアの諸地域間で共通するテーマを設定し、日本を含む東洋美術史の基礎知識の習得を図る。
		東洋美術史特論B	美術を通して国際的な視野を養うことを目的に、伝統的な西洋美術概念には収まりきれない様々な民族文化を背景にもつ東洋美術が織りなす多彩な造形世界の中から、主としてアジアに特有の造形文化に関する個別テーマを設定し、日本を含む東洋美術史の基礎知識の習得を図る。
		美学	創作活動あるいは研究活動のために必要な要素としての美学の考察を目的とし、古代ギリシャ・中世・近世・近代の各時代を代表する美学思想及び芸術館の流れを講じ、いくつかの美学上のテーマを選び、美術の本質について思想的・社会的背景をもって追求する。
		現代美学	美の本質・基準・価値をめぐる哲学としての伝統的美学研究に対し、近年重要性が高まってきている近代以降の実存主義・分析哲学・ポスト構造主義等によるアプローチに端を発した個別的美的経験・芸術領域・芸術と他の人間活動との関係を対象とする現代的美学研究の理解を目的とする。今日の現代美術が社会の諸問題に積極的に関わるようになりつつある状況下において必要とされる、現在の文化、社会、思想のすべてを視野に入れた今日の美学研究の可能性について考察を行う。
		芸術学A	身体表現のもつ芸術性について理解することで、自己の創作・研究に活かすことを目的とし、演劇や舞踊、伝統芸能など、舞台で行われる身体表現としての創作・演技の理論や技能に関するテーマを学ぶ。
		芸術学B	映像表現のもつ芸術性を理解することで、自己の創作・研究に活かすことを目的とし、映画、アニメーションのほか、メディア芸術など、様々な映像表現についての歴史・理論・批評に関するテーマを学ぶ。
		芸術学C	音楽の基本要素(リズム・メロディー・ハーモニー)に加え、中世音楽から現代音楽まで幅広く理解することで、自己の創作・研究に活かすことを目的とし、各時代の音楽の特徴について学び、様々な珍しい楽器を紹介する。また、西洋音楽のみならず、ワールドミュージックも取り上げ、世界中の音楽について多角的に学習することに加え、音楽理論と歴史の基礎知識のほか、楽譜やレコーディング技術の発展等について具体的に学ぶ。
		現代美術論	新しいものの見方をコンセプトとして提出したり、社会の諸問題について言語以外の方法で言及したり、また、混沌とする思想状況を直観的な方法で切り裂こうとする今日のアートについての理解を深めることを目的として、現在注目されているアーティストや展覧会を取り上げながら、それらが表現しようとしているものを、その背景・社会状況にまで踏み込んで幅広く学ぶ。

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部共創デザイン学科)			
区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
美大生としての基礎力・創造力を養う 学部共通科目	デザイン史A	産業革命以降に始まった近代デザインの変遷を理解することを目的として、国際的な視座にたち、産業や社会構造、メディア等の発達との関連から考察する。また、様々なデザインの生成について、その背景を階層立てて構造的に展望することで、デザイン概念の変遷を問う。	
	デザイン史B	現代デザインの成り立ちを理解することを目的として、国際的な視座にたち、産業や社会構造、メディア等の発達との関連から考察する。また、様々なデザインの生成について、その背景を階層立てて構造的に展望することで、デザイン概念の変遷を問う。	
	印刷概論	印刷技術が及ぼした影響および表現方法としての印刷への理解を深めることを目的として、グラフィックデザインと深くかかわりながら、時代を拓いた各種の技術開発がデザイン表現の拡充に及ぼした影響をたどることに加え、版、活字、用紙、インクなどは版画と共通する部分も多く、デザイン領域のみならず表現手段の多様性という観点から印刷を学ぶ。	
	美術解剖学A	美術表現の対象となり得るものの内、主に人体の形態や構造、運動のメカニズムなどへの理解を深めることを目的として、美術解剖学において重視されている体表に直接影響を及ぼす部位の中から、骨格系を中心に取り上げ、人体の仕組みについて学ぶ。	
	美術解剖学B	美術表現の対象となり得るものの内、主に人体の形態や構造、運動のメカニズムなどへの理解を深めることを目的として、美術解剖学において重視されている体表に直接影響を及ぼす部位の中から、骨学的知識を基礎とする筋学を中心に取り上げ、人体の仕組みについて学ぶ。	
	図学A	立体概念や空間への思考力、および図による形の伝達力を養うことを目的として、3次元の立体を2次元の平面に変換する表現方法としての正投影を学ぶ。一般的に造形活動の中では主観的な形の表現であるのに対して、ここでは客観的な表現をめざす。	
	図学B	立体概念や空間への思考力、および図による形の伝達力を養うことを目的として、3次元の立体を2次元の平面に変換する表現方法としての自然の視覚に近い単画面投影(さまざまな遠近法を含む)の図法を学ぶ。一般的に造形活動の中で主観的な形の表現に対して、ここでは客観的な表現をめざす。また、デザインなどで使用する説明的な図の表現法や、絵画と図法の関わりも積極的に考える。	
	書道A	文字を書くことはその人の持つ精神性や詩歌を表現することであり、その方法は、古典の臨書による技術の向上と古代人の心を読み取ること、文字を素材として自己を吐露することの2つがある。この2つの総合的な習得を目的として、主に臨書を中心とし、各書体の基礎的用筆法や特性を知り、伝統的な造形を味わうことに加え、それらを裏付ける書道史を取り入れ、実践と理論の両面から探る。書体の母体である「楷書」を中心に扱い、書写能力を養う。	
	書道B	文字を書くことはその人の持つ精神性や詩歌を表現することであり、その方法は、古典の臨書による技術の向上と古代人の心を読み取ること、文字を素材として自己を吐露することの2つがある。この2つの総合的な習得を目的として、主に臨書を中心とし、各書体の基礎的用筆法や特性を知り、伝統的な造形を味わうことに加え、それらを裏付ける書道史を取り入れ、実践と理論の両面から探る。主に古典の臨書による書技や知識を自己の表現活動に発展させ、半紙に限らず条幅作品など芸術の書として個性豊かな作品作りをめざす。	
	文化遺産学	従来の文化財の概念を基礎に、社会科学や自然科学の諸学を加えた新しい視座に立って過去と未来を結ぶ総合科学として提唱された文化遺産学への理解を目的として、文化財の調査・研究を通じ、人文・社会・自然の諸科学を融合し、文化資源としての活用等を含む新たな方法論、「学問のための学」の枠を越えた普遍理論の構築に向けた「知の再編成」の可能性を探る。	
	写真史	記録や表現手段、さらにはコミュニケーションツールとしての写真の在り方を理解し、創作・研究の視野を広げることを目的に、19世紀前半に写実的疑似絵画として登場して以来、200年足らずのうちに劇的な進化を遂げ、今や日常生活に欠かすことのできない身近な視覚メディアとなっている写真について、視覚文化としての側面から、技術や表現の歴史を学ぶ。	
	色彩学A	色彩現象の基礎について理解することを目的として、色と感覚、光の性質と照明、混色、色覚理論と視覚器の構造・機能、色覚の神経科学と色覚特性・ユニヴァーサルデザイン、色の心理現象について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(芸術学部共創デザイン学科)				
区分 科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学部 共通 科目	造美大生と 養うとして の基礎力・創	色彩学B	「色彩学A」の内容に基づき、その発展的な内容について理解することを目的として、測色の原理、物体色・光源色の色名、色票集、マンセル表色系とJIS、オストワルト表色系とCHM、P.C.C.S.と配色調和理論、NCS、CIEXYZ表色系と色彩管理、色と文化について学ぶ。	
		造形心理学	美術やデザインの創作過程と鑑賞過程との分析・作品の客観的な特徴とその心理的効果について理解することを目的として、心理学の方法論による美術やデザインについての研究を紹介する。作品における線・色・形・奥行き・動き等の各要素が持つ物理的側面と、そこから知覚・認知される心理的側面との関係をテーマに、どのような創作過程によりどのような鑑賞内容が得られるのかという心理効果について、作品例に基づく実体験を通して考察する。	
	アート を社会と 生活に生かす	プロジェクト・スタディーズ	コミュニティ・ライフに興味をもち、それを理解するよう方向づけ、コミュニティにおける社会問題に取り組み、それについて分析し、社会を改善するための準備を行えるようになることを目的とする。コミュニティの一員として、女性、アートの観点から伝統文化・地域福祉・幼児教育・環境保護・災害復興・人権・SDGsに関する地域貢献活動に関わることによって、そこで必要とされることに対処する経験を積むことで、何が必要かを考え作品制作を通して、表現することの喜びと社会とのつながりについて学ぶ。	
		アーティスト・イン・レジデンス	美術やデザインをグローバルに展開する実践力を養うことを目的として、学外のアーティストによるアーティスト・トーク、レクチャー、ワークショップなどの交流プログラムの実施を含むアーティスト・イン・レジデンスサポート等を通して芸術家の育成について実践的に学ぶ。	
		国際芸術プログラム	海外大学および本学における研修、プログラムまたは留学を通じて異文化の中で芸術表現や研究活動を展開し、美術、デザインという国際的な領域を学ぶ学生にとって必要な国際感覚や心構え、語学力・コミュニケーション能力を涵養することを目的とする。本学が企画する海外大学における研修プログラムや共同授業に参加、あるいは本学の学術交流協定大学において協定海外留学生として現地授業科目を履修する。または、本学が企画する国際交流プログラム及び語学プログラムに参加する。	
		地域共創学	大学を取り巻く地域社会への理解し、アートやデザインで社会に貢献できる課題を見つけ提案できるようになることを目的として、地域社会と協働して課題を提案・解決しながら、アートの学びを基に相互理解とより良い社会環境づくりを目指す。	共同
		アーティスト・イン・レジデンス概論	アーティスト、クリエイターとしてのキャリア形成の場である「アーティスト・イン・レジデンス (AIR)」の基礎知識を学ぶ。AIRの意義、国内外のAIRの事例、アーティストの実践例、また、AIRにアクセスするための方法などを幅広く学び、自らが実践するにあたっての目標設定、計画ができたかを達成目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (10日沼禎子/4回) AIRの歴史、存在意義を概説したうえで、学部教育における学習目標と学習計画の立案を行う。 (60金森香/6回) AIRを通じたアーティスト、クリエイターにとってのAIRの意義、多様な表現、成果を学び、専門分野への興味と関心を深めさせる。 (114中村友美/5回) 多様なAIRの現場と、運営のあり方、文化政策としてのAIRの位置付けなどを解説するとともに、実地見学体験を通して、専門分野への興味と関心を深めさせる。	オムニバス方式
		カラーコーディネート基礎	色が人に与える効果への理解を目的として、商業・環境に関する色彩の専門知識を学び、営業や企画・広報、マーケティングなど幅広くビジネスに応用できる能力を養う。また、カラーコーディネーターの資格取得のサポートを行う。	
		表現と癒しの営み	芸術療法についての体系的理解を目的として、心理学、精神医学を概観したうえで、表現精神病理学、病跡学の基本的概念を紹介する。また、芸術療法の歴史的経緯から、絵画療法、音楽療法、詩歌療法等の各手法について学び、癒しをテーマとした表現方法への理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(芸術学部共創デザイン学科)				
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学 部 共 通 科 目	ア ー ト を 社 会 と 生 活 に 生 か す	子ども発達論	子ども(乳幼児、児童)の心や身体の発達、言語・音楽、造形表現の発達についての総合的な理解を目的として、子どもの発育・成長に伴う心の変化・自立など、母体からその発達と成長について論じ、発達支援の在り方についても研究する。また、子どもを対象に行うワークショップのあり方やその内容について実践的に取り組んだ事例を解説し、各自が考えるワークショップを提案する。	
		インテリアデザイン史	日本の気候風土の中で時間をかけて培われた日本独自の住文化をインテリアデザインの視点から考察し、現代を代表する建築・インテリアの作品を通してこれからの住空間の在り方・方向性を探ることを目的とする。住空間の歴史の変遷(中世の和歌や文学が語る日本の住空間、空間の精神性・象徴性)、庵、茶室・能舞台などの日本独特の空間の持つ意義、様式・調度・意匠(書院造り・数寄屋建築などに見る室内構成)、今後の住環境(環境破壊・高齢化などの現代の抱える問題と住環境の在り方など)について学ぶ。	
		インターンシップ ¹	実務能力を高める道を拓くことを目的として、各自が専攻する教育課程に関連を持つ職業や、学生自身が希望する将来の職業・職種に関連する企業・自治体等の現場において、一定期間、実習・研修の形態で就業体験を行う。企業・自治体等からの公募・派遣要請により実施するので、具体的な内容は各企業等により異なる。実習期間は約1週間。	
		インターンシップ ²	実務能力を高める道を拓くことを目的として、各自が専攻する教育課程に関連を持つ職業や、学生自身が希望する将来の職業・職種に関連する企業・自治体等の現場において、一定期間、実習・研修の形態で就業体験を行う。企業・自治体等からの公募・派遣要請により実施するので、具体的な内容は各企業等により異なる。実習期間は約2週間。	
		インターンシップ ³	実務能力を高める道を拓くことを目的として、各自が専攻する教育課程に関連を持つ職業や、学生自身が希望する将来の職業・職種に関連する企業・自治体等の現場において、一定期間、実習・研修の形態で就業体験を行う。企業・自治体等からの公募・派遣要請により実施するので、具体的な内容は各企業等により異なる。実習期間は約3週間。	
		インターンシップ ⁴	実務能力を高める道を拓くことを目的として、各自が専攻する教育課程に関連を持つ職業や、学生自身が希望する将来の職業・職種に関連する企業・自治体等の現場において、一定期間、実習・研修の形態で就業体験を行う。企業・自治体等からの公募・派遣要請により実施するので、具体的な内容は各企業等により異なる。実習期間は約4週間。	
		博物館概論	明治の近代化装置の一つとして生まれた日本のミュージアム(広義の博物館)についての理解を深めることを目的として、ミュージアムの中でもとくに美術館にウエイトを置きながら、ミュージアムの目的と機能、歴史、現状、ミュージアム倫理、関連法規、生涯学習とミュージアムなどについて検討・考察し、今後あるべきミュージアムの方向を探る。	
		キャリア形成A	自分の生き方・働き方を考え、自分の未来像をデッサンしていくことを目的とする。まず、本当の自分を知る「自己理解」から始め、その後自分を取り巻く環境を知り、「職業理解」や「社会理解」へ進んでいく中で、大学時代に何を学ぶか、目標を設定する。それを実現するために必要な能力を知り、グループワークなどを通してコミュニケーションの基本を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (52 岡崎浩二/11回) 自己理解、職業理解、社会理解、コミュニケーションの基本と実践について講義する。 (46 遠藤美穂子/1回) 女性の働き方について講義する。 (143 門馬昌道/3回) 社会が求めているビジネスマナーおよび就職活動で必要となる文章の書き方を講義する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部共創デザイン学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 部 共 通 科 目	ア ー ト を 社 会 と 生 活 に 生 か す	キャリア形成B 自分の生き方・働き方を考え、自分の未来像をデッサンしていくことを目的とする。卒業後の進路・職業を紹介しながら、適職研究を進め、更に社会人として必要な基礎力、特に課題解決力・チームワーク力・自己表現力・対人マナーの向上を図り、キャリア形成に向けて「広がりのある自分づくり」を進める。 (オムニバス方式/全15回) (52 岡崎浩二/11回) 進路情報の調べ方、各業界の現状、キャリアの表現方法について講義する。 (46 遠藤美穂子/1回) 様々な業界の現状と将来性について講義する。 (143 門馬昌道/3回) ファシリテーションによる課題解決方法、アイデアの発想法や発表スキルについて講義する。	オムニバス方式
		キャリア形成C 1年次に立てた進路を見直して自分の成長度を確認し、目指す進路に就くための能力を磨くことを目的とする。前半は様々な職種と働くシーンを理解し、自分にあった仕事を見つめ直す。後半はその仕事に就くために求められる能力・技術を知り、就職活動に向けて自分の進みたい方向を具体化し、その方向への基礎準備のための情報収集とスキルアップを目指す。 (オムニバス方式/全15回) (52 岡崎浩二/11回) ポートフォリオ制作のポイント、卒業生の進路・職種から適職について講義する。また世の中の動きに基づく職種の紹介を行う。 (46 遠藤美穂子/1回) 就職活動におけるエントリーシートで企業が見ているポイントについて講義する。 (143 門馬昌道/3回) 就職活動におけるイメージ作りとマナーアップ、様々な業界の現状と将来性について講義する。	オムニバス方式
		キャリア形成D 就職活動だけでなく、仕事をする上で必要なスタンスやスキルも身につけることを目的とする。就職試験対策(筆記試験対策・面接対策など)を中心に、就職のためのポートフォリオ、面接、インターン等について学ぶ。また、就職活動に関する知識だけでなく、「考える力」と「伝える力」を身につける。時事問題をテーマとしたディスカッションを実施し、一般常識や人に伝える力も身につける。 (オムニバス方式/全15回) (52 岡崎浩二/11回) 美大生が多くエントリーする業界や企業に加え、様々な働き方(公務員・教員・NP0・起業)について紹介する。自己分析、インターシップについて講義する。就活疑似体験を行う。 (46 遠藤美穂子/1回) 履歴書・エントリーシートの書き方について講義する。 (143 門馬昌道/3回) ビジネスマナーを中心とした就職疑似体験を行う。	オムニバス方式
		情報メディア基礎演習 インターネットの仕組みやWeb技術をはじめとしたコンピュータの基礎、情報通信社会について理解することを目的として、メディアコミュニケーション、情報・論文・画像検索、動画共有を含む情報発信など、ICT活用や課題解決の方法を学ぶ。さらに急速な学修環境の変化の中で必要とされる情報リテラシーとして、オンライン会議、文章作成、表計算、プレゼンテーション、画像・動画作成、情報セキュリティ、情報倫理など、情報機器の操作から機器を扱う上で必要な社会的ルールについても習得する。	
	語学力を高め世界で活躍する	Joshibi Foundation English A 中学校および高等学校で学習した英語の基本的な語彙・文法等の知識を確認し、英語の基礎的な運用能力(読む、書く、聞く、話す)を強化するとともに、それらを基盤とした英語力を養うことを目的とする。英語を通して世界の様々な文化に触れることで、自らの持つ文化を改めて見直し、より深く理解するとともに、複眼的な物の見方を養う。テーマとして、主にアート(西洋美術、グラフィティ、浮世絵等)とファッションを扱う。	
	Joshibi Foundation English B 「Joshibi Foundation English A」に引き続き、英語の基本的な語彙・文法等の知識を確認し、英語の基礎的な運用能力(読む、書く、聞く、話す)の定着を図るとともに、それらを基盤とした英語力の伸長を目的とする。英語を通して世界の様々な文化に学び理解を深める。テーマとして、主に英語圏の文化やイベントを扱う。		

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部共創デザイン学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 部 共 通 科 目	語 学 力 を 高 め 世 界 で 活 躍 す る	Joshihi Art English A	これまで積み上げた英語力をアートに関わるさまざまな場面で使えるように仕上げていくことを目的とする。本学ならではの英語教材を通して4つのスキル(読む・書く・聞く・話す)を養い、幅広くアート作品を英語で検討し、プレゼンテーションや討論を実施する。また、アートに関するオーセンティックなニュース等を用いて、英語を通して世界の様々な文化や芸術に対する理解を深める。主にヨーロッパの美術をテーマとして扱う。美術を中心に一定以上の英語力を持つ者を対象とする。
		Joshihi Art English B	これまで積み上げた英語力をアートに関わるさまざまな場面で使えるように仕上げていくことを目的とする。本学ならではの英語教材を通して4つのスキル(読む・書く・聞く・話す)を養い、幅広くアート作品を英語で検討し、プレゼンテーションや討論を実施する。また、アートに関するオーセンティックなニュース等を用いて、英語を通して世界の様々な文化や芸術に対する理解を深める。主にプレゼンテーション技巧を高めることを重点的に行う。美術を中心に一定以上の英語力を持つ者を対象とする。
		English in Film and the Performing Arts A	映画や舞台芸術における英語についての理解を深め、映画や音楽、演劇などの幅広い分野について議論や分析ができる実践的な英語力を身につけることを目的とする。舞台芸術の歴史を英語で紹介し、映画及び演劇の台本や歌の歌詞を通して、各時代・地域・ジャンルによる英語のニュアンスを分析する。英語の字幕の書き方を練習するほか、授業で使用了素材をもとに、グループで独自の台本を作成し上演する。主に20世紀の映画をテーマとして扱う。原則「Joshihi Foundation English」・「Joshihi Global English」・「English Conversation」のいずれかを修了した学生を対象とする。
		English in Film and the Performing Arts B	映画や舞台芸術における英語についての理解を深め、映画や音楽、演劇などの幅広い分野について議論や分析ができる実践的な英語力を身につけることを目的とする。舞台芸術の歴史を英語で紹介し、映画及び演劇の台本や歌の歌詞を通して、各時代・地域・ジャンルによる英語のニュアンスを分析する。英語の字幕の書き方を練習するほか、授業で使用了素材をもとに、グループで独自の台本を作成し上演する。主に音楽(歌の歌詞やミュージカル映画)と演劇をテーマとして扱う。原則「Joshihi Foundation English」・「Joshihi Global English」・「English Conversation」のいずれかを修了した学生を対象とする。
		Joshihi Global English A	海外の文化への理解を深め、現在の国際的問題について英語で議論ができるようになることを目的とする。地球温暖化・男女平等・SNS等、幅広く現代のグローバル問題を通して英語力を身につけ、ディスカッションスキルを高める。また、「Joshihi Foundation English」で紹介された語彙・文法等をベースに、国際的なアートについて学ぶ。
		Joshihi Global English B	海外の文化への理解を深め、現在の国際的問題について英語で議論ができるようになることを目的とする。環境問題・教育問題・ゲーム中毒等、幅広く現代のグローバル問題を通して英語力を身につけ、ディスカッションスキルを高める。また、「Joshihi Foundation English」で紹介された語彙・文法等をベースに、国際的なアートについて学ぶ。
		English Conversation A	実践的な英語の会話力の定着を目的として、基本的な語彙・文法等の知識を再確認する。また、英語による音声コミュニケーションを通じて、英語圏の文化に対する理解を深めるとともに、英語の国際語としての役割への意識を高める。主にキーワードやイディオムをテーマとして扱う。
		English Conversation B	実践的な英語の会話力の定着を目的として、基本的な語彙・文法等の知識を再確認する。また、英語による音声コミュニケーションを通じて、英語圏の文化に対する理解を深めるとともに、英語の国際語としての役割への意識を高める。主に英語圏の文化や習慣をテーマとして扱う。
		フランス語 I A	初学者を対象としてフランス語の入門となる基礎知識の習得を目的とする。アルファベットの読み方から始め、フランス語の基礎的な発音、基本文法、基礎的な語彙を学習するとともに、フランス語の基礎的な運用能力(読む、書く、聞く、話す)を養う。また、フランス語が担っている文化に触れることで、自らの持つ文化をより深く理解し、複眼的な物の見方を養う。
		フランス語 I B	「フランス語 I A」に引き続き、初学者を対象としてフランス語の入門となる基礎知識の習得を目的とする。フランス語の発音を身につけ、基本文法をマスターし基礎的な語彙の習得を図るとともに、フランス語の基礎的な運用能力(読む、書く、聞く、話す)を養う。また、フランス語が担っている文化に触れることで、自らの持つ文化をより深く理解し、複眼的な物の見方を養う。

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部共創デザイン学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
語 学 力 を 高 め 世 界 で 活 躍 す る 学 部 共 通 科 目	イタリア語ⅠA	初学者を対象としたイタリア語の入門となる基礎知識の習得を目的とする。アルファベットの読み方から始め、イタリア語の基礎的な発音、基本文法、基礎的な語彙を学習するとともに、フランス語の基礎的な運用能力(読む、書く、聞く、話す)を養う。また、イタリア語が担っている文化に触れることで、自らの持つ文化をより深く理解し、複眼的な物の見方を養う。	
	イタリア語ⅠB	「イタリア語ⅠA」に引き続き、初学者を対象としたイタリア語の入門となる基礎知識の習得を目的とする。イタリア語の発音を身につけ、基本文法をマスターし基礎的な語彙の習得を図るとともに、イタリア語の基礎的な運用能力(読む、書く、聞く、話す)を養う。また、イタリア語が担っている文化に触れることで、自らの持つ文化をより深く理解し、複眼的な物の見方を養う。	
	ドイツ語ⅠA	初学者を対象としたドイツ語の入門となる基礎知識の習得を目的とする。アルファベットの読み方から始め、ドイツ語の基礎的な発音、基本文法、基礎的な語彙を学習するとともに、ドイツ語の基礎的な運用能力(読む、書く、聞く、話す)を養う。また、ドイツ語が担っている文化に触れることで、自らの持つ文化をより深く理解し、複眼的な物の見方を養う。	
	ドイツ語ⅠB	「ドイツ語ⅠB」に引き続き、初学者を対象としたドイツ語の入門となる基礎知識の習得を目的とする。ドイツ語の発音を身につけ、基本文法をマスターし基礎的な語彙の習得を図るとともに、ドイツ語の基礎的な運用能力(読む、書く、聞く、話す)を養う。また、ドイツ語が担っている文化に触れることで、自らの持つ文化をより深く理解し、複眼的な物の見方を養う。	
	中国語ⅠA	初学者を対象とした中国語(標準的な北京語)の入門となる基礎知識の習得を目的とする。中国語の基礎的な発音、基本文法、基礎的な語彙を学習するとともに、中国語の基礎的な運用能力(読む、書く、聞く、話す)を養う。また、中国語が担っている文化に触れることで、自らの持つ文化をより深く理解し、複眼的な物の見方を養う。	
	中国語ⅠB	「中国語ⅠA」に引き続き、初学者を対象とした中国語(標準的な北京語)の入門となる基礎知識の習得を目的とする。中国語の発音を身につけ、基本文法をマスターし、基礎的な語彙を習得するとともに、中国語の基礎的な運用能力(読む、書く、聞く、話す)を養う。また、中国語が担っている文化に触れることで、自らの持つ文化をより深く理解し、複眼的な物の見方を養う。	
	フランス語ⅡA	「フランス語ⅠA・B」で学習した基本的な学習事項(発音、語彙、文法等)の定着を目的として、基盤となるフランス語の運用能力(読む、書く、聞く、話す)の伸長を図る。また、フランス語が担っている文化に対する理解を深める。原則「フランス語ⅠA・B」をすでに履修した者を対象とする。	
	フランス語ⅡB	「フランス語ⅡA」に引き続き、基本的な学習事項(発音、語彙、文法等)の定着を目的として、基盤となるフランス語の運用能力(読む、書く、聞く、話す)の伸長を図る。また、フランス語が担っている文化に対する理解をさらに深める。原則「フランス語ⅠA・B」をすでに履修した者を対象とする。	
	イタリア語ⅡA	「イタリア語ⅠA・B」で学習した基本的な学習事項(発音、語彙、文法等)の定着を目的として、基盤となるイタリア語の運用能力(読む、書く、聞く、話す)の伸長を図る。また、イタリア語が担っている文化に対する理解を深める。原則「イタリア語ⅠA・B」をすでに履修した者を対象とする。	
	イタリア語ⅡB	「イタリア語ⅡA」に引き続き、基本的な学習事項(発音、語彙、文法等)の定着を目的として、基盤となるイタリア語の運用能力(読む、書く、聞く、話す)の伸長を図る。また、イタリア語が担っている文化に対する理解をさらに深める。原則「イタリア語ⅠA・B」をすでに履修した者を対象とする。	
ドイツ語ⅡA	「ドイツ語ⅠA・B」で学習した基本的な学習事項(発音、語彙、文法等)の定着を目的として、基盤となるドイツ語の運用能力(読む、書く、聞く、話す)の伸長を図る。また、ドイツ語が担っている文化に対する理解を深める。原則「ドイツ語ⅠA・B」をすでに履修した者を対象とする。		

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部共創デザイン学科)			
区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部共通科目	ドイツ語ⅡB	「ドイツ語ⅡA」に引き続き、基本的な学習事項(発音、語彙、文法等)の定着を目的として、基盤となるドイツ語の運用能力(読む、書く、聞く、話す)の伸長を図る。また、ドイツ語が担っている文化に対する理解をさらに深める。原則「ドイツ語ⅠA・B」をすでに履修した者を対象とする。	
	中国語ⅡA	「中国語ⅠA・B」で学習した基本的な学習事項(発音、語彙、文法等)の定着を目的として、基盤となる中国語の運用能力(読む、書く、聞く、話す)の伸長を図る。また、中国語が担っている文化に対する理解を深める。原則「中国語ⅠA・B」をすでに履修した者を対象とする。	
	中国語ⅡB	「中国語ⅡA」に引き続き、基本的な学習事項(発音、語彙、文法等)の定着を目的として、基盤となる中国語の運用能力(読む、書く、聞く、話す)の伸長を図る。また、中国語が担っている文化に対する理解をさらに深める。原則「中国語ⅠA・B」をすでに履修した者を対象とする。	
学科専門科目	共創デザイン演習Ⅰ-A	異分野とのコラボレーション(共創)のためのクリエイティブリーダーシップを身につけることを目的として、すべての学生が様々な役割におけるリーダーを繰り返し担当する授業を通して、早い段階での失敗を経験することで、失敗を次のチャレンジの糧にするまでを体得する。また、失敗を恐れないマインドセットを習得し、仮説から検証までのサイクルのスピードを上げ、チームでの価値創造を経験する。	
	共創デザイン演習Ⅰ-B	デザインの基本となる体験価値の創造の起点となるユーザーの行動や心理をつかむ代表的なリサーチ手法の理解を目的として、アンケートなどを使い、大きく動向をつかむための「定量調査」と、観察やインタビューなどにより深く掘り下げる「定性調査」について、課題を通して能動的に実施し、その情報の中から有意な発見を導く方法について学ぶ。	共同
	共創デザイン演習Ⅰ-C	グラフィックデザインの基礎である、エディトリアル、タイポグラフィ、インフォグラフィックスの技術の体得を目的として、課題を通して、ポスター、冊子、カタログ、Webデザインを実践する。また、写真撮影技術のほかグラフィックデザインの基礎的なスキルを応用し、各自の実績をアピールするポートフォリオ等のグラフィックデザインの作成を通して、2次元デザインツールを使ったコミュニケーション・伝達表現手法を学ぶ。	共同
	共創デザイン演習Ⅰ-D	本学科学生がデザインを思考し、表現し、伝達するために使用するiPadを駆使し、イラストレーター、フォトショップなどの基礎スキルに加え、さまざまなアプリケーションを使いこなせるようになることを目的とする。自らの考え方やデザインをスピーディーにわかりやすく伝えるイラストレーションの手法を学び、デザイン力と共に他者とのコミュニケーションツールとして活用する技術を身につける。	
	共創デザイン演習Ⅰ-E	プロダクトデザインにおける造形的に美しいバランスや総合的な美意識を身につけ、立体造形素材の種類と扱い方、表現方法を習得することを目的とする。基礎となる立体造形の基本を学び、世の中にある様々な作品・製品事例を通して、自らのデザインした形状をスケッチとラピッドプロトタイプモデルで表現し、立体表現を体験する。また、作品のプレゼンテーションを通して、他者への効果的な伝え方を学ぶ。	共同
	共創デザイン演習Ⅰ-F	商品を構成する色や素材、仕上げについてのデザイン領域であるCMF(カラー・マテリアル・フィニッシュ)の基本を習得することを目的とする。ユーザーの共感を得るために想定したユーザー像に相応しいマテリアルコンセプトを立案し、様々な加工方法を駆使して、オリジナリティの高いマテリアルを創出する基本技術を学ぶ。	共同
	共創デザイン演習Ⅰ-G	デザインとテクノロジーの両分野の橋渡しができる能力を身につけることを目的とする。テクノロジーの歴史、科学とエンジニアリングの意義を学び、基礎的な「プログラミング思考」を身に付ける。ハードウェア/ソフトウェア領域におけるデザインとテクノロジーの境界の融合事例を調査し、また、研究者・エンジニア・デザイナーとのコラボレーション授業により、デザインとテクノロジーを融合させることで、新たなイノベーションが生まれることを学ぶ。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(芸術学部共創デザイン学科)				
区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学 科 専 門 科 目	共創デザイン演習 I-H	最適なサービスデザインを構想するために、複雑な利害関係をもったステークホルダーを整理し、問題のボトルネックを特定、解決策の立案方法を学ぶ。複数のステークホルダーの行動をステークホルダーマッピングなどの手法を通じて可視化し、サービス全体の体験を向上させるために、現状のような課題が存在しており、その課題を解くための手順、最適な手法、発生している問題についてケーススタディを通して習得する。	共同	
	共創デザイン実践 I	産官学連携プロジェクト等、様々なプロジェクトを有効且つ効率的に進めるために必要となる手法を使いこなせるようになることを目的とする。プロジェクトデザインの講義から原則を理解し、PMBOOK、PM計画書とWBS制作といったプロジェクトマネジメントの基礎スキルを学ぶ。さらに、目的に合わせた様々なマネジメント手法を体系的に理解し、主体的に実行することを課題を通して体得する。	共同	
	共創デザイン概論	共創デザイン学科としてこれから何を学んでいくのか、カリキュラムの全体像を示し、学生にイメージさせることを目的として、デザインの基本姿勢から、デザインと他分野とのコラボレーションについて学び、構想する力と人を動かす力の両輪を育てる。 (オムニバス方式/全15回) (1 松本博子/2回) 共創デザインの基本姿勢および拡大するデザイン領域について概説し、専門分野への理解と興味を深める。 (2 瀧澤奈美/1回) マーケティングについて概説し、専門分野への理解と興味を深める。 (3 遠山正道/1回) ビジネスとデザインの融合について概説し、専門分野への理解と興味を深める。 (4 唐見麻由香/2回) コンセプトデザインおよびマテリアルデザインについて概説し、専門分野への理解と興味を深める。 (5 千木良康子/1回) 多様性とデザインについて概説し、専門分野への理解と興味を深める。 (6 羽田成宏/1回) テクノロジーとデザインの融合について概説し、専門分野への理解と興味を深める。 (76 小玉千陽/1回) UXおよびCX全般について概説し、専門分野への理解と興味を深める。 (56 乙葉茂/2回) UXツール(ペルソナ・CJマップ・ストーリーボードなど)およびサービスデザインについて概説し、専門分野への理解と興味を深める。 (90 渋谷聡子/1回) デザインシンキングについて概説し、専門分野への理解と興味を深める。 (142 守谷貴絵/1回) デザインマネジメントについて概説し、専門分野への理解と興味を深める。 (89 地曳慶一/1回) デザイン経営について概説し、専門分野への理解と興味を深める。 (115 新見友紀子/1回) 地球の未来(SDGs)について概説し、専門分野への理解と興味を深める。	オムニバス方式	
	ライフマネジメント論 I	将来、社会活動やライフイベントの中で様々な困難に直面しても、それを乗り越えられる強い自己を創ることを目的として、これまでの人生や価値観を振り返る自己理解から始め、それを学生同士で共有し、さらに相互理解のための演習を通して、多様な他者の存在を知り、互いを尊重することの重要性を学ぶ。自己のアイデンティティデザインは大学4年間を通して自主的に積み上げるが、この授業はその導入として、意識づけと方法を体得する。		
	ビジネスデザイン概論	デザインの力をブランドの構築やイノベーションの創出に活用する経営手法としての「デザイン経営」を理解し、ビジネスの課題解決や利益創出に寄与できる人材になることを目的とする。「デザイン経営」とは何かを概念的に学び、様々な優れた事例の解説を通し、ユーザー視点で根本的な課題を発見することの重要性や、これまでの発想にとらわれない解決策について学ぶ。		共同
コミュニケーション特論 I	コラボレーションのプロセスにおいて、考え方を論理的に体系化し、誰にでも理解できるようにチームに共有することの重要性を理解することを目的として、ディスカッションの際に情報を整理し共有するためのビジュアル化スキルに加え、図を用いて体系化する手法など、言葉ではなくビジュアルの力を使って、より明瞭に理解し、より早く、正確にチームに共有できるスキルを身につける。		共同	

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部共創デザイン学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	デザイン基礎集中演習	手描きでのドローイングやグラフィックデザインのデジタル加工技術であるイラストレーター、フォトショップ、パワーポイントなどの応用技術の習得を目的として、グラフィックデザインおよびドローイングにおける基本的なスキルを再確認したうえで、自らのデザインを効果的に表現するために、それらの技術を応用する力を身につける。	
	ドローイング演習	新しい発想を導き、自己の発想を有効に伝えるため手段として、ドローイングのスキルを身につけることを目的とする。ドローイングの基礎として、手書きによるスケッチ手法を習得したうえで、iPad等を使ったデジタルハンドスケッチ手法を習得する。ペンをを使った線のひき方、立体の書き方、影の付け方、テキストの表現・着色などの基礎から、人物の描き方、環境の描き方、漫画に学ぶ雰囲気などの描き方など総合的に学ぶ。	共同
	プログラミング演習	UX、UIデザインとの関係性の深いプログラミングの基本について理解することを目的として、プログラミングの定義と歴史の解説からその意義を理解し、プログラミングの概念と成果を直感的且つ即時に体験できるツールやアプリケーションを使いこなすことでプログラミングの楽しさと法則を体験する。また、課題を通してシステム設計までのプロセス(アイディエーション・コンセプトデザイン・仕様決定・ユースケース定義・機能定義・設計・コーディング・テスト・デバッグ・デプロイ)を学ぶ。	
	インクルーシブデザイン論	SDGsをはじめとし、これからの世界には多様性を受け入れるマインドと行動ができる人材が必要であることを理解することを目的として、多様性についての理解と思考のあり方を学ぶ。国内・海外、人種、障害を超えて、多様な人々の存在を知り、平等で明るい未来の創造を目標に、現代社会の問題点を発見し、多様な人達と共に解決策を見出し、提案するまでを体験する。	共同
	自律的キャリア教育	社会との接点を持ち、視野をひろげることで自らの価値観について思考し発展させることを目的として、デザイン共創学科が運営する社会人向けのキャリア教育講座や、社会人講師による特別講座の企画に参加し、社会人講師へのインタビューから、講座の全体計画、学びの場づくり、PR戦略企画・実行まで参画したうえで、結果報告のレポートの作成と配信までを行う。	
	産官学連携演習	様々な産官学連携プロジェクトを通して、授業で得られた学びを応用し、実践知として身につけることを目的とする。SDGsをはじめとする社会課題や、企業・自治体の抱える課題をテーマに、企業・自治体・他大学との共創により解決策を検討・提案し、実装までを行う。	共同
	産官学連携実践	連携先企業における、デザイン、広報、企画などの業務体験を通して、社会に出るための心構え、スキルの強化、コミュニケーション力の強化を図る。企業での業務体験の内容及び期間を定め、事前の計画立案、他の参加学生とのディスカッション、期間内で身につけたスキルや姿勢についての評価などを通じて、社会における自分の立ち位置、価値を自覚し、次の学びへの動機付けにつなげる。	共同
	共創デザイン演習Ⅱ-A	商品やサービスなどのデザインをする上での起点となる、ユーザーエクスペリエンス(体験価値:UX)の意味と重要性を理解することを目的とする。様々な実例をもとに、多種多様なワークショップを複数体験することで、ユーザーの共感を引き出し魅力ある体験とは何かを考察する。さらに、自ら構想した体験型ワークショップを企画から実行まで行い、他者の評価を受けることで学びを深める。	
	共創デザイン演習Ⅱ-B	「誰もが使いやすく」、「ごく自然な流れでユーザーが望む操作へ到達する」ユーザーインターフェースデザインについて理解することを目的とする。ユーザー視点に立ち、UX手法を用いながら、基礎的な画面設計を行い、操作の流れをわかりやすく、誰もが心地よく理解できるビジュアルデザインで表現することに加え、プロトタイプを作成し操作検証を体験することで、理想的で説得力のあるGUIデザインを作成していくプロセスを習得する。	共同
共創デザイン演習Ⅱ-C	グラフィックデザインを中心としたブランディングコミュニケーションを理解することを目的として、ビジュアル表現を通してブランドのメッセージを伝えることの重要性を理解し、課題として設定された事例に対して、パッケージ、Web、広告、店頭POPなど、グラフィック領域のブランドコミュニケーション手法を分析する。それらの手法を応用して、自身が考えるブランドデザインを具現化することでブランディングコミュニケーションの理論を体得する。	共同	

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部共創デザイン学科)			
区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	共創デザイン演習Ⅱ-D	ビジネスデザインの導入として、事業創出におけるデザインの果たす役割や、デザイナーならではの事業創造への取り組み方について理解することを目的とする。ピクト図解やビジネスモデルキャンバスなどの手法を身につけ、優れたビジネスモデルの事例を実際に解析したうえで、自身が想定する新規事業を構築することで、理論を実体験として身につける。	
	共創デザイン演習Ⅱ-E	提案したデザインを世の中で実装するために必要となる企画力・提案力の重要性を理解することを目的とする。有効とされる思考(MECE手法、ロジックツリー手法など)、事象(3C/4C分析、SWOT分析など)、マーケティング(STP分析、PEST分析、4P分析など)、それぞれのフレームワークの特徴を事例の分析を通して学び、テーマ課題に取り組むことでフレームワークを活用した思考法を身につける。	共同
	共創デザイン実践Ⅱ	プロジェクトの設計から実践および完遂するためのマインドと技術を身につけることを目的とする。最適なユーザーエクスペリエンスを思考し、提案するためのUXツールとして、ペルソナ、カスタマージャーニーマップなどの手法を学び、プロダクトやサービスについてユーザー視点での精度を上げるための「デザイン思考」を複数のワークショップを通して、実践的に身につける。	共同
	行動デザイン論	人間の深層心理を考察し、改善方法を試行錯誤し続けていくためのフレームワークを学び、多くの事例や手法の解説を行うことで、行動観察と考察のきっかけを作ることを目的とする。人の心理変容や態度変容を促すための認知心理学や行動経済学を基にユーザー体験価値(UX)をデザインし、意図通りに人々の自然な行動を発生させるための方法論を学ぶ。	共同
	コミュニケーション特論Ⅱ	デザインのアウトプットだけでなく、図表や言葉などさまざまな伝達手法を用いて、自らの企画を端的に魅力的に伝えられるようになることを目的とする。基本となる日本語力・言葉の編集力・ストーリー構成力、発表力など、言葉を使ったさまざまな表現手法を学ぶ。特に日本語力については、語彙を増やすこと、感覚を端的に表現できる言葉を身につけること、共感を得るための言葉遣いについて学ぶ。	
	ライフマネジメント論Ⅱ-A	自分に自信を持ち、折れない、折れてもまた復活し、社会で継続的に活動していくためのストレスマネジメント及び、社会人としてのマナー、傾聴とファシリテーションの理解を目的とする。ストレスの種類とストレスが生まれる仕組みを知り、ストレスとは何かを把握することで効果的な対処法を学ぶ。また、心身ともに健康な生活を過ごすセルフマネジメントの手法やチームでのストレスマネジメントを習得する。	共同
	ライフマネジメント論Ⅱ-B	目標となるロールモデルに出会い、自己の将来像を描き、主体的に学び、行動するための動機付けとなることを目的として、社会で活躍する女性から多様な価値観やキャリア形成などについての講義と意見交換を行う。講師は活躍する在学生・卒業生を対象とし、講座の企画から、事前インタビュー、実行など主体的に取り組むことで、コミュニケーション力、人間関係の形成を学ぶ。	共同
	共創デザイン選択演習Ⅱ-A	これまでに身につけたエディトリアル、タイポグラフィ、インフォグラフィックスのスキルを応用し、デジタル加工技術を使った魅力あるデザイン表現について理解することを目的とする。社会課題等をテーマに、コンセプト立案からアイデア展開の方法を学び、デザインを用いた課題解決を実践する。また、ブランディング手法を応用して、グラフィックデザイン領域を駆使した課題解決法を学ぶ。	共同
	共創デザイン選択演習Ⅱ-B	コンセプト立案からスタイリングデザインを経て提案資料の作成まで一連のプロセスを実行することで、デザイン開発の流れを理解することを目的とする。社会課題等をテーマに、コンセプト立案からアイデア展開の方法を学び、デザインを用いた課題解決を実践する。また、デザイン能力の開発と向上のために、コンピュータによるデザイン検討、形状把握、3D基礎力の学習、モデリング・レンダリングまでの技術を習得する。	共同
	共創デザイン選択演習Ⅱ-C	物や空間に対する感動や心地良さ、共感を呼び起こすデザイン領域であるCMFの持つ訴求力を最大限活かす技術を身につけることを目的とする。ユーザーにとっての意味や価値を表現するにふさわしいCMFデザインへの思考法を学び、コンセプト立案からイメージ作成、提案までの一連のプロセスを体験を通して学ぶ。また、社会背景の考察から、エコマテリアルやバイオ素材など、今後重要となる素材について学び、独自に表現を行うことで、応用力を養う。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部共創デザイン学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	共創デザイン選択演習Ⅱ-D	デザインとテクノロジーの両分野の橋渡しができる力の養成を目的とする。産業界におけるテクノロジー研究の現状把握と今後の未来予測に加え、ビジネス・デザイン・テクノロジーそれぞれの観点から世の中にあるサービス/プロダクトの調査と分析、領域横断チームビルディング、PoCによる検証、チームによる新規サービス/プロダクトの実装を体験し、テクノロジーを活用したサービス/プロダクトの実装手法について学ぶ。	共同
	共創デザイン演習Ⅱ-F	多様な人達とのグループワークを通し、自分とは違う領域のメンバーと共創することを体験し、その意義と効果を理解することを目的とする。社会課題などを基に自ら設定したテーマに対して、他の専攻領域の学生、他大学の学生、企業や自治体とコラボレーションを行い、これまで身に付けたクリエイティブリーダーシップを発揮し、異分野のメンバーと協働して主体的に課題解決まで成し遂げることを学ぶ。	共同
	人間工学(スペース&プロダクト)	より良い空間や物のデザインをするために、空間や物の基本的な寸法の知識や、居心地、使い心地など感覚・感情との関係性と空間や物を利用する人間のメカニズムについて理解することを目的とする。平均的な人体の寸法、機能を基本に、年齢と機能の関係性を理解し、人間が活動する空間のスケール、空間のあり方と人の感覚や感情の変化、人体の変化に応じた家具や道具の形状との関係性についても研究し、理論や根拠に基づいたデザイン能力を身に付ける。	共同
	コミュニケーション特論Ⅲ	グローバルに活躍できる人材となるべく、自ら制作したデザイン・作品などを英語で伝えるスキルを身に付けることを目的とする。アートやデザインを的確に表現するために多く使われる英語表現を、例文や文献などを通して学ぶことに加え、プレゼンテーションやディカッションなど意見交換の実践を通して英語で伝える技術を鍛える。また、日本語のポートフォリオの英語版の作成などを通して文章表現力も養う。	共同
	感性異分野共創論Ⅰ	身体表現、映像表現、伝統芸能文化等を知り、体験を通して新たな創造のためのアイデア創出につなげることを目的とする。ファインアートや工芸領域の油画、日本画、塑像、彫刻、染織、陶芸、ガラス工芸などの鑑賞、作家の姿勢、体験を通して芸術の知見を深め、アイデア創出力や表現力を鍛える。 (オムニバス方式/全15回) (151 山本雄三/2回) 油画について概説し実際に体験することで、芸術表現への理解を深める。 (13 村岡貴美男/2回) 日本画について概説し実際に体験することで、芸術表現への理解を深める。 (19 帆足枝里子/3回) 塑像・彫刻について概説し実際に体験することで、芸術表現への理解を深める。 (14 荒姿寿/2回) 染織について概説し実際に体験することで、芸術表現への理解を深める。 (66 神森真理子/2回) 陶芸について概説し実際に体験することで、芸術表現への理解を深める。 (15 加藤尚子/2回) ガラス工芸について概説し実際に体験することで、芸術表現への理解を深める。 (11 福土朋子/2回) アニメーションについて概説し実際に体験することで、芸術表現への理解を深める。	オムニバス方式
	ソーシャルグッドネスデザイン論	SDGs、サステイナブルデザイン、ウェルビーイング、ジェンダーなどの社会課題の現状を知り、解決事例を学ぶことにより、解決のためのマインドのあり方や解決方法を理解することを目的とする。社会・環境への配慮と企業活動のバランスが重要となる現代において、持続可能な企業活動、社会活動に導くためのデザインの発想法や、解決手法の応用方法を学ぶ。さらに、自分たちができることを考察し、企画提案を行うことで主体的に関わることを身に付ける。	
	留学認定科目A	専門分野における新たな視座を獲得することを目的として、協定留学または認定留学において留学先の大学で履修した学科科目について、帰国後にレポート提出、学修成果の発表を行い、教育的に有益かつ本学科の学科専門科目に準じる内容と判断できるものについては、その努力と実績を評価し、留学先大学の授業時間数に応じて、本科目において認定を行う。認定単位は2単位。	

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部共創デザイン学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	留学認定科目B	専門分野における新たな視座を獲得することを目的として、協定留学または認定留学において留学先の大学で履修した学科科目について、帰国後にレポート提出、学修成果の発表を行い、教育的に有益かつ本学科の学科専門科目に準じる内容と判断できるものについては、その努力と実績を評価し、留学先大学の授業時間数に応じて、本科目において認定を行う。認定単位は4単位。	
	留学認定科目C	専門分野における新たな視座を獲得することを目的として、協定留学または認定留学において留学先の大学で履修した学科科目について、帰国後にレポート提出、学修成果の発表を行い、教育的に有益かつ本学科の学科専門科目に準じる内容と判断できるものについては、その努力と実績を評価し、留学先大学の授業時間数に応じて、本科目において認定を行う。認定単位は6単位。	
	留学認定科目D	専門分野における新たな視座を獲得することを目的として、協定留学または認定留学において留学先の大学で履修した学科科目について、帰国後にレポート提出、学修成果の発表を行い、教育的に有益かつ本学科の学科専門科目に準じる内容と判断できるものについては、その努力と実績を評価し、留学先大学の授業時間数に応じて、本科目において認定を行う。認定単位は8単位。	
	留学認定科目E	専門分野における新たな視座を獲得することを目的として、協定留学または認定留学において留学先の大学で履修した学科科目について、帰国後にレポート提出、学修成果の発表を行い、教育的に有益かつ本学科の学科専門科目に準じる内容と判断できるものについては、その努力と実績を評価し、留学先大学の授業時間数に応じて、本科目において認定を行う。認定単位は10単位。	
	共創デザイン演習Ⅲ-A	ブランドについて、企業、製品、サービスのコンセプトを明確化し、効果的に伝えるためのブランドコミュニケーション戦略策定の理論と、デザイナーが持つべき視座を理解することを目的とする。ブランドの分析とその背景にある理論と歴史、現在のトレンドを学び、事例企業の戦略の解説や戦略策定のプロセスに加え、サービスや製品のブランドの情緒的、技術的、伝統的価値を抽出し、再構築するリブランディングにより実践知として習得する。	
	共創デザイン演習Ⅲ-B	新しいビジネスモデルの構築から事業成功へ導くための能力を養うことを目的として、これまで学んだビジネス構築のための手法、ビジネスモデルの試作体験を元に、自ら新しいビジネスを構築、分析し、モデル化することで、ビジネスモデル構築に慣れ、新しい発想を生むための思考を身につける。さらに、市場に出したあとの競争戦略や差別化要因、KSF分析など、事業が成功するために必要な概念や社会の変化に対応するためのポイントを学ぶ。	共同
	共創デザイン実践Ⅲ	プロジェクトの設計と実践および完遂するためのマインドと技術を身につける。これまでに学んだ最適なユーザーエクスペリエンスを検討し、提案するためのUXツールおよび、プロダクトやサービスについての「デザイン思考」を踏まえ、ターゲットユーザー、ステークホルダーを理解し、ビジネスモデル構築のためのフレームワークを使いながら、マネタイズまでを含めた思考方法を学ぶ。	共同
	知財・ファイナンシャル概論	将来、企業の構成員、あるいは独立して事業を成す際に、デザイナーとして理解しておくべき、知財(特許、意匠、商標)とマネタイズについて、その重要性や基礎的な知識を習得することを目的とする。知財の申請等の体験を通して、知財申請についての能力を身につけることに合わせて、企業会計における基礎的な考え方や、企業の公開情報をもとに損益計算書及び貸借対照表を中心とする財務諸表の読み解き方、収益の基本構造を学ぶ。	共同
	ライフマネジメント論Ⅲ-A	目標となるロールモデルに出会い、自己の将来像を描き、主体的に学び、行動するための動機付けとなることを目的として、社会で活躍する女性から多様な価値観やキャリア形成などについて講義と意見交換を行う。複数の社会人講師の講演を実施し、様々なロールモデルにふれることで、自身のキャリア形成について多様な選択肢から概観をつかみ、就職活動やインターンシップを進めるうえで、軸となる考え方を自ら形成する。	共同
	ライフマネジメント論Ⅲ-B	社会に出るためのファーストステップとしての就職活動に向けて、これまで構築してきた自己の学びの軌跡を振り返り、得意、不得意を見極め、自己ブランディングを行うことを目的とする。ブランド化した自己を、客観的な視点を持って言葉やグラフィック表現、動画など様々な手法を使い、ポートフォリオとして最適に、効果的に表現する技術を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部共創デザイン学科)			
区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	ファシリテーション論	多様なメンバーと共創するプロジェクトを最適解に導くために必須となるファシリテーションスキルを習得することを目的とする。ファシリテーションの意味と機能、合意形成のためにグラフィックレコーディングなどのデザインスキルを活用した技術を学びながら、ファシリテーターとしての役割を現場の議論を再現したケーススタディーやロールプレイなど実践を通して身につける。	
	共創デザイン選択演習Ⅲ-A	これまで学んだグラフィックデザイン及びユーザーインターフェースデザインの知識、技術を活かし、グラフィックデザインを中心としたデザイン作成の開発プロセスを理解することを目的とする。世の中の課題への気づきから、ストーリー構築、コンセプト立案からデザイン案を作成する中で、紙面、画面デザインに止まらず、動きのあるプロトタイプモデルなどの試作と検証を経て、PRまでを実施することで、コトのデザインから具体的デザイン、およびPRのためのデザインまで一貫通貫での開発プロセスを学ぶ。	共同
	共創デザイン選択演習Ⅲ-B	これまで学んだプロダクトデザインの知識、技術を活かし、プロダクトを中心としたデザイン作成の開発プロセスを理解することを目的とする。世の中の課題への気づきから、ストーリー構築、コンセプト立案からCMFを含むデザイン案を作成する中で、ラビッドプロトタイプによる造形検討と検証を経て、3Dデータを作成実施し、モデリングを行い、プレゼンテーション及びPRまでを実施することで、コトのデザインからモノのデザインまで一貫通貫でデザインの開発プロセスを学ぶ。	共同
	共創デザイン選択演習Ⅲ-C	これまでに身につけたマーケティング手法を用いて、企業のマーケティング事例を分析し、知識を定着させることを目的とする。自ら仮想の事業を構想し、学んだフレームワークにあてはめて事業のプランニングを行い、社会実装の擬似体験を行うことで、プランニングの難しさを知り、解決方法を試行錯誤する経験を積む。	共同
	共創デザイン選択演習Ⅲ-D	デザインとテクノロジーの両分野の橋渡しができる力、特にチームビルディング能力の養成を目的とする。これまで学んだ内容を踏まえ、チームとしての構想について調査・分析を行い、プログラミング言語を用いて実装まで行う。さらに、自己とチームメンバーとの調和による共創コミュニケーションを通し、ビジネス・デザイン・テクノロジーの融合を経験することで、領域横断のチームビルディングを体得する。	
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Aa	ビジネスデザインの基礎を応用し、チームで構想から実装までの体験を通して、新しいビジネスモデルを構築できる能力を習得することを目的とする。テーマを実在する企業から選定し、ターゲットユーザー、ステークホルダーの明確化、リサーチから課題の抽出、展開したアイデアをビジネスモデルキャンパスなどのフレームワークを使って思考、分析、モデル化する。モデル化したビジネス構想を身近な現場を使って実装することで市場での反響や問題点など実体験として身につける。	共同
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ba	課題抽出から実装、次のプランへつなげるまでの一連のプロセスを体験し、プロダクトにおけるプランナーとしての能力を身につけることを目的とする。実在する企業のプロダクト商品をテーマに、チームで市場のリサーチからターゲットユーザーを特定し、課題を抽出、さらに、フレームワークを活用したマーケティングをベースに、商品企画の立案とデザイン展開を行い、ターゲットユーザーに相応しいPR戦略を構想し、実装する。また、実装後に、ユーザーの意見聴取の方法、回収から次のプラン立案まで方法を学ぶ。	
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ca	商品などのモノのブランディングの仕方を身につけることを目的とする。市場にある商品についてのブランディングの成功事例を学習し、自ら選定した既存の商品について、新たなブランディングを検討し、ブランドコンセプト、コピーライティング、ビジュアルアイデンティティを確立し、提案までを実践する。ブランド論をデザインサイドとビジネスサイドの両面から理解し、ブランド構築に必要なフレームワークの使用手法やリサーチ手法を学ぶ。	
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Da	様々なステークホルダーに継続的に提供される価値に着目し、新たな経験や仕組みをデザインすることで製品やサービスを創出するためのプロセスと手法を理解することを目的とする。これまで機能や効能で捉えてきた製品やサービスの本来の価値を洞察することから始まり、様々なテンプレートや可視化ツールの活用によって、現在から未来に向けたフォアキャスト型、わずかな兆しから未来に起こりうる可能性を描き出すバックキャスト型の提案力を、生活者視点の身近なサービスをテーマとした演習を通して身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部共創デザイン学科)			
区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ea	ユーザーエクスペリエンスを起点に、プロダクトやアプリケーション、サービスなどを構想し、領域を超えて統合したデザイン力を発揮できる能力を身につけることを目的とする。既存のプロダクト製品を選定し、そのプロダクトデザインから、アプリケーションなどのユーザーインターフェースデザイン、パッケージデザインなどまで展開することに加え、PRとしてのWebデザイン、SNSなどまでも含むトータルで一貫した訴求を可能とするスキルとセンスを習得する。	共同
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ab	ビジネスデザインの基礎を応用し、チームで構想から実装までの体験を通して、新しいビジネスモデルを構築できる能力を習得することを目的とする。各チームが起業したと仮定して、ターゲットユーザー、ステークホルダーの明確化、リサーチから課題の抽出、展開したアイデアをビジネスモデルキャンパスなどのフレームワークを使って思考、分析、モデル化する。モデル化したビジネス構想を身近な現場を使って実装することで市場での反響や問題点など実体験として身につける。	共同
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Bb	課題抽出から実装、次のプランへつなげるまでの一連のプロセスを体験し、サービスにおけるプランナーとしての能力を身につけることを目的とする。実在する企業サービスをテーマに、チームで市場のリサーチからターゲットユーザーを特定し、課題を抽出、さらに、フレームワークを活用したマーケティングをベースに、商品企画の立案とデザイン展開を行い、ターゲットユーザーに相応しいPR戦略を構想し、実装する。また、実装後に、ユーザーの意見聴取の方法、回収から次のプラン立案まで方法を学ぶ。	
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Cb	サービスなど簡単な仕組みのブランディングの仕方を身につけることを目的とする。市場にある仕組みについてのブランディングの成功事例を学習し、自ら選定した既存のサービスについて、新たなブランディングを検討し、ブランドコンセプト、コピーライティング、ビジュアルアイデンティティを確立し、提案までを実践する。ブランド論をデザインサイドとビジネスサイドの両面から理解し、ブランド構築に必要なフレームワークの使用法やリサーチ手法を学ぶ。	
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Db	様々なステークホルダーに継続的に提供される価値に着目し、新たな経験や仕組みをデザインすることで製品やサービスを創出するためのプロセスと手法を理解することを目的とする。これまで機能や効能で捉えてきた製品やサービスの本来の価値を洞察することから始まり、様々なテンプレートや可視化ツールの活用によって、現在から未来に向けたフォアキャスト型、わずかな兆しから未来に起こりうる可能性を描き出すバックキャスト型の提案力を、社会貢献視点のサービスをテーマとした演習を通して身につける。	
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Eb	ユーザーエクスペリエンスを起点に、プロダクトやアプリケーション、サービスなどを構想し、領域を超えて統合したデザイン力を発揮できる能力を身につけることを目的とする。新たなプロダクトを構想し、アプリケーションなどのユーザーインターフェースデザイン、パッケージデザインなどまで展開することに加え、PRとしてのWebデザイン、SNSなどまでも含むトータルで一貫した訴求を可能とするスキルとセンスを習得する。	共同
	感性異分野共創論Ⅱ	身体表現、映像表現、伝統芸能文化等を知り、体験を通して新たな創造のためのアイデア創出につなげることを目的とする。演劇、パフォーマンス、手話、落語、華道、茶道など、総合的な芸術について、その基本姿勢や構成を学び、体験を通して、コミュニケーション能力の向上や瞬発力を鍛える。 (オムニバス方式/全15回) (30 石神夏希/4回) 演劇について概説し実際に体験することで、芸術表現への理解を深める。 (10 日沼禎子/2回) パフォーマンスについて概説し実際に体験することで、芸術表現への理解を深める。 (7 奥山亜喜子/1回) 手話について概説し実際に体験することで、芸術表現への理解を深める。 (17 檜山満照/2回) 落語について概説し実際に体験することで、芸術表現への理解を深める。 (12 三谷理華/2回) 華道について概説し実際に体験することで、芸術表現への理解を深める。 (66 神森真理子/2回) 茶道について概説し実際に体験することで、芸術表現への理解を深める。 (28 飯田茉純/2回) 書道について概説し実際に体験することで、芸術表現への理解を深める。	オムニバス方式

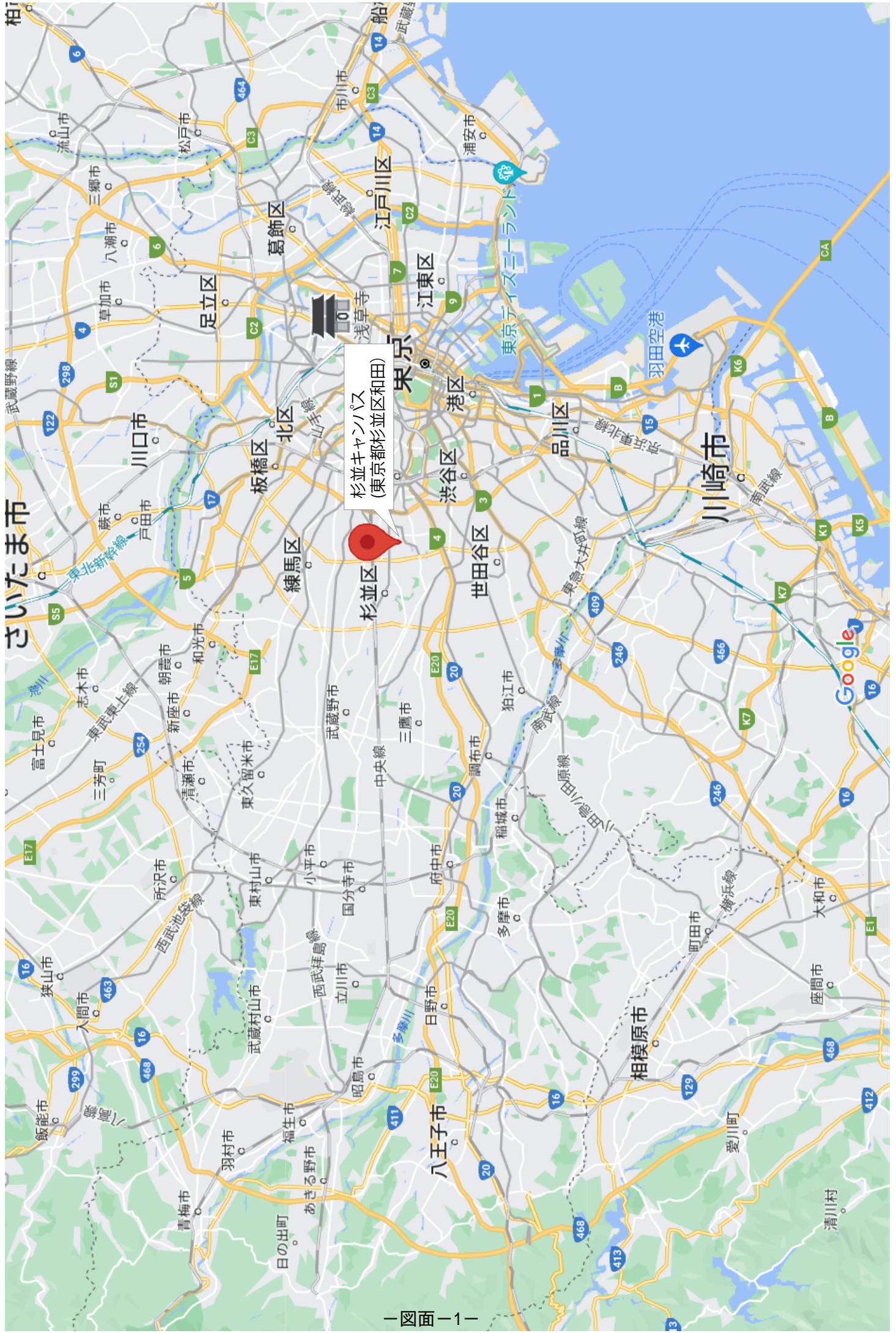
授 業 科 目 の 概 要			
(芸術学部共創デザイン学科)			
区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目	共創デザイン実践Ⅳ	自らプロジェクトを構想することで、主体的に社会で活動するためのマインドと思考のあり方を醸成することを目的とする。卒業研究の準備として位置付ける授業で、これまで身につけてきた様々な領域の学びを総合的に応用し、大学での学びの集大成として相応しいテーマの抽出とプロジェクトの構想、およびテストニングまでを繰り返しながら思考を深める。	共同
	卒業研究	大学での学びの集大成として、自ら構想した企画の実装までを行い、総合的な実践力を身に付けることを目的とする。卒業研究として相応しいテーマを抽出し、リサーチ、企画立案からプロダクトデザインあるいは仕組みのデザインなど、これまでの学びを生かし、領域を超えた新しい提案に結びつけること、さらに具現化した内容をテストマーケティングなど社会に実装するまでを行う。研究方法として、グループワーク、個人ワーク、外部連携、いずれの形態も可とし、個々の可能性を最大限に活かす方法を検討する。	共同
	ライフマネジメント論Ⅳ-A	これまでライフマネジメントで体得してきたことを基に、卒業後の自己をターゲットにプランニングを行うことを目的として、自己にとってのベンチマークリサーチ、インタビューにより、プランのブラッシュアップを行い、他者への伝え方を意識したオリジナリティある表現を学ぶほか、具現化したプランを共有し意見交換することで、就職後の自分の人生を再考する。	共同
	ライフマネジメント論Ⅳ-B	これまで学んできた内容の再確認に加えて、卒業生と在学生のつながりを設計することを目的として、学習内容の振り返りとアーカイブ化のほか、後輩たちの学びのためのナレッジデータベースの構築、プロジェクトの継承を行うことで、自らの4年間の学びを深く理解し、社会で活動していくための自信を培う。	共同

学校法人女子美術大学

設置認可等に関わる組織の移行表

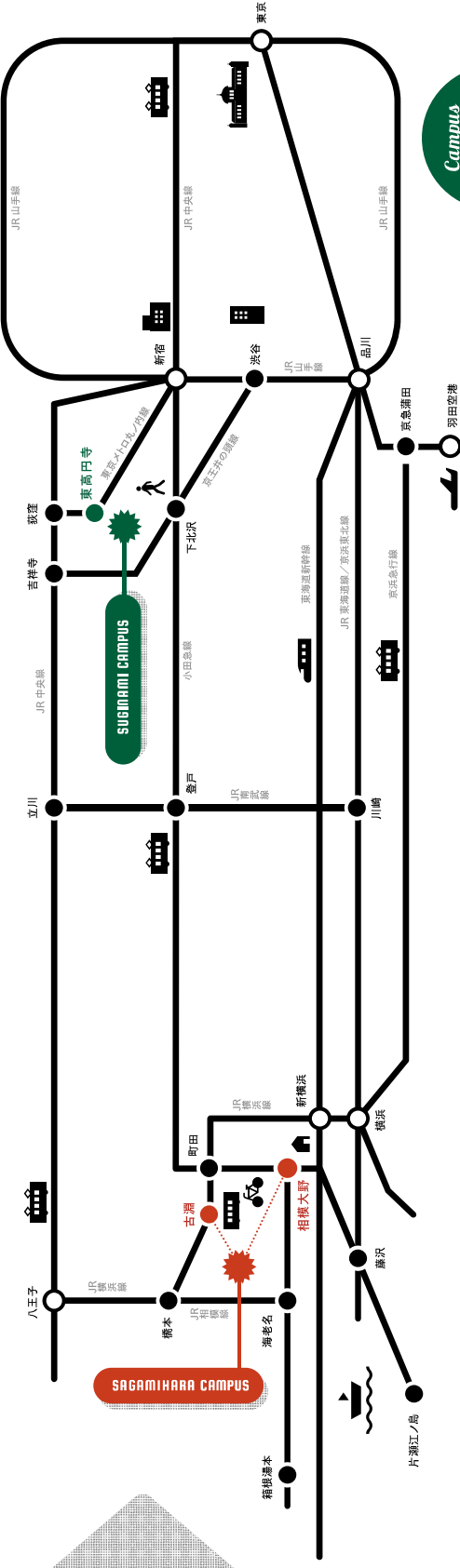
令和4年度	入学定員	編入学定員	収容定員
女子美術大学			
芸術学部			
美術学科	190	3年次 14	788
デザイン・工芸学科	220	3年次 16	912
アート・デザイン表現学科	160	3年次 10	660
計	570	3年次 40	2,360
女子美術大学大学院			
美術研究科			
博士後期課程	3	-	9
美術専攻			
博士前期課程	35	-	70
美術専攻			
デザイン専攻	15	-	30
芸術文化専攻	7	-	14
計	60	-	123
女子美術大学短期大学部			
造形学科	180	-	360
計	180	-	360

令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
女子美術大学				
芸術学部				
美術学科	190	3年次 14	788	
デザイン・工芸学科	220	3年次 16	912	
アート・デザイン表現学科	160	3年次 10	660	
共創デザイン学科	60	-	240	学科の設置（届出）
計	630	3年次 40	2,600	
女子美術大学大学院				
美術研究科				
博士後期課程	3	-	9	
美術専攻				
博士前期課程	35	-	70	
美術専攻				
デザイン専攻	15	-	30	
芸術文化専攻	7	-	14	
計	60	-	123	
女子美術大学短期大学部				
造形学科	120	-	240	定員変更（△60）
計	120	-	240	



キャンパスアクセス

東京都町田市にほど近い相模原キャンパス
都心からのアクセス抜群の杉並キャンパス
それぞれに魅力的な両キャンパスに
ぜひふらりと遊びにきませんか？



Campus

SAGAMIHARA

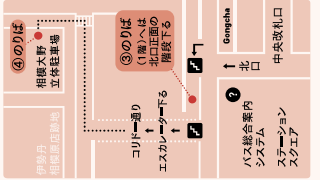
相模原キャンパス

〒252-8538 神奈川県相模原市南区麻溝台1900
 相模原キャンパス
 TEL:042-778-6111 (代)

〒166-8538 東京都杉並区和田1-49-8
 東高円寺駅下車 徒歩8分
 TEL:03-5340-4500 (代)

新宿	35min	相
東京	55min	相
品川	60min	相
羽田空港	70min	相
新横浜	60min	相
横浜	25min	相
町田	40min	相
町田	35min	相
町田	35min	相
八王子	25min	相

相模大野	バス 20min	相
古淵	バス 15min	相



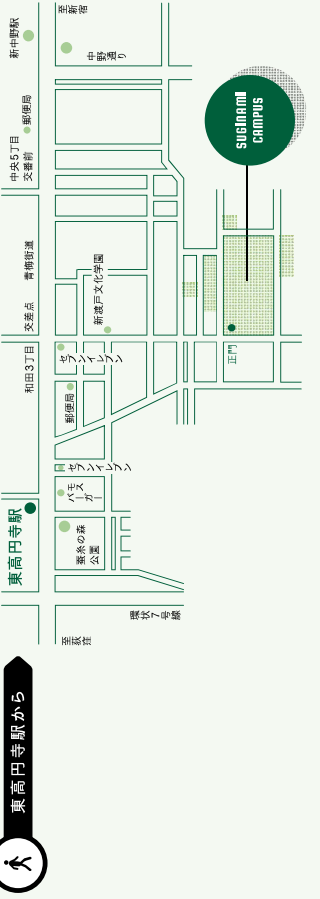
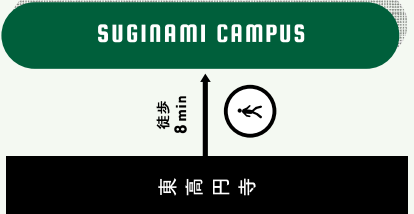
相模原キャンパス
 相模原キャンパス
 相模原キャンパス
 相模原キャンパス

Campus

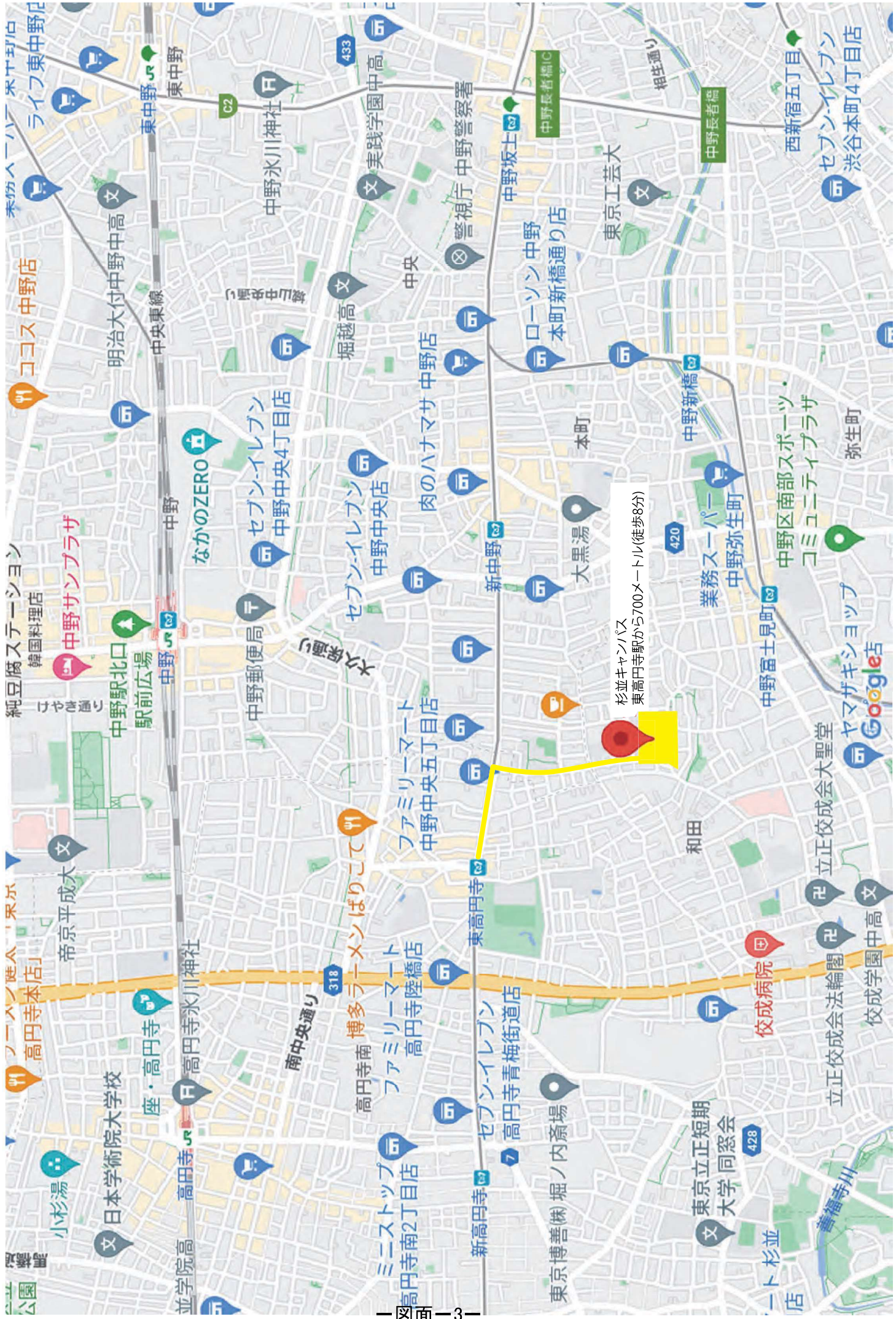
SUGINAMI

杉並キャンパス

新宿	7min	相
東京	30min	相
品川	35min	相
羽田空港	55min	相
新横浜	60min	相
横浜	50min	相
八王子	40min	相

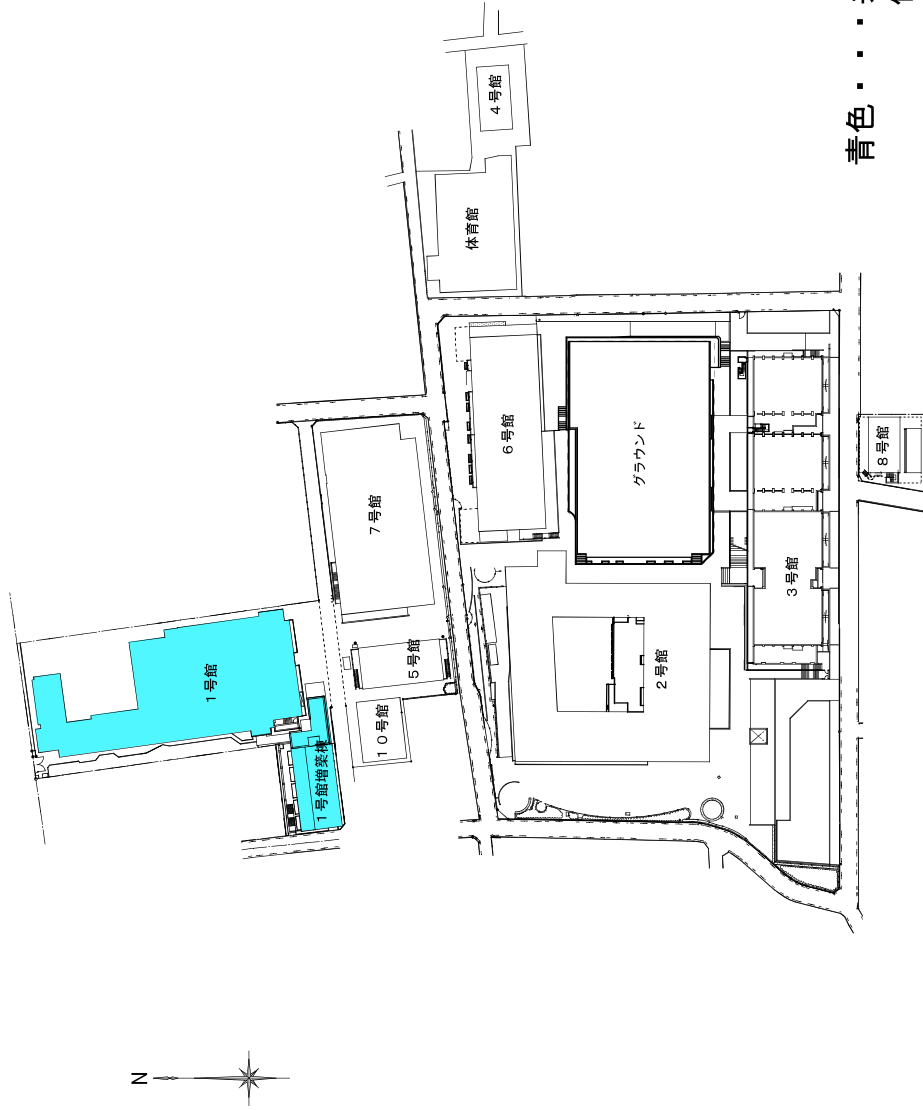


女子美術大学杉並キャンパス周辺地図



女子美術大学杉並キャンパス

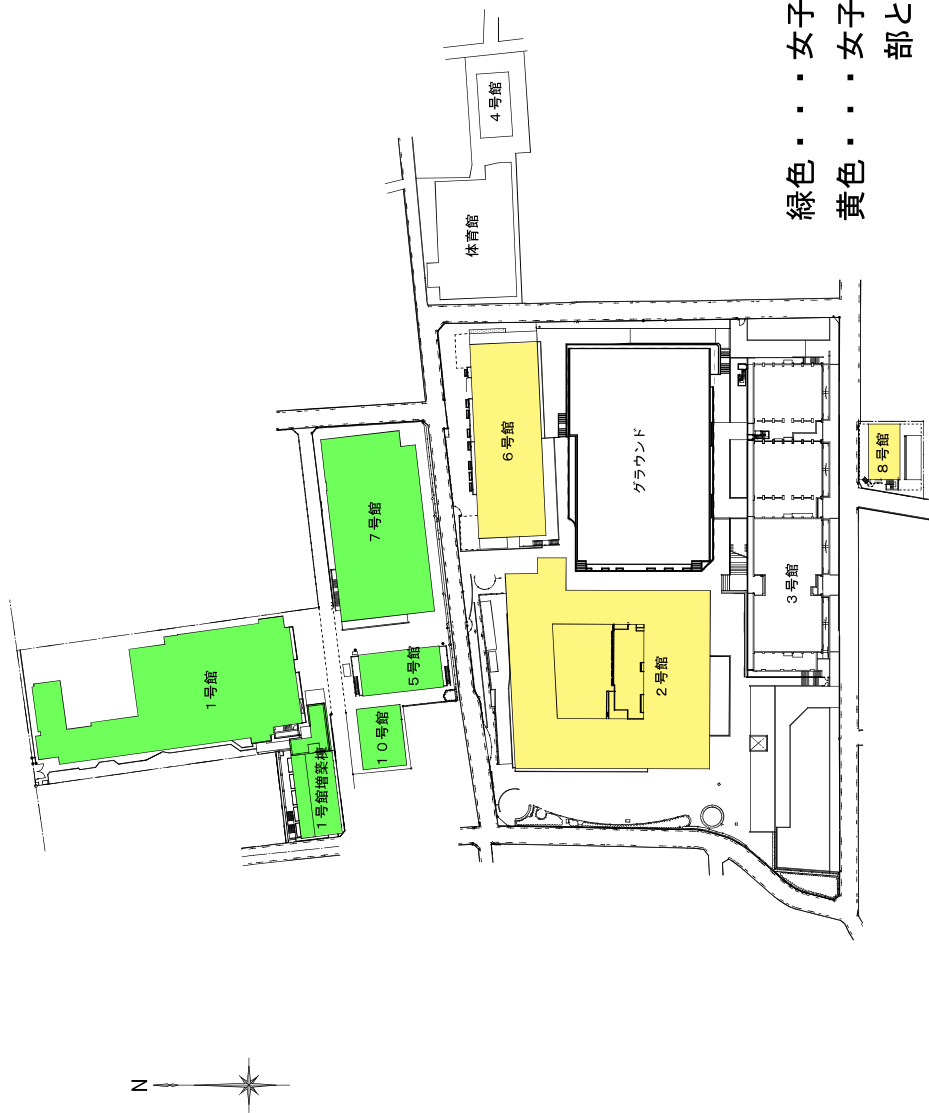
校地面積 17,733.50㎡
校舎面積 24,274.16㎡



青色・・・共創デザイン学科が
使用する校舎

女子美術大学杉並キャンパス

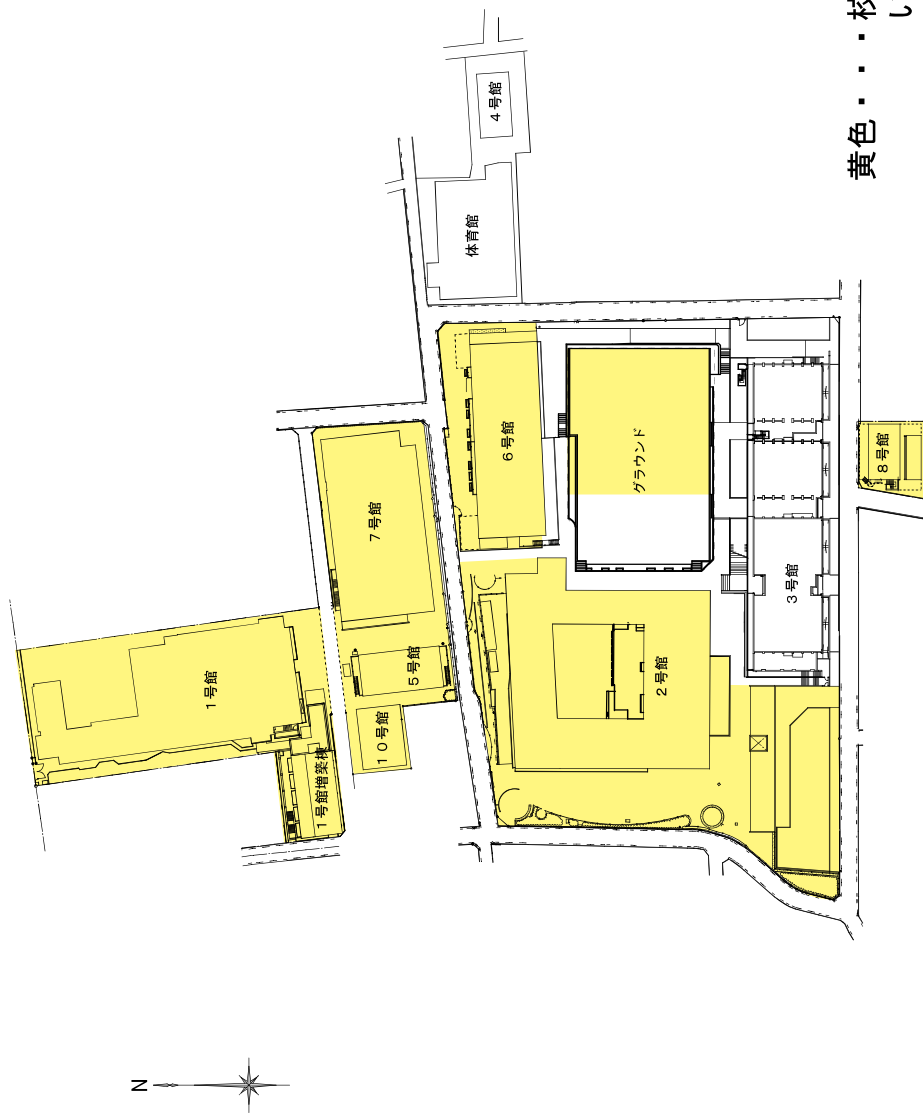
校地面積 17,733.50㎡
校舎面積 24,274.16㎡



緑色・・・女子美術大学専用部分
黄色・・・女子美術大学短期大学
部との共用部分

女子美術大学杉並キャンパス

校地面積 17,733.50㎡
校舎面積 24,274.16㎡



黄色・・・校地面積に算入して
いる部分

女子美術大学学則

(昭和41年4月1日施行)

第1章 総則

(目的)

第1条 本学は、芸術に関する最高の理論及び技術を教授研究し、教養高く芸術的創造力の豊かな女性を育成することを目的とする。

(自己評価等)

第1条の2 本学は、教育研究水準の向上を図り、本大学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について点検及び評価を行う。これについては、別に定める。

第2章 組織

(学部、学科及び学生定員)

第2条 本学に、芸術学部を置く。

2 芸術学部には、置く学科及び学生定員は、次のとおりとする。

学 科	入学定員	編入定員	収容定員
美 術 学 科	190名	14名	788名
デザイン・工芸学科	220名	16名	912名
アート・デザイン表現学科	160名	10名	660名
共創デザイン学科	60名		240名

(学科の目的)

第2条の2 本学の設置する各学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

- 一 美術学科は、過去、現在、未来にわたる、広範な芸術的制作、芸術的理論の探求に基づき、芸術表現およびその研究を練磨することを教育目標としている。平面表現、立体表現の制作技術の鍛錬、作品コンセプトの熟成、芸術理論による表象的意味の理解を通して、社会に対する深い洞察に基づいた創造的活動を持続的に行える人材の養成を目的としている。
- 二 デザイン・工芸学科は、人と人とのコミュニケーション・人とモノの関わり・人と環境のあるべき姿の考察、及び独創的な創作活動の実践を教育目標としている。幅広い視野・技術・感性を実体験を通して養い、柔軟な思考に基づき時代に即応し活躍できる人材の養成を目的とする。
- 三 アート・デザイン表現学科は、アートとデザインの領域を横断、融合して、クリエイティブな発想力と独創的な表現力を培うことを教育目標としている。ヒューマンティリーの視点からアートとデザインを捉え、時代の変化に柔軟に対応できる深い知識と斬新な感性を持ち、コミュニケーション能力に長け、国際社会の幅広い分野で創造的に活躍できる人材の養成を目的とする。
- 四 共創デザイン学科は、デザインの基礎的・基本的な知識と能力を習得させ、デザインの理論や手法を活用し、地域や産業の振興を図るための創造的な能力と実践的な姿勢を育成することを教育目標とする。伝達や用途などの目的や機能を考え、デザインする能力を身に付け、顧客や消費者をはじめとする多様な立場の人々と協働して、商品やサービスの価値を共に創り上げることのできる能力を備えた人材の養成を目的とする。

(附属研究所、図書館及び美術館)

第3条 本学に、附属研究所、図書館及び美術館を置く。

2 附属研究所、図書館及び美術館に関する規則は別に定める。

(事務組織)

第4条 本学に、必要な事務組織を置く。

第3章 職員組織

(職員組織)

第5条 本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他必要な職員を置く。

2 本学に、副学長を置くことができる。

第4章 教授会

(教授会)

第6条 学部に、教授会を置く。

(教授会の構成)

第7条 教授会は、学長、専任の教授・准教授・助教をもって構成する。

(教授会の招集)

第8条 教授会の招集は、学長が行う。

2 教授会の議長は学部長とする。

3 議長に事故あるときは、当該招集者が予め指名した教授が議長となる。

(審議事項)

第9条 教授会は、次の事項を審議する。

- 一 教育課程に関すること。
- 二 主要年中行事及び日程に関すること。
- 三 授業科目修了の認定に関すること。
- 四 学生の指導及び賞罰に関すること。
- 五 入学試験に関すること。
- 六 入学、退学、休学、留学、転学及び卒業に関すること。
- 七 各種奨学生に関すること。
- 八 実習料等に関すること。
- 九 学則その他本学の制規に関すること。
- 十 教員の人事に関すること。
- 十一 その他本学に関する重要なこと。

(その他)

第10条 教授会に関する事項は、本章によるほか、芸術学部教授会内規の定めるところによる。

第5章 学年、学期及び休業日

(学年)

第11条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第12条 学年を、次の2学期に分ける。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第13条 休業日は、次のとおりとする。

日曜日

国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

創立記念日（10月30日）

春期休業（4月1日から4月15日まで）

夏期休業（7月11日から9月10日まで）

冬期休業（12月25日から翌年1月7日まで）

- 2 学長は、教授会の議を経て、前項の休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

第6章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第14条 本学の修業年限は4年とする。

(在学年限)

第15条 学生は、8年を超えて在学することはできない。ただし、第21条第1項及び第22条第1項の規定により入学した学生は、それぞれ第2項により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができる。

第7章 入学

(入学の時期)

第16条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第17条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する女子とする。

- 一 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- 二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- 三 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- 四 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 五 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- 六 文部科学大臣の指定した者
- 七 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- 八 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

(入学の出願)

第18条 本学への入学を志願する者は、入学願書に別表第4に定める入学検定料及び別に定める書類を添えて願出しなければならない。

(入学者の選考)

第 19 条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第 20 条 前条の選考に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、誓約書、身元保証書その他所定の書類を提出するとともに、別表第 4 に定める入学料を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(編入学)

第 21 条 次の各号の一に該当する女子で、本学に編入学を志願する者があるときは、選考の上、3 年次に入学を許可する。

一 大学を卒業した者又は退学した者

二 短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者

三 学校教育法施行規則附則第 7 条に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校等の課程を修了し、又は卒業した者

四 大学に 2 年以上在学し、62 単位以上修得した者

五 専修学校の専門課程のうち文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（学校教育法第 90 条に規定する者に限る）

六 その他本学において、相当の年齢に達し前 5 号に規定する者と同等以上の学力があると認められた者

2 前項の規定により入学を許可された者の、既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て、学長が決定する。

(再入学)

第 22 条 本学を退学した者で、本学に再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。

2 前条第 2 項の規定は本条に適用する。

(転入学)

第 22 条の 2 本学に転入学を希望する女子があるときは欠員の状況等により、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

2 第 21 条第 2 項の規定は、本条に適用する。

3 転入学に関して必要な事項は別に定める。

第 8 章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第 23 条 授業科目を分けて、学部共通科目、学科専門科目とする。

2 授業科目の種類、単位数等は別表第 1 のとおりとする。

(教職に関する科目)

第 24 条 前条に定めるもののほか、教職に関する科目を置く。

2 授業科目の種類、単位数等は別表第 2 のとおりとする。

(博物館に関する科目)

第 25 条 第 23 条に定めるもののほか、博物館に関する科目を置く。

2 授業科目の種類、単位数等は別表第 3 のとおりとする。

(授業の方法)

第 25 条の 2 本学における授業の方法は、講義、演習、実習又は実技とする。

2 前項の授業は、メディアを利用して行うことがある。

(単位の計算方法)

第 26 条 各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

一 講義を中心とする授業については、15 時間に相当する授業時間をもって 1 単位とする。

二 演習を中心とする授業については、15 時間から 30 時間に相当する授業時間をもって 1 単位とする。

三 実験、実習及び実技を中心とする授業については、30 時間から 45 時間に相当する授業時間をもって 1 単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(1 年間の授業期間)

第 27 条 1 年間の授業期間は、定期試験等を含めて原則として 35 週とする。

(各授業科目の授業期間)

第 28 条 各授業科目の授業は、15 週にわたる期間を単位として行う。ただし、必要と認められる場合は、この期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(単位の授与)

第 29 条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。ただし、第 26 条第 2 項の授業科目については、大学の定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えることができる。

(学習の評価)

第30条 試験等の評価は、S・A・B・C・Dをもって表わし、C以上を合格とする。

(他学科の授業科目の履修)

第30条の2 学生が他学科の授業科目を履修することが教育上有益と認めるときは、許可を得て当該科目を履修することができる。

(他大学等における授業科目の履修等)

第30条の3 本学が教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合にも準用する。

3 第1項に定める単位認定に関して必要な事項は別に定める。

(大学以外の教育施設等における学修)

第30条の4 本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、大学の定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、第30条の3第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

3 第2項に定める単位認定に関して必要な事項は別に定める。

(入学前の既修得単位の認定)

第30条の5 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目の修得単位(科目等履修生として修得した単位を含む)を本学に入学した後の授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を与えることができる。ただし、この認定に関連して修業年限の短縮は行わない。

2 学生が入学する前に行った第30条の4第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項による認定単位数は編入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第30条の3第1項、第2項及び第30条の4の本学で修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

4 第1項、第2項に定める単位認定に関して必要な事項は別に定める。

第9章 休学、留学、退学及び転学

(休学)

第31条 疾病その他特別の理由により6ヵ月以上修学することのできない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病のため休学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

(休学期間)

第32条 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学の延長を認めることができる。

2 休学は通算して4年を超えることができない。

3 休学期間は、第15条の在学期間には算入しない。

(復学)

第33条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。ただし、復学の時期は学期の始めとする。

(留学)

第33条の2 外国の大学又は短期大学に留学を志願する者は、学長に願い出て許可を得なければならない。

2 留学した期間は第15条の在学期間に算入し、第30条の3第2項を適用する。ただし、休学して外国で学修する場合を除くものとする。

3 留学に関して必要な事項は別に定める。

(転学)

第34条 他の大学への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(転学科)

第34条の2 本学の学生で、本学の他学科に転学科を希望する者については、教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、これを許可することができる。

2 転学科に関する事項は別に定める。

(退学)

第35条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(措置による退学)

第36条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て、学長が退学の措置を講ずる。

一 第15条に定める在学年限を超えた者

二 第32条第2項に定める休学の期間を超えてなお修学できない者

三 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

四 長期間にわたり行方不明の者

第10章 卒業及び学士の学位等

(卒業の要件)

第37条 本学を卒業するためには、大学に4年以上在学し、所定の学部共通科目、学科専門科目から各学科の定める必修科目、選択科目を含め、合計124単位以上を修得しなければならない。

(卒業の認定)

第38条 本学に4年(第21条第1項及び第22条第1項の規定により入学した者については、それぞれ第2項により定められた在学すべき年数)以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

第38条の2 前条の規定にかかわらず、本学に修業年限以上在学し、卒業に必要な要件を満たす者のうち、引き続き本学に在学して学修の継続を希望する者については、第12条に規定する学期を単位として、在学期間の延長を許可することができる。

2 在学期間の延長について必要な事項は別に定める。

(学士の学位授与)

第39条 卒業を認定された者に対し、学士(芸術)の学位を授与する。

2 学位に関する規則は別に定める。

(資格の種類)

第40条 本学において取得することのできる資格及び免許状の種類は次のとおりとする。

(1)教育職員免許状

学 科	免許状の種類	
	高等学校教諭 1種免許状	中学校教諭 1種免許状
美 術 学 科	美 術	美 術
デザイン・工芸学科	美術・工芸	美術
アート・デザイン表現学科	美術	美術

(2)学芸員資格

美術学科、デザイン・工芸学科、アート・デザイン表現学科

第41条 高等学校及び中学校の教員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許状及び同法施行規則に規定する科目及び単位数を取得しなければならない。

(学芸員資格の取得)

第42条 博物館学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法及び同法施行規則に規定する科目及び単位数を取得しなければならない。

第11章 賞罰

(表彰)

第43条 学生として表彰に値する行為があった者は、教授会の議を経て、学長が表彰する。

(懲戒)

第44条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

- 一 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 二 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- 三 正当な理由がなくて出席常でない者
- 四 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第12章 研究員、研修員、研究生、科目等履修生、特別聴講学生、委託生及び外国人留学生

(研究員、研修員)

第45条 本学において特定の専門事項について研究又は研修を希望する者がいるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、教授会の議を経て研究員又は研修員として受入れることがある。

2 研究員及び研修員について必要な事項は別に定める。

(研究生)

第46条 本学において特定の専門事項について研究することを志願する者がいるときは、当該学科の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生について必要な事項は別に定める。

(科目等履修生)

第47条 本学の授業科目の履修を希望する者がいるときは、本学の教育に支障のない限りにおいて、選考の上、科目等履修生として履修を許可する。

2 科目等履修生には、本学則第29条及び第30条の規定を準用して単位を与えることができる。

3 科目等履修生について必要な事項は別に定める。

(特別聴講学生)

第 47 条の 2 他の大学又は短期大学の学生で、本学において授業科目を履修することを希望する者があるときは、当該他大学又は短期大学との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することができる。

2 その他特別聴講学生に関する規則は別に定める。

(委託生)

第 47 条の 3 他の機関又は団体から派遣され、本学において特定の授業科目を履修することを志願する者があるときは、本学の教育に支障のない場合に限り、選考の上、委託生として許可する。

2 委託生について必要な事項は別に定める。

(外国人留学生)

第 47 条の 4 外国人で、本学において教育を受ける目的をもって入国し、本学入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生について必要な事項は別に定める。

第 13 章 検定料、入学料、授業料その他の費用

(検定料等の額)

第 48 条 本学の検定料、入学料、授業料等の金額は別表第 4 に定めるとおりとする。

(授業料等の納付)

第 49 条 授業料、実習料、施設設備料、維持費は、年額の 2 分の 1 ずつを 2 期に分けて納付するものとする。ただし、前期分納付時に、後期分も併せて納付することができる。

前期納期 4 月 10 日

後期納期 10 月 5 日

2 第 1 項以外の費用は、全額を 4 月 10 日までに納付するものとする。

3 特別の事情があると認められる者は、延納を認めることがある。

(転学、退学等の場合の授業料等)

第 50 条 転学、退学した者については、在籍していた期までの授業料等を徴収する。ただし、第 36 条第三号又は第四号により退学の措置を講じられた者については、この限りではない。

2 停学期間中の授業料等は徴収する。

(休学の場合の在籍料)

第 51 条 休学を許可され又は命ぜられた者については、在籍料として授業料相当額の 4 分の 1 を徴収する。

2 在籍料の減免措置については、別に定める。

(研究生、科目等履修生の授業料等)

第 52 条 研究生及び科目等履修生の授業料等については、別表第 4 に定める。

(納付した授業料等)

第 53 条 納付した検定料、入学料及び授業料等は、原則として返還しない。

第 14 章 厚生施設

(保健センター)

第 54 条 本学に保健センターを置く。

2 保健センターに関する規則は別に定める。

第 15 章 公開講座

(公開講座)

第 55 条 本学は社会人の生涯学習に寄与し、文化の向上に資するため、公開講座等を開設することができる。

付 則

この学則は、昭和 41 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この学則は、昭和 46 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

1 この学則は、昭和 52 年 4 月 1 日から施行する。

2 この学則の第 30 条は、昭和 52 年度 1 年次入学生より適用する。

付 則

1 この学則は、昭和 53 年 4 月 1 日から施行する。

2 この学則第 48 条は、昭和 53 年度入学生より適用する。

付 則

1 この学則は、昭和 54 年 4 月 1 日から施行する。

2 この学則第 48 条は、昭和 54 年度入学生より適用する。

付 則

1 この学則は、昭和 55 年 4 月 1 日から施行する。

2 この学則第 48 条は、昭和 55 年度入学生より適用する。

付 則

- 1 この学則は、昭和 56 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則第 48 条は、昭和 56 年度入学生より適用する。

付 則

- 1 この学則は、昭和 57 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則第 48 条は、昭和 57 年度入学生より適用する。

付 則

- 1 この学則は、昭和 50 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則第 48 条は、昭和 57 年度入学生より適用する。

付 則

- 1 この学則は、昭和 59 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則第 48 条は、昭和 57 年度入学生より適用する。

付 則

- 1 この学則は、昭和 60 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則第 48 条は、昭和 57 年度入学生より適用する。

付 則

- 1 この学則は、昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則第 48 条は、昭和 57 年度入学生より適用する。

付 則

- 1 この学則は、昭和 62 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則第 48 条は、昭和 57 年度入学生より適用する。

付 則

- 1 この学則は、昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則第 48 条は、昭和 57 年度入学生より適用する。

付 則

- 1 この学則は、昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則第 23 条別表第一は、昭和 63 年度入学生より適用する。
- 3 この学則第 48 条は、昭和 57 年度入学生より適用する。

付 則

- 1 この学則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則第 48 条は、昭和 57 年度入学生より適用する。

付 則

- 1 この学則は、平成 2 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則第 48 条は、昭和 57 年度入学生より適用する。

付 則

この学則は、平成 3 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この学則は、平成 3 年 7 月 1 日から施行する。

付 則

この学則は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この学則は、平成 4 年 10 月 1 日から施行する。

付 則

この学則は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この学則は、平成 5 年 5 月 1 日から施行する。

付 則

この学則は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この学則は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。なお、平成 6 年度以前に入学した学生には、学則第 48 条を除き従前の学則を適用する。

付 則

この学則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。なお、平成 7 年度以前に入学した学生には、学則第 48 条及び第 50 条を除き従前の学則を適用する。

付 則

この学則は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。なお、平成 8 年度以前に入学した学生には、学則第 48 条及び別表第三を除き従前の学則を適用する。

付 則

この学則は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。なお、平成 10 年度以前に入学した学生には、学則第 4 条及び第 48 条を除き従前の学則を適用する。

付 則

この学則は、平成12年4月1日から施行する。なお、平成11年度以前に入学した学生には、学則第48条及び別表第四を除き従前の学則を適用する。

付 則

- 1 この学則は、平成13年4月1日から施行する。なお、平成12年度以前に入学した学生には、学則第48条及び別表第四を除き従前の学則を適用する。
- 2 この学則第2条第2項にかかわらず、平成13年度から平成15年度の学生定員は次のとおりとする。

平成13年度

第1年次

学 科		入学定員	編入定員	収容定員
絵画学科	洋画専攻	90名		90名
	日本画専攻	36名		36名
工芸学科		50名		50名
立体アート学科		30名		30名
デザイン学科		145名		145名
メディアアート学科		100名		100名
ファッション造形学科		50名		50名
芸術学科		40名		40名

第2年次、第3年次、第4年次

学 科		入学定員	収容定員
絵画学科	洋画専攻		300名
	日本画専攻		120名
デザイン学科	造形計画専攻		240名
	環境計画専攻		240名
工芸科			150名
芸術学科			150名

平成14年度

第1年次、第2年次

学 科		入学定員	編入定員	収容定員
絵画学科	洋画専攻	90名		180名
	日本画専攻	36名		72名
工芸学科		50名		100名
立体アート学科		30名		60名
デザイン学科		145名		290名
メディアアート学科		100名		200名
ファッション造形学科		50名		100名
芸術学科		40名		80名

第3年次、第4年次

学 科		入学定員	収容定員
絵画学科	洋画専攻		200名
	日本画専攻		80名
デザイン学科	造形計画専攻		160名
	環境計画専攻		160名
工芸科			100名
芸術学科			100名

平成 15 年度

第 1 年次、第 2 年次、第 3 年次

学 科		入学定員	編入定員	収容定員
絵画学科	洋画専攻	90 名		270 名
	日本画専攻	36 名		108 名
工芸学科				150 名
立体アート学科			5 名	95 名
デザイン学科				435 名
メディアアート学科			10 名	310 名
ファッション造形学科			5 名	155 名
芸術学科				120 名

第 4 年次

学 科		入学定員	収容定員
絵画学科	洋画専攻		200 名
	日本画専攻		80 名
デザイン学科	造形計画専攻		160 名
	環境計画専攻		160 名
工芸科			100 名
芸術学科			100 名

- 3 第 23 条に規程する専門科目の内、「コンピュータアート演習」(2 単位)は、デザイン科環境計画専攻及び工芸科の平成 12 年度入学生にも適用する。

付 則

- 1 この学則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。なお、平成 13 年度以前に入学した学生には、学則第 30 条及び第 48 条を除き従前の学則を適用する。
- 2 この学則第 2 条第 2 項にかかわらず、平成 14 年度の学生定員は次のとおりとする。

平成 14 年度

第 1 年次、第 2 年次

学 科		入学定員	編入定員	収容定員
絵画学科	洋画専攻	90 名		180 名
	日本画専攻	36 名		72 名
工芸学科		50 名		100 名
立体アート学科		30 名		60 名
デザイン学科		145 名		290 名
メディアアート学科		100 名		200 名
ファッション造形学科		50 名		100 名
芸術学科		40 名		80 名

第 3 年次、第 4 年次

学 科		入学定員	収容定員
絵画学科	洋画専攻		200 名
	日本画専攻		80 名
デザイン学科	造形計画専攻		160 名
	環境計画専攻		160 名
工芸科			100 名
芸術学科			100 名

付 則

- 1 この学則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。なお、平成 14 年度以前に入学した学生には、学則第 48 条及び別表第 4 を除き従前の学則を適用する。

- 2 この学則第2条第2項にかかわらず、平成15年度の学生定員は次のとおりとする。

平成15年度

第1年次、第2年次、第3年次

学 科		入学定員	編入定員	収容定員
絵画学科	洋画専攻	90名	15名	285名
	日本画専攻	36名	3名	111名
工芸学科		50名	5名	155名
立体アート学科		30名	5名	95名
デザイン学科		145名	20名	455名
メディアアート学科		100名	10名	310名
ファッション造形学科		50名	5名	155名
芸術学科		40名	5名	125名

第4年次

学 科		入学定員	収容定員
絵画科	洋画専攻		100名
	日本画専攻		40名
デザイン科	造形計画専攻		80名
	環境計画専攻		80名
工芸科			50名
芸術学科			50名

- 3 第34条の2は、平成13年度入学生にも適用する。

- 4 第40条第2項は、平成14年度入学生にも適用する。

付 則

- 1 この学則は、平成16年3月1日から施行する。

- 2 再入学を志願する者は、学則第22条の規定にかかわらず、改正前の除籍された者を含むものとする。

付 則

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

- 2 平成16年3月31日現在在籍する者については、従前の学則を適用する。

付 則

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。

- 2 平成17年3月31日現在在籍する者については、従前の学則を適用する。

付 則

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。

- 2 平成18年3月31日現在在籍する者については、従前の学則を適用する。

付 則

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。

- 2 平成19年3月31日現在在籍する者については、学則第30条の2を除き従前の学則を適用する。

付 則

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。

- 2 平成20年3月31日現在在籍する者については、従前の学則を適用する。

付 則

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。

- 2 平成21年3月31日現在在籍する者については、従前の学則を適用する。

付 則

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。なお、平成21年度以前に入学した学生には、学則第48条を除き従前の学則を適用する。

- 2 この学則第2条第2項にかかわらず、平成22年度から平成24年度の学生定員は次のとおりとする。

平成 22 年度

第 1 年次

学 科	入学 定員	編入 定員	収容 定員
美術学科	200 名		200 名
デザイン・工芸学科	230 名		230 名
アート・デザイン表現学科	160 名		160 名

第 2 年次、第 3 年次、第 4 年次

学 科	入学 定員	編入 定員	収容 定員
絵画学科	洋画専攻		15 名
	日本画専攻		3 名
工芸学科		5 名	160 名
立体アート学科		5 名	100 名
デザイン学科		20 名	475 名
メディアアート学科		10 名	320 名
ファッション造形学科		5 名	160 名
芸術学科		5 名	130 名

平成 23 年度

第 1 年次、第 2 年次

学 科	入学 定員	編入 定員	収容 定員
美術学科	200 名		400 名
デザイン・工芸学科	230 名		460 名
アート・デザイン表現学科	160 名		320 名

第 3 年次、第 4 年次

学 科	入学 定員	編入 定員	収容 定員
絵画学科	洋画専攻		15 名
	日本画専攻		3 名
工芸学科		5 名	110 名
立体アート学科		5 名	70 名
デザイン学科		20 名	330 名
メディアアート学科		10 名	220 名
ファッション造形学科		5 名	110 名
芸術学科		5 名	90 名

平成 24 年度

第 1 年次、第 2 年次、第 3 年次

学 科	入学 定員	編入 定員	収容 定員
美術学科	200 名	14 名	614 名
デザイン・工芸学科	230 名	16 名	706 名
アート・デザイン表現学科	160 名	10 名	490 名

第 4 年次

学 科	入学 定員	編入 定員	収容 定員
絵画学科	洋画専攻		105 名
	日本画専攻		39 名
工芸学科			55 名
立体アート学科			35 名
デザイン学科			165 名
メディアアート学科			110 名
ファッション造形学科			55 名
芸術学科			45 名

付 則

この学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この学則は、平成 27 年 7 月 23 日から施行する。

付 則

この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

- この学則は平成 29 年 4 月 1 日から施行する。なお、平成 28 年度以前に入学した学生には、学則第 48 条を除き従前の学則を適用する。
- この学則第 2 条第 2 項にかかわらず、平成 29 年度から平成 31 年度の学生定員は次のとおりとする。

平成 29 年度

第 1 年次

学 科	入学 定員	編入 定員	収容 定員
美術学科	190 名		190 名
デザイン・工芸学科	220 名		220 名
アート・デザイン表現学科	160 名		160 名

第 2 年次、第 3 年次、第 4 年次

学 科	入学 定員	編入 定員	収容 定員
美術学科		14 名	628 名
デザイン・工芸学科		16 名	722 名
アート・デザイン表現学科		10 名	500 名

平成 30 年度

第 1 年次、第 2 年次

学 科	入学 定員	編入 定員	収容 定員
美術学科	190 名		380 名
デザイン・工芸学科	220 名		440 名
アート・デザイン表現学科	160 名		320 名

第 3 年次、第 4 年次

学 科	入学 定員	編入 定員	収容 定員
美術学科		14 名	428 名
デザイン・工芸学科		16 名	492 名
アート・デザイン表現学科		10 名	340 名

平成 31 年度

第 1 年次、第 2 年次、第 3 年次

学 科	入学 定員	編入 定員	収容 定員
美術学科	190 名	14 名	584 名
デザイン・工芸学科	220 名	16 名	676 名
アート・デザイン表現学科	160 名	10 名	490 名

第 4 年次

学 科	入学 定員	編入 定員	収容 定員
美術学科			214 名
デザイン・工芸学科			246 名
アート・デザイン表現学科			170 名

付 則

この学則は、平成 30 年 2 月 1 日から施行する。

付 則

- 1 この学則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 31 年 3 月 31 日現在在籍する者については、従前の学則を適用する。

付 則

- 1 この学則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

- 1 この学則は令和 5 年 4 月 1 日から施行する。なお、令和 4 年度以前に入学した学生には、従前の学則を適用する。
- 2 この学則第 2 条第 2 項にかかわらず、令和 5 年度から令和 7 年度の学生定員は次のとおりとする。

令和 5 年度

学 科	入学 定員	編入 定員	収容 定員
美術学科	190 名	14 名	788 名
デザイン・工芸学科	220 名	16 名	912 名
アート・デザイン表現学科	160 名	10 名	660 名
共創デザイン学科	60 名		60 名

令和 6 年度

学 科	入学 定員	編入 定員	収容 定員
美術学科	190 名	14 名	788 名
デザイン・工芸学科	220 名	16 名	912 名
アート・デザイン表現学科	160 名	10 名	660 名
共創デザイン学科	60 名		120 名

令和 7 年度

学 科	入学 定員	編入 定員	収容 定員
美術学科	190 名	14 名	788 名
デザイン・工芸学科	220 名	16 名	912 名
アート・デザイン表現学科	160 名	10 名	660 名
共創デザイン学科	60 名		180 名

別表第1

(1) 学部共通科目

科目区分	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
学部共通科目	女子美基礎講座	2		1. 学部共通科目については、30単位以上を修得すること。女子美基礎講座、女子美の教養を必修とする。 2. 「グローバルな多様性社会に必要な知識を身につける」については、6単位以上修得すること。 (1) 日本語A、Bは外国人留学生のみ履修でき、且つ必修とする。 3. 「美大生としての基礎力・創造力を養う」については、10単位以上を修得すること。 4. 「アートを社会と生活に生かす」については、2単位以上を修得すること。 5. 「語学力を高めて世界で活躍する」については、4単位以上修得し、以下の科目より2単位以上修得すること。 Joshibi Foundation English Joshibi Global English Joshibi Art English English Conversation English in Film and the Performing Arts 6. 教員免許状を取得する者は、教育原論、教育心理学、法学（日本国憲法）、健康科学を必修とする。 7. 学芸員資格を取得する者は、博物館概論、生涯学習概論、博物館展示論、博物館教育論を必修とする。
	女子美の教養	2		
	ジェンダー研究		2	
	ジェンダーとアート研究		2	
	歴史の中の女性		2	
	女性と法		2	
	ジェンダー論		2	
	ジェンダーとアート概論		2	
	情報とアート		2	
	人権・ダイバーシティとアート		2	
	哲学		2	
	歴史学		2	
	文学		2	
	文化人類学		2	
	思想史		2	
	コミュニケーション論		2	
	比較文化論		2	
	異文化理解		2	
	言語学		2	
	伝統文化論		2	
	法学（日本国憲法）		2	
	社会福祉学		2	
	国際関係論		2	
	経済学		2	
	観光学		2	
	教育原論		2	
	アートと法入門		2	
	芸術文化政策論		2	
	日本語A		1	
	日本語B		1	
	環境とアート		2	
	身体とアート		2	
	数理科学		2	
生命科学		2		
心理学		2		
教育心理学		2		
青年心理学		2		
環境論		2		
スポーツ演習A		1		
スポーツ演習B		1		
健康科学A		1		
健康科学B		1		
精神保健		2		
行動心理学		2		
身体機能論		2		

科目区分	授業科目	単位数		備考	
		必修	選択		
学部 共通科目	美大生としての基礎力・創造力を養う 芸術	音楽とアート		2	
		古美術研究		2	
		西洋美術史概説		2	
		西洋美術史特論A		2	
		西洋美術史特論B		2	
		西洋美術史特論C		2	
		日本美術史概説		2	
		日本美術史特論A		2	
		日本美術史特論B		2	
		日本美術史特論C		2	
		東洋美術史概説		2	
		東洋美術史特論A		2	
		東洋美術史特論B		2	
		美学		2	
		現代美学		2	
		芸術学A		2	
		芸術学B		2	
		芸術学C		2	
		現代美術論		2	
		デザイン史A		2	
		デザイン史B		2	
		印刷概論		2	
		美術解剖学A		2	
		美術解剖学B		2	
		図学A		2	
		図学B		2	
		書道A		1	
		書道B		1	
		文化遺産学		2	
		写真史		2	
		色彩学A		2	
		色彩学B		2	
		造形心理学		2	
		実践するアート	アートを社会と生活に生かす	プロジェクト・スタディーズ	
アーティスト・イン・レジデンス				2	
国際芸術プログラム				2	
地域共創学				2	
アーティスト・イン・レジデンス概論				2	
カラーコーディネート基礎				2	
表現と癒しの営み				2	
子ども発達論				2	
インテリアデザイン史				2	

科目区分	授業科目		単位数		備考	
			必修	選択		
学部 共通 科目	アート を社会 と生活 に生かす	キャリア アリア テラシ ー	インターンシップ1		1	
			インターンシップ2		2	
			インターンシップ3		3	
			インターンシップ4		4	
			博物館概論		2	
			キャリア形成A		2	
			キャリア形成B		2	
			キャリア形成C		2	
			キャリア形成D		2	
			情報メディア基礎演習		2	
	語学 力を高 め世界 で活躍 する	語学 力を高 める	Joshibi Foundation English A		1	
			Joshibi Foundation English B		1	
			Joshibi Art English A		1	
			Joshibi Art English B		1	
			English in Film and the Performing Arts A		1	
			English in Film and the Performing Arts B		1	
			Joshibi Global English A		1	
			Joshibi Global English B		1	
			English Conversation A		1	
			English Conversation B		1	
			フランス語 I A		1	
			フランス語 I B		1	
			イタリア語 I A		1	
			イタリア語 I B		1	
			ドイツ語 I A		1	
			ドイツ語 I B		1	
			中国語 I A		1	
			中国語 I B		1	
			フランス語 II A		1	
			フランス語 II B		1	
			イタリア語 II A		1	
			イタリア語 II B		1	
			ドイツ語 II A		1	
			ドイツ語 II B		1	
中国語 II A		1				
中国語 II B		1				

(2) 学科専門科目

科目区分	授業科目	単位数		備考		
		必修	選択			
美術学 共通科目	アート・プラクティスⅠ		2	芸術文化専攻は 何れか2単位 必修とする。	卒業のためには、学科専門科目について94単位以上修得すること。 洋画専攻、日本画専攻、立体アート専攻、 美術教育専攻は6単位必修とする。	
	アート・プラクティスⅡ		2			
	アート・アクティビティA		2			
	アート・アクティビティB		2			
	色彩文化概論		2			芸術文化専攻は 何れか2単位 必修とする。
	配色調和論		2			
	視覚心理学		2			
	カラーキャリアⅠ		2			
	カラーキャリアⅡ		2			
	技法史		2			
	文化資源学		2			芸術文化専攻は 何れか2単位 必修とする。
	ヴィジュアルスタディーズA		2			
	ヴィジュアルスタディーズB		2			
	デザイン批評A		2			芸術文化専攻は 何れか2単位 必修とする。
	デザイン批評B		2			
	芸術人類学		2			
	芸術民俗学		2			
	芸術政策と法		2			
	創作活動と法		2			
	美術選択実技A(油彩画)		2			
	美術選択実技A(リトグラフ)		2			
	美術選択実技A(日本画)		2			
	美術選択実技A(彫塑)		2			
	美術選択実技A(立体)		2			
	美術選択演習A(素描/描写)		2			
	美術選択演習A(パネル作製)		1			
	美術選択演習A(紙)		1			
	美術選択演習A(日本画)		2			
	美術選択演習A(金工/ジュエリー)		2			
	美術選択演習A(繊維/フェルト)		2			
	美術選択演習A(CG)		2			
	美術選択演習A(写真)		2			
	美術選択演習A(メディア)		2			
	絵画素材論A		1			
	美術選択実技B(油彩画)		2			
	美術選択実技B(古典技法)		2			
	美術選択実技B(銅版画)		2			
	美術選択実技B(日本画)		2			
	美術選択実技B(彫塑)		2			
	美術選択実技B(立体)		2			
	美術選択演習B(素描/描写)		2			
	美術選択演習B(パネル作製)		1			
美術選択演習B(紙)		1				
美術選択演習B(日本画)		2				
美術選択演習B(金工/ジュエリー)		2				
美術選択演習B(繊維/フェルト)		2				
美術選択演習B(写真)		2				
美術選択演習B(メディア)		2				
美術選択演習B(製本)		2				
美術選択演習B(3D・CG初級)		1				
美術選択演習B(3D・CG中級)		1				
絵画素材論B		1				
石彫		1				
芸術文化オープンゼミⅠ		2	芸術文化専攻は必修とする。 美術教育専攻は必修とする。			
芸術文化オープンゼミⅡ		4				
美術教育論A		2				
美術教育論B		2				
芸術文化オープンゼミⅢ		4				

科目 区分	授 業 科 目	単位数		備 考
		必修	選択	
美 術 学 科 専 攻 領 域 専 門 科 目	絵画ⅠA		6	洋画専攻は必修とする。
	絵画ⅠB		5	
	基礎構成演習		2	美術教育専攻は必修とする。
	デッサンⅠ		2	
	日本画基礎ⅠA		7	日本画専攻は必修とする。
	日本画基礎ⅠB		5	
	彫塑基礎Ⅰ		7	立体アート専攻は必修とする。
	素材演習		3	
	絵画		2	
	彫塑概論		2	
	造形表現基礎ⅠA a		3	美術教育専攻は必修とする。
	造形表現基礎ⅠA b		1	
	造形表現基礎ⅠA c		1	
	造形表現基礎ⅠB		2	
	デザイン・工芸選択実技B		2	
	芸術文化基礎ⅠA		2	芸術文化専攻は必修とする。
	芸術文化基礎ⅠB		2	
	芸術文化基礎ⅠC		2	
	グローバルコミュニケーションⅠ		2	
	海外芸術研修ⅠA		2	
	海外芸術研修ⅠB		2	美術教育専攻は何れか2単位必修とする。 芸術文化専攻は以下の科目より何れか2単位必修とする。 デザイン工芸論A、デザイン工芸論B、印刷概論、工芸史A、工芸史B
	日本文化研修A		2	
	デザイン・工芸論A		2	
	デザイン・工芸論B		2	
	絵画ⅡA		4	12単位
	絵画ⅡB		8	
	版画Ⅰ		10	12単位
	版画表現演習Ⅰ		2	
	デッサンⅡ		2	洋画専攻、美術教育専攻は必修とする。
	日本画基礎ⅡA		7	日本画専攻は必修とする。
	日本画基礎ⅡB		7	
	彫塑基礎Ⅱ		2	立体アート専攻は必修とする。
	素材実習		5	
	立体基礎		3	
	工芸		2	
	造形表現基礎ⅡA a		4	美術教育専攻は必修とする。
	造形表現基礎ⅡA b		1	
	造形表現基礎ⅡA c		1	
	造形表現基礎ⅡB		2	
	美術教育演習A		2	
美術科教育内容指導論A		2	芸術文化専攻は必修とする。	
芸術文化基礎ⅡA		2		
芸術文化基礎ⅡB		2		
芸術文化基礎ⅡC		2		
グローバルコミュニケーションⅡ		2		
海外芸術研修ⅡA		2	芸術文化専攻は必修とする。	
海外芸術研修ⅡB		6		
日本文化研修B		2		
芸術文化ゼミⅠ		2		
印刷概論		2	芸術文化専攻は以下の科目より何れか2単位必修とする。 デザイン工芸論A、デザイン工芸論B、印刷概論、工芸史A、工芸史B	
工芸史A（染織）		2		
工芸史B（陶ガラス）		2		

科目 区分	授 業 科 目	単位数		備 考	
		必修	選択		
美 術 学 科	絵画ⅢA		8	15単位 洋画専攻は何れか15単位必修とする。	
	絵画ⅢB		7		
	版画Ⅱ		11		
	素材実験Ⅰ		2		
	版画表現演習Ⅱ		2		
	日本画研究ⅠA		8	日本画専攻は必修とする。	
	日本画研究ⅠB		8		
	造形表現演習		2	立体アート専攻は必修とする。	
	塑造ⅠA		7	14単位	立体アート専攻は何れか14単位必修とする。
	塑造ⅠB		7		
	紙ⅠA		7	14単位	
	紙ⅠB		7		
	木ⅠA		7	14単位	
	木ⅠB		7		
	石ⅠA		7	14単位	
	石ⅠB		7		
	金属ⅠA		7	14単位	
	金属ⅠB		7		
	造形表現研究ⅠA a		4	美術教育専攻は必修とする。	
	造形表現研究ⅠA b		1		
	造形表現研究ⅠA c		1		
	造形表現研究ⅠB		2		
	デッサンⅢ		2		
	デザイン・工芸選択実技A		2		
	美術教育演習B		2		
	美術科教育内容指導論B		2		
	グローバルコミュニケーションⅢ		2		芸術文化専攻は必修とする。
	芸術文化ゼミⅡ（芸術表象）		4		芸術文化専攻は何れか4単位必修とする。
	芸術文化ゼミⅡ（美術史）		4		
	芸術文化ゼミⅡ（色彩）		4		
	絵画Ⅳ		8	洋画専攻は何れか8単位必修とする。	
	版画Ⅲ		7		
	素材実験Ⅱ		1	日本画専攻は必修とする。	
	日本画研究Ⅱ		8		
	塑造Ⅱ		8		
	紙Ⅱ		8		
木Ⅱ		8			
石Ⅱ		8			
金属Ⅱ		8			
造形表現研究Ⅱ		8	美術教育専攻は必修とする。		
芸術文化ゼミⅢ（芸術表象）		4	芸術文化専攻は何れか4単位必修とする。		
芸術文化ゼミⅢ（美術史）		4			
芸術文化ゼミⅢ（色彩）		4			
卒業制作		10	洋画専攻、日本画専攻、立体アート専攻は必修とする。		
卒業研究		10	美術教育専攻は必修とする。		
卒業研究		4	芸術文化専攻は必修とする。		

科目区分	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
デザイン イ ン ・ 工 芸 学 科	デザイン・工芸選択実技A	2		卒業のためには、学科専門科目について94単位以上修得すること。
	デザイン・工芸選択実技B	2		
	デザイン・工芸論A	2		
	デザイン・工芸論B	2		
	デザイン図法		2	プロダクトデザイン専攻、環境デザイン専攻は必修とする。
	コンピュータプレゼン演習A		2	
	コンピュータプレゼン演習B		2	
	色彩計画演習		2	
	素材演習A		2	
	素材演習B		2	
	素材演習C		2	
	素材演習D		2	
	素材演習E		2	
	素材演習F		2	
	バリアフリー演習		1	
	マーケティング論		2	
	人間工学論		2	
	デザインと法		2	
	展示計画論		2	
	デザイン心理学		2	
	デザインサーベイ論		2	
	インテリアデザイン史		2	
	日本服装史		2	
	文様史		2	
	伝統染織文化論		2	
	テキスタイル表現論		2	
	空間演出論		2	
	現代造形論		2	
	広告論		2	
	写真史		2	
	造形演習A		2	
	造形演習B		2	
	造形演習C		2	
	造形演習D		2	
	エコロジカルプランニング演習		1	
	ライティング演習		1	
	印刷概論		2	ヴィジュアルデザイン専攻は必修とする。
	ヴィジュアルデザイン概論		2	ヴィジュアルデザイン専攻は必修とする。
	プロダクトデザイン概論		2	プロダクトデザイン専攻は必修とする。
	環境デザイン概論		2	環境デザイン専攻は必修とする。
	工芸史A(染織)		2	工芸専攻は何れか2単位必修とする。
	工芸史B(陶ガラス)		2	
映像表現演習A		2		
映像表現演習B		2		
写真演習		2		
英語プレゼンテーション		2		
建築材料学		2		
建築生産I		1		
建築生産II		1		
建築法規		1		
構造計画		2		
建築設備		2		

科目区分	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
デザイン領域・専攻	ヴィジュアルデザイン基礎演習Ⅰ-A		2	ヴィジュアルデザイン専攻は必修とする。
	ヴィジュアルデザイン基礎演習Ⅰ-B		2	
	ヴィジュアルデザイン基礎演習Ⅰ-C		2	
	ヴィジュアルデザイン基礎演習Ⅰ-D		2	
	ヴィジュアルデザイン基礎演習Ⅰ-E		2	
	ヴィジュアルデザイン基礎演習Ⅰ-F		2	
	表現演習Ⅰ		2	リネオグラフィ専攻、ノログラフィ専攻は必修とする。
	プロダクトデザイン基礎演習A		2	
	プロダクトデザイン基礎演習B		2	プロダクトデザイン専攻は必修とする。
	プロダクトデザイン基礎演習C		2	
	プロダクトデザイン基礎演習D		2	
	プロダクトデザイン基礎演習E		2	
	プロダクトデザイン基礎演習F		2	
	CG演習Ⅰ		2	
	環境デザイン基礎演習A		2	
	環境デザイン基礎演習B		2	
	環境デザイン基礎演習C		2	
	環境デザイン基礎演習D		2	
	環境デザイン基礎演習E		2	
	環境デザイン基礎演習F		2	環境デザイン専攻、工芸専攻は必修とする。
	CG演習		2	
	工芸基礎(染)		2	工芸専攻は必修とする。
	工芸基礎(織)		2	
	工芸基礎(刺繍)		2	
	工芸基礎(陶)		2	
	工芸基礎(ガラス)		2	
	ヴィジュアルデザイン基礎演習Ⅱ-A		2	ヴィジュアルデザイン専攻は必修とする。
	ヴィジュアルデザイン基礎演習Ⅱ-B		2	
	ヴィジュアルデザイン基礎演習Ⅱ-C		2	
	ヴィジュアルデザイン基礎演習Ⅱ-D		2	
	ヴィジュアルデザイン基礎演習Ⅱ-E		2	
	ヴィジュアルデザイン基礎演習Ⅱ-F		2	
	表現演習Ⅱ-A		2	
	表現演習Ⅱ-B		2	
	プロダクトデザイン演習A		2	プロダクトデザイン専攻は必修とする。
	プロダクトデザイン演習B		2	
	プロダクトデザイン演習C		2	
	プロダクトデザイン演習D		2	
	プロダクトデザイン演習E		2	
	プロダクトデザイン演習F		2	
CG演習Ⅱ		2		
表現演習Ⅱ		2		
プロダクトデザイン史		2	環境デザイン専攻は必修とする。	
環境デザイン演習A		2		
環境デザイン演習B		3		
環境デザイン演習C		2		
環境デザイン演習D		2		
環境デザイン演習E		2		
製図演習		2		
CAD演習		2		
プレゼン演習Ⅰ		2		
染Ⅰ		5		18単位
織Ⅰ		5		
刺繍Ⅰ		4		
材料学A(繊維)		4		
陶Ⅰ		7		
ガラスⅠ		7	18単位	
材料学B(陶ガラス)		4		

科目区分	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
デザイン領域・工芸学科	ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-A		2	ヴィジュアルデザイン専攻は必修とする。
	ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-B		2	
	ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-C		2	
	ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-D		2	
	ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-E		2	
	ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-F		2	
	表現演習Ⅲ-A		2	表現演習Ⅲ-A, Ⅲ-B
	表現演習Ⅲ-B		2	
	3D-CG演習		2	プロダクトデザイン専攻は必修とする。
	プロダクトデザインⅠAa		3	何れか3単位
	プロダクトデザインⅠAb		3	
	プロダクトデザインⅠBa		3	
	プロダクトデザインⅠBb		3	何れか3単位
	プロダクトデザインⅠCa		3	
	プロダクトデザインⅠCb		3	
	プロダクトデザインⅠDa		3	何れか3単位
	プロダクトデザインⅠDb		3	
	構造演習		2	環境デザイン専攻は必修とする。
	プレゼン演習Ⅱ		2	
	環境デザインⅠAa		2	何れか2単位
	環境デザインⅠAb		2	
	環境デザインⅠBa		2	何れか2単位
	環境デザインⅠBb		2	
	環境デザインⅠCa		2	何れか2単位
	環境デザインⅠCb		2	
	環境デザインⅠDa		2	何れか2単位
	環境デザインⅠDb		2	
	環境デザインⅠEa		3	何れか3単位
	環境デザインⅠEb		3	
	プレゼンテーション演習		2	工芸専攻は必修とする。
	染ⅡA		7	1.4単位
	染ⅡB		7	
	織ⅡA		7	1.4単位
	織ⅡB		7	
刺繍ⅡA		7	1.4単位	
刺繍ⅡB		7		
陶ⅡA		7	1.4単位	
陶ⅡB		7		
ガラスⅡA		7	1.4単位	
ガラスⅡB		7		
ヴィジュアルデザイン演習Ⅱ-A		4	ヴィジュアルデザイン専攻は必修とする。	
ヴィジュアルデザイン演習Ⅱ-B		4		
プロダクトデザインⅡAa		3	何れか3単位	
プロダクトデザインⅡAb		3		
プロダクトデザインⅡBa		3		
プロダクトデザインⅡBb		3	何れか3単位	
環境デザインⅡAa		4		
環境デザインⅡAb		4		
環境デザインⅡBa		4	何れか4単位	
環境デザインⅡBb		4		
染Ⅲ		8	工芸専攻は何れか8単位必修とする。	
織Ⅲ		8		
刺繍Ⅲ		8		
陶Ⅲ		8		
ガラスⅢ		8		
卒業制作		10		

科目 区分	授 業 科 目	単位数		備 考
		必修	選択	
ア ー ト ・ 学 デ ザ イ ン 表 現 学 科	アート・デザイン表現基礎演習 A	2		卒業のためには、学科専門科目について94単位以上修得すること。
	アート・デザイン表現基礎演習 B	2		
	アート・デザイン表現基礎演習 C	2		
	アート・デザイン表現基礎演習 D	2		
	宇宙・人間・アート	2		
	アート表現論	2		
	メディア概論		2	メディア表現領域は必修とする。
	ヒーリング・デザイン概論		2	ヒーリング表現領域は必修とする。
	癒しの文化論		2	
	ファッションデザイン史		2	ファッションテキスタイル表現領域は必修とする。
	ファッション&テキスタイル概論		2	
	ミュージアムデザイン概論		2	アートプロデュース表現領域は必修とする。
	アートプロデュース概論		2	
	アート・デザイン表現演習 I	2		
	カラーセラピー概論		2	ヒーリング表現領域は必修とする。
	キャラクター文化論		2	
	メディアアート概論		2	メディア表現領域は何れか8単位必修とする。
	演出概論		2	
	メディアコミュニケーション論		2	ファッションテキスタイル表現領域は何れか2単位必修とする。 アートプロデュース表現領域は必修とする。
	国際交流文化概論 A		2	
	国際交流文化概論 B		2	ヒーリング表現領域は何れか2単位必修とする。
	伝統・先端		2	
	ファッション文化論		2	ファッションテキスタイル表現領域は必修とする。
	子ども発達論		2	ヒーリング表現領域は何れか2単位必修とする。
	絵本芸術論		2	
	子どもの福祉デザイン概論		2	アートプロデュース表現領域は必修とする。
	現代文化概論		2	
	映像文化概論		2	
	ファシリテーションデザイン概論		2	
	プレゼンテーション技法論		2	
	アート・デザイン表現演習 II	2		
	デジタル知的財産概論		2	メディア表現領域は必修とする。
	メディア文化論特講		2	メディア表現領域は何れか4単位必修とする。
メディアマネジメント論		2		
コンテンツプロデュース論		2	ヒーリング表現領域は必修とする。	
芸術療法概論		2		
空間デザイン概論		2	ファッションテキスタイル表現領域は必修とする。	
生態学		2		
心とアートの心理学		2		
アンケート調査・分析法		2		

科目 区分	授 業 科 目	単 位 数		備 考
		必修	選択	
ア ー ト ・ デ ザ イ ン 表 現 学 科	コミュニケーションデザイン演習 A		2	メディア表現領域、アートプロデュース表現領域は必修とする。
	コミュニケーションデザイン演習 B		2	
	映像基礎演習		2	
	空間基礎演習		2	
	素材表現演習 A		2	ヒーリング表現領域は必修とする。
	素材表現演習 B		2	
	キャラクター制作基礎演習		2	
	ワークショップ演習		3	
	素材基礎演習		5	ファッションテキスト表現領域は必修とする。
	造形基礎演習		5	
	メディアアート演習 I		2	メディア表現領域は必修とする。
	メディアデザイン演習 I		2	
	メディア空間演習		2	
	アニメーション演習		2	
	サウンドデザイン演習		2	
	ストーリー表現演習		2	
	キャラクターデザイン演習		2	ヒーリング表現領域は必修とする。
	ヒーリング・デザイン実習 A		2	
	ヒーリング・デザイン実習 B		2	
	絵本制作基礎演習		3	
	装丁技法演習		1	
	壁画技法演習		4	
	コンピュータグラフィックス演習		1	ファッションテキスト表現領域は必修とする。
	ファッション演習 A		3	
	ファッション演習 B		3	
	テキスタイル演習 A		2	
	テキスタイル演習 B		2	
	感覚発達演習		2	
	子ども発達演習		2	アートプロデュース表現領域は必修とする。
	コンピュータデザイン演習		2	
アートプロデュース演習 I		2		
アートマネジメント演習 I		2		
ミュージアムスタディ演習 I		2		
ミュージアム・エデュケーション演習 I		2		
音楽プロデュース演習 I		2		
舞台芸術プロデュース演習 I		2		
アートコミュニケーション演習		2		

科目区分	授業科目	単位数		備考	
		必修	選択		
アート・デザイン表現学科	メディアアクション演習		5	メディア表現領域は必修とする。	
	メディアアート演習ⅡA		6		
	メディアアート演習ⅡB		6	メディア表現領域はどれか6単位必修とする。	
	メディアデザイン演習ⅡA		6		
	メディアデザイン演習ⅡB		6		
	プロジェクト&コラボレーション演習		4		メディア表現領域、ヒーリング表現領域は必修とする。
	ヒーリング・アートプロジェクト演習		3	ヒーリング表現領域、アートプロデュース表現領域は必修とする。	
	キャラクター制作演習		3	どれか3単位	
	形態表現演習		3		
	絵本作成演習		3	どれか3単位	ヒーリング表現領域は9単位必修とする。
	子どもの道具デザイン演習A		3		
	壁画制作演習		3	どれか3単位	
	子どもの道具デザイン演習B		3		
	ファッションテキストⅠA		4	ファッションテキスト表現領域は必修とする。	
	ファッションテキストⅠB		5		
	アートディレクション演習		2		
	アートプロデュース演習Ⅱ		2	アートプロデュース表現領域は必修とする。	
	アートマネジメント演習Ⅱ		2		
	ミュージアムスタディ演習Ⅱ		2		
	ミュージアム・エデュケーション演習Ⅱ		2		
	音楽プロデュース演習Ⅱ		2		
	舞台芸術プロデュース演習Ⅱ		2		
	メディアアクション実習		7	メディア表現領域は必修とする。	
	ヒーリング・クリエイションA		3	3単位	ヒーリング表現領域は6単位必修とする。
	ヒーリング・クリエイションB		3		
	ヒーリング・クリエイションC		3	3単位	
ヒーリング・クリエイションD		3			
ファッションテキストⅡ		5	ファッションテキスト表現領域は必修とする。		
着物文化演習		2			
身体衣服論		2			
総合アートプロデュース実習		5	アートプロデュース表現領域は必修とする。		
卒業制作		10	メディア表現領域、ヒーリング表現領域、ファッションテキスト表現領域は必修とする。		
卒業研究		10	アートプロデュース表現領域は必修とする。		

科目 区分	授 業 科 目	単位数		備 考	
		必修	選択		
共 創 デ ザ イ ン 学 科	共創デザイン演習 I-A	2		卒業のためには、学科専門科目について94単位以上修得すること。	
	共創デザイン演習 I-B	2			
	共創デザイン演習 I-C	2			
	共創デザイン演習 I-D	2			
	共創デザイン演習 I-E	2			
	共創デザイン演習 I-F	2			
	共創デザイン演習 I-G	2			
	共創デザイン演習 I-H	2			
	共創デザイン実践 I	2			
	共創デザイン概論	2			
	ライフマネジメント論 I	2			
	ビジネスデザイン概論	2			
	コミュニケーション特論 I	2			
	デザイン基礎集中演習		2		
	ドローイング演習		2		
	プログラミング演習		2		
	インクルーシブデザイン論		2		
	自律的キャリア教育		2		
	産官学連携演習		2		
	産官学連携実践		1		
	共創デザイン演習 II-A	2			
	共創デザイン演習 II-B	2			
	共創デザイン演習 II-C	2			
	共創デザイン演習 II-D	2			
	共創デザイン演習 II-E	2			
	共創デザイン実践 II	2			
	行動デザイン論	2			
	コミュニケーション特論 II	2			
	ライフマネジメント論 II-A	2			
	ライフマネジメント論 II-B	2			
	共創デザイン選択演習 II-A		2		何れか2単位必修とする。
	共創デザイン選択演習 II-B		2		
共創デザイン選択演習 II-C		2	何れか2単位必修とする。		
共創デザイン選択演習 II-D		2			
共創デザイン演習 II-F		2			
人間工学 (スペース&プロダクト)		2			
コミュニケーション特論 III		2			
感性異分野共創論 I		2			
ソーシャルグッドネスデザイン論		2			

科目区分	授業科目	単位数		備考	
		必修	選択		
共創デザイン専攻	留学認定科目A		2		
	留学認定科目B		4		
	留学認定科目C		6		
	留学認定科目D		8		
	留学認定科目E		10		
	共創デザイン演習Ⅲ-A	2			
	共創デザイン演習Ⅲ-B	2			
	共創デザイン実践Ⅲ	2			
	知財・ファイナンス概論	2			
	ライフマネジメント論Ⅲ-A	2			
	ライフマネジメント論Ⅲ-B	2			
	ファシリテーション論	2			
	共創デザイン選択演習Ⅲ-A		2		何れか2単位必修とする。
	共創デザイン選択演習Ⅲ-B		2		
	共創デザイン選択演習Ⅲ-C		2		
	共創デザイン選択演習Ⅲ-D		2		
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Aa		2		何れか2単位必修とする。
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ba		2		
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ca		2		
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Da		2		
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ea		2		
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ab		2		何れか2単位必修とする。
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Bb		2		
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Cb		2		
	共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Db		2		
共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Eb		2			
感性異分野共創論Ⅱ		2			
共創デザイン実践Ⅳ	2				
卒業研究	8				
ライフマネジメント論Ⅳ-A		2			
ライフマネジメント論Ⅳ-B		2			

別表第2

教職に関する科目

授 業 科 目	単位数		備 考	
	必修	選択		
教職概論		2	1. 教育原論、教育心理学、青年心理学は学部共通科目内の開設科目	
教育原論		2		
教育課程論		2		
教育方法論（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）		2		
特別支援教育論		1		
教育心理学		2		
青年心理学		2		
教育制度論		2		
特別活動論（総合的な学習の時間の指導法を含む）		2		
道徳教育論		2		高免のみの取得希望者は不要
美術科・工芸科教育法Ⅰ		2		美術科の免許状を取得する者は必修
美術科・工芸科教育法Ⅱ		2		
美術科・工芸科教育法Ⅲ		2		
美術科・工芸科教育法Ⅳ		2		
美術科・工芸科教育法Ⅴ		2		工芸科の免許状を取得する者は必修
美術科・工芸科教育法Ⅵ		2		
生徒指導論（進路指導を含む）		2		
教育相談論		2		
教育実習指導		1		
教育実習Ⅰ		2	高免のみの取得希望者は不要	
教育実習Ⅱ		2		
教職実践演習（中・高）		2		

別表第3

博物館に関する科目

授 業 科 目	単位数		備 考
	必修	選択	
博物館概論		2	1. 博物館概論、生涯学習概論、博物館展示論、博物館教育論は学部共通科目内の開設科目
生涯学習概論		2	
博物館経営論		2	
博物館展示論		2	
博物館教育論		2	
博物館資料論		2	
博物館資料保存論		2	
博物館情報・メディア論		2	
博物館実習		2	

別表第4

入学料・授業料および検定料その他

項 目		金 額
入学料 (初年度のみ)	1年次	220,000円 (110,000円)
	3年次編入学	220,000円 (110,000円)
	転入学	220,000円 (20,000円)
施設設備料(年額)		360,000円
維持費(年額)		50,000円
授業料(年額)		1,198,000円
実習料(年額)		20,000~148,000円
入学検定料	1年次	30,000円 (15,000円)
	3年次編入学	30,000円 (15,000円)
	転入学	30,000円 (15,000円)
科目等履修生	講義	22,000円
	演習	32,300円
	実技実習	39,600円
	検定料	5,000円 (3,000円)
研究生	入学料	100,000円
	授業料(年額)	887,600円
	実習料(年額)	38,200~71,200円
	検定料	10,000円

備考

1. 入学料1年次の()内の金額は、本学付属高等学校からの推薦入学者に適用する。
2. 入学料3年次編入学及び入学検定料3年次編入学の()内の金額は、併設短大、本学に2年以上在学し62単位以上修得した者及び本学卒業者の場合に適用する。
3. 入学検定料1年次の()内の金額は、本学園卒業・修了・在学学生、または、本学の他学科・専攻及び併設短大本科に併願した場合に適用する。
4. 入学料転入学及び入学検定料転入学の()内の金額は、本学学生の場合に適用する。
5. 実習料はその専攻する内容によって定める。
6. 第2年次以降の授業料はスライド制授業料とする。
7. 科目等履修生で実技実習を履修する場合は、履修料のほか必要な実習料を徴収する。
8. 科目履修生の検定料の()内の金額は、本学卒業・修了生に適用する。

○芸術学部教授会内規

(昭和 45 年 10 月 1 日施行)

(目的)

第 1 条 女子美術大学学則第 6 条から第 10 条による教授会の運営は本内規によって行う。

(構成員)

第 2 条 教授会は、学長、専任の教授・准教授・助教をもって構成する。

(代理者)

第 3 条 教授会は代理者の出席を認めない。

(招集)

第 4 条 教授会の招集は学長が行う。

2 教授会の議長は芸術学部長とする。

3 議長に事故あるときは当該招集者が予め指名した教授が議長となる。

(会議)

第 5 条 教授会の成立には、構成員の 2 分の 1 以上の出席を必要とする。

2 教授会の議事は、出席構成員の審議を経て、学長が決定する。

(開催日)

第 6 条 教授会は、原則として毎月 1 回開催する。

2 必要あるときは臨時に開催することができる。

(非公開)

第 7 条 教授会の議事は、原則として非公開とする。

(人事)

第 8 条 専任教員の嘱任、昇任人事に関する事項については、別に定める人事に関する委員会の答申に基づき、教授会において審議するものとする。

(審議事項)

第 9 条 教授会は次の事項を審議する。

- (1) 教育課程に関すること。
- (2) 主要年中行事及び日程に関すること。
- (3) 授業科目修了の認定に関すること。
- (4) 学生の指導及び賞罰に関すること。
- (5) 入学試験に関すること。
- (6) 入学、退学、休学、転学及び卒業に関すること。
- (7) 各種奨学生に関すること。
- (8) 実習費等に関すること。
- (9) 学則その他本学の制規に関すること。
- (10) 前条以外の教員人事に関すること。
- (11) その他本学に関する重要なこと。

(議題提出とその手続)

第 10 条 教授会構成員及び事務当局は、審議を望む事項があるときは、これを議題として提出することができる。

2 前項による提出議題は、原則として教授会開催日の 1 週間前までに文書をもって教授会招集者に届出るものとする。

3 教授会招集者は、届出られた議題を教授会に上程しなければならない。

4 教授会招集者は、議題を予め教授会構成員に通知しなければならない。

(構成員以外出席教職員)

第 11 条 教授会招集者は、必要があると認めるとき教授会の承認を経て、構成員以外の教職員を常時又は臨時に出席させることができる。

2 教授会が適当と認めるときは、構成員以外の教職員の出席を許すことができる。

(議事録)

第 12 条 教授会に書記を置き、議事録を作成保管させるものとする。

(内規の改廃)

第 13 条 この内規の改廃は、教授会の議を経るものとする。**付 則**

- 1 この内規は、昭和 45 年 10 月 1 日から施行する。
- 2 この内規は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。
- 3 この内規は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。
- 4 この内規は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この内規は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この内規は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この内規は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

目 次

① 設置の趣旨及び必要性	p. 2
② 学部・学科等の特色	p. 5
③ 学部・学科等の名称及び学位の名称	p. 6
④ 教育課程の編成の考え方及び特色	p. 6
⑤ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	p. 10
⑥ 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外 実習を実施する場合の具体的計画	p. 12
⑦ 入学者選抜の概要	p. 13
⑧ 教員組織の編制の考え方及び特色	p. 14
⑨ 施設、設備等の整備計画	p. 15
⑩ 管理運営	p. 16
⑪ 自己点検・評価	p. 17
⑫ 情報の公表	p. 19
⑬ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	p. 22
⑭ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	p. 24

設置の趣旨等を記載した書類

① 設置の趣旨及び必要性

1 大学の沿革

女子美術大学は、「芸術による女性の自立」、「女性の社会的地位の向上」、「専門の技術家・美術教師の養成」を建学の精神に掲げ、美術教育を行う学校として1900年に創立された。以後、今日までの120有余年にわたる長い歴史の間に、画壇・デザイン界をはじめ、教育界などあらゆる分野に優れた人材を輩出するとともに、社会で自立できる女性たちを送り出している。

現代においても、「時代を超えて美を追求する個性豊かな専門家の育成」、「芸術との感動的出会いの積み重ねを通して、創造の喜びを培い、広い視野と柔軟な思考・行動能力の獲得をはかる」、「社会を読む眼を育て、時代の流れを先取りする芸術的感性を養う」という教育理念のもとに、知性と感性と技能を併せ持ち、美術の専門を活かして社会的、経済的に自立できる人材の育成を行っている。

2 設置の趣旨及び必要性

本学は創立以来、「芸術による女性の自立」、「女性の社会的地位の向上」、「専門の技術家・美術教師の養成」を建学の精神として、教育理念の具現化に向けて、常に教育研究の整備と充実に努めてきた。

今日、社会の諸情勢は急激に変化し、その方向性も複雑かつ多様となってきたことから、高等教育を取り巻く社会環境の変化の中で、本学では学部教育の理念や人材の養成に関する目的をより特色化する必要性が生じてきている。芸術学部において、時代を超えて美を追求する個性豊かな専門家の育成と芸術との感動的出会いの積み重ねを通して、創造の喜びを培い、広い視野と柔軟な思考・行動能力の獲得をはかり、社会を読む眼を育て、時代の流れを先取りする芸術的感性を養うための教育研究を展開してきたが、社会環境の変化に伴う芸術学分野の高度化や多様化により、当該専門分野の教育研究体制のさらなる整備と充実が求められている。現在においても絵画、彫刻、工芸、デザインなどの基幹分野の社会的な必要性は認知されているが、他方、基幹分野の一つを中核とした学問分野の広がりや基幹分野間の融合、さらには、基幹分野全域の総合化などの多様な教育体系が必要とされており、芸術学教育の学際化や総合化の傾向への対応が求められていることから、学部教育の多様な展開に向けて、特色ある教育に取り組むことが必要となっている。

このような社会環境の変化や学術研究の進展に伴う芸術学分野における社会的な要請に

応えるべく、既設のデザイン・工芸学科の中で展開してきたデザインに関する教育内容を基礎として、令和5年4月から、芸術学部へ共創デザイン学科を設置することとした。【資料1】

3 卒業後の進路と養成する人材を受け入れる側の需要

(1) 想定される卒業後の進路

卒業後の進路としては、デザイン会社をはじめとする関連企業等に所属し、地域におけるデザイン活動の促進やデザインを活用した地域振興、産業界における産業振興に向けたデザインの活用促進などの活動を通じて、地域の活性化や産業界の振興に貢献することが期待され、例えば、製造元や顧客との意思の疎通や連携を図りながら、商品の特色や魅力を包装や容器で表現することで、商品の価値の創造に寄与することなどが想定される。

(2) 学科を設置する学部の求人実績

共創デザイン学科の基礎となる既設のデザイン・工芸学科では、開設以来、建学の精神を教育の基盤として、「社会を変える創作者」の育成を使命として、常に教育研究の改善に努めてきたことから、地域社会からの高い評価と信頼を得ているとともに、共創デザイン学科を設置する芸術学部へ寄せられたこれまでの求人件数の実績からしても、人材を受け入れる側の需要の高さをうかがうことができる。【資料2】

今般の共創デザイン学科の設置計画においては、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、既設のデザイン・工芸学科における卒業生の進路や卒業生を受け入れる側の需要を十分に勘案したうえで、デザインによる地域や産業の振興を図るための創造的な能力と実践的な姿勢を育成することを目的とした教育組織として設置することから、十分な求人件数を見込むことができるものと考えている。

(3) 卒業生の人材需要調査

共創デザイン学科の設置計画を策定するうえで、卒業後の具体的な進路や地域社会の人材需要の見通しなどについて把握するために、本学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業やデザイン関連部門等を有する企業等を対象として、共創デザイン学科の社会的な必要性や養成する人材、共創デザイン学科の卒業生に対する人材需要調査を実施した。

その結果、共創デザイン学科の社会的な必要性については、有効回答数76件の約97.37%にあたる74件が「必要性を感じる」と回答しており、共創デザイン学科で養成する人材については、有効回答数76件の約98.68%にあたる75件が「必

要性を感じる」と回答していることから、共創デザイン学科の社会的な必要性及び共創デザイン学科で養成する人材の必要性の高さをうかがうことができる。

また、共創デザイン学科で学んだ卒業生に対する採用意向については、有効回答数76件の約85.53%にあたる65件が「採用したいと思う」と回答しているとともに、共創デザイン学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業等の採用人数については、「1人」と回答した企業等が10件、「3人以上」と回答した企業等が4件、「人数は未定」と回答した企業等が50件となっている。

なお、「3人以上」と回答した企業等の採用人数を3人とし、「人数は未定」と回答した企業等の採用人数を1人として、これらの採用人数を合計すると72人となり、このような本学への求人実績や卒業生の採用実績がある一部のデザイン関連企業やデザイン関連部門等を有する企業等に限定した調査結果においても、共創デザイン学科で学んだ卒業生への採用意向の高さがうかがえることから、人材を受け入れる側の需要は十分にあるものと考えられる。【資料3】

4 研究対象とする学問分野、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

共創デザイン学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「美術分野」として、伝達や用途などの目的や機能を考え、デザインする能力を身に付け、顧客や消費者をはじめとする多様な立場の人々と協働して、商品やサービスの価値を「共」に「創り」上げることのできる能力を備えた人材の養成を目的としている。

具体的には、共創デザイン学科では、伝達や用途などの目的や機能を考え、デザインする創出力、デザインの理論や手法を活用した発想や構想と課題の解決に向けてデザイン手法を運用する主体性・開拓力、デザインやデザイン手法に関する知識と能力を統合し、他者と共に商品やサービスの価値の創造に取り組むことができる実装力と柔軟性を身に付けることとしている。

共創デザイン学科では、デザインを創造するための基礎的・基本的な知識と能力を習得させ、デザインの理論や手法を活用し、デザインの諸活動を主体的・合理的かつ共創的にを行い、デザインによる地域や産業の振興を図るための創造的な能力と実践的な姿勢を育成することを教育研究上の目的（教育目標に相当）としている。

共創デザイン学科では、人材の養成に関する目的を踏まえ、学生に学位を授与するに当たり学生が修得しておくべき能力を含めた学位授与の方針を次のとおり定めることとする。

●学位授与の方針【資料4】

「学部共通科目」

学部共通科目においては、以下を学位授与の条件とします。

- ① 多様性を尊重する社会への理解および課題意識を醸成するために必要な学問的・実験的な知識・理論を修得し、幅広い教養を身に付けている。
- ② 芸術の理論と技法を活用し、地域や社会の諸問題に主体的に取り組む実践力や他者と協働し解決する力、生涯を通じて学ぶ姿勢とマネジメント力を身に付けている。
- ③ 芸術分野における基礎的知識を修得し、それらを学術・創作研究として創造的に発展させる思考力・判断力を身に付けている。
- ④ グローバル社会において自身の考えを的確に表現できる語学力や異文化に対する理解力を高め、総合的なコミュニケーション力を身に付けている。

「学科専門科目」

学科専門科目においては、以下を学位授与の条件とします。

- ① デザインに関する基礎的知識と技能を活用する能力を身に付けている。
- ② デザインの諸活動の実践により課題に主体的に向き合い、多様な立場の人と協働して解決方法を創造する能力と態度を身に付けている。
- ③ デザインの諸活動の実践を通して、生涯にわたり生じる様々なライフイベントや困難な課題を柔軟な思考と強靱な意思をもって乗り越え、自己成長を続けられる能力と態度を身に付けている。
- ④ デザインの理論や手法を始めとした知識・技能を総合して社会を洞察し、デザインで解決すべき課題を見出して、その解決策を構想する能力を身に付けている。
- ⑤ デザインの理論や手法を始めとした知識・技能を総合的に活用し実践型の学びを通して、商品やサービスなどの新たな価値を創造する能力とより良い社会の実現に取り組むことができる態度を身に付けている。

② 学部・学科等の特色

共創デザイン学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「美術分野」として、伝達や用途などの目的や機能を考え、デザインする能力を身に付け、顧客や消費者をはじめとする多様な立場の人々と協働して、商品やサービスの価値を「共」に「創り」上げることのできる能力を備えた人材の養成を目的としている。

共創デザイン学科の卒業後の進路としては、デザイン会社をはじめとする関連企業等に所属し、地域におけるデザイン活動の促進やデザインを活用した地域振興、産業界における産業振興に向けたデザインの活用促進などの活動を通じて、地域の活性化や産業界の振興に貢献することが期待され、例えば、製造元や顧客との意思の疎通や連携を図りながら、商品の特色や魅力を包装や容器で表現することで、商品の価値の創造に寄与することなどが想定される。

このことから、共創デザイン学科が担う機能と特色としては、中央教育審議会答申による「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、美術分野における教育研究を通して、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うことによる特色の明確化を図ることとしている。

③ 学部・学科等の名称及び学位の名称

共創デザイン学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野、人材の養成に関する目的、学位を授与するに当たり学生が修得しておくべき能力等が社会や受験生に最も分かりやすい名称とするために、学科の名称を「共創デザイン学科」、学位の名称を「学士（芸術）」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえたうえで、学科の英訳名称を「Department of Collaborative Design」、学位の英訳名称を「Bachelor of Fine Arts」とすることとした。

学科の名称

共創デザイン学科 「Department of Collaborative Design」

学位の名称

学士（芸術） 「Bachelor of Fine Arts」

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

1 教育課程の編成の方針

共創デザイン学科では、高等教育の大衆化の進行と生涯学習への移行を踏まえつつ、学部段階の専門教育では特定分野における完成教育というよりも、生涯学び続ける基礎を培うより普遍的な教育が求められていることから、教養教育及び専門分野の基礎・基本を重視した教育を行うことにより、専門的素養のある人材として活躍できる基礎的能力や生涯学習の基礎等を培うこととしている。

具体的には、共創デザイン学科では、学部段階における専門教育は、基礎・基本を重視しつつ、関連諸科学との関係を教えることなどを通じて、学生が主体的に課題を探求し解決す

るための基礎となる能力を育成するとともに、学部卒業後、社会人として就業し、成長していく過程において、実務等を通じて、新たな知識や能力を体得していくための資質や能力を育成するための基礎教育を重視することとしている。

特に、「学科専門科目」では、4年間の学習期間内において、人材の養成に関する目的や学位授与の方針を確実に達成するとともに、学部基礎教育の重要性を踏まえたうえで、教育課程が過密とならないように配慮することから、教育内容を精選し、人材の養成に関する目的や学位授与の方針を達成するために必要な授業科目について、優先順位を踏まえた配置とすることで、教育の質の確保を目指すこととしている。

2 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成・実施の方針

共創デザイン学科では、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針との一体性と整合性に留意しつつ、卒業までに学生が身に付けるべき資質や能力を修得するための教育課程編成・実施の方針を次のとおり定めることとする。

●教育課程編成・実施の方針

「学部共通科目」

以下の教育課程編成の分類毎にそれぞれの設定する能力を養成する科目を配置します。

- ① 多様性が尊重される社会において、ジェンダー、国際社会と日本、自然環境と人間、芸術について広く学び自己理解をすることで、その知識・理解を実地に関連付けることのできる幅広い教養を養う科目を配置する。
- ② 芸術的理論と技法を活用し、自分の未来像（キャリア）をデザインし、生涯にわたり地域社会の持続的発展に貢献できる主体的な実践力、マネジメント力、協働する力を養う科目を配置する。
- ③ 美学、美術史、色彩や図学など、芸術分野における基礎力、芸術的感性を培い、学術・創作研究へ発展・応用させることのできる創造的思考力・判断力を養う科目を配置する。
- ④ グローバル社会において多様な他者の文化的背景を理解し、傾聴の姿勢と共に自身の考えを的確に伝えるコミュニケーションスキルを用いて世界で活躍できる能力を養う科目を配置する。

「学科専門科目」

学科専門科目を通して、デザインを主軸に、ビジネス、テクノロジーを横断的に学

び、実践型プロジェクトに取り組むことで、多様な人々と共創する力を身に付け、専門領域での表現に反映できるカリキュラムを編成します。

- ① デザイン分野における基本的な理論と技法に関する理解とともに、デザイン分野の職業に関する倫理や社会的意義について理解する科目を配置する。
- ② デザイン活動を通して多様な立場の人々との協働作業を主導する姿勢、また、これらの協働により、高付加価値の商品やサービスを共に創り出す能力を養う科目を配置する。
- ③ デザインの諸活動の実践を通して、自己のアイデンティティを確立しその個性を磨き続ける意欲と、生涯にわたり自己成長を継続できる態度を養う科目を配置している。
- ④ デザイン活動に必要な独自の観察力や洞察力を高める理論と技法の修得のもと、それらを総合して見出した課題に対して、適切かつ効果的なデザイン手法を活用する能力を養う科目を配置する。
- ⑤ 産官学連携・地域連携等のプロジェクトの実施により多様な立場の人々との協働による高付加価値の商品企画や構想立案に関する体験を通して、講義や演習で得た知識と技能の総合化を図る科目を配置する。

3 教育課程の編成の考え方

共創デザイン学科では、「伝達や用途などの目的や機能を考え、デザインする創出力、デザインの理論や手法を活用した発想や構想と課題の解決に向けてデザイン手法を運用する主体性・開拓力、デザインやデザイン手法に関する知識と能力を統合し、他者と共に商品やサービスの価値の創造に取り組むことができる実装力と柔軟性を身に付ける」ことから、この目的を達成するために、教育課程を「学部共通科目」と「学科専門科目」から編成する。

(1) 学部共通科目

「学部共通科目」では、中央教育審議会答申などで指摘されている重要性や意義を踏まえたうえで、学部共通科目の学位授与の方針に掲げている目的を達成するための科目を配置する。

(2) 学科専門科目

「学科専門科目」では、基礎・基本を重視し、専門の骨格を正確に把握させるとともに、科目間の関係や履修の順序、単位数等に配慮し、系統性と順次生のある教育課程の編成としており、学科専門科目の学位授与の方針に掲げている目的を達成するための科目を配置する。

4 教育課程編成・実施の方針と授業科目との関係

共創デザイン学科における学位授与の方針は、教育課程における各科目群に配置している授業科目の体系的な履修により達成するものであるが、学位授与の方針を踏まえた教育課程編成・実施の方針と授業科目との主な関係については、以下のとおりとしている。

学位授与の方針を踏まえた教育課程編成・実施の方針として掲げている「多様性が尊重される社会において、ジェンダー、国際社会と日本、自然環境と人間、芸術について広く学び自己理解をすることで、その知識・理解を実地に関連付けることのできる幅広い教養を養う」ための科目としては、「女子美基礎講座」「女子美の教養」など、68科目を配置している。

「芸術的理論と技法を活用し、自分の未来像（キャリア）をデザインし、生涯にわたり地域社会の持続的発展に貢献できる主体的な実践力、マネジメント力、協働する力を養う」ための科目としては、「情報とアート」、「環境とアート」など、17科目を配置している。

「美学、美術史、色彩や図学など、芸術分野における基礎力、芸術的感性を培い、学術・創作研究へ発展・応用させることのできる創造的思考力・判断力を養う」ための科目としては、「ジェンダーとアート研究」「音楽とアート」など、40科目を配置している。

「グローバル社会において多様な他者の文化的背景を理解し、傾聴の姿勢と共に自身の考えを的確に伝えるコミュニケーションスキルを用いて世界で活躍できる能力を養う」ための科目としては、「プロジェクト・スタディーズ」「アーティスト・イン・レジデンス」など、19科目を配置している。

「デザイン分野における基本的な理論と技法に関する理解とともに、デザイン分野の職業に関する倫理や社会的意義について理解する」ための科目としては、「共創デザイン概論」、「共創デザイン演習 I-C」など、12科目を配置している。

「デザイン活動を通して多様な立場の人々との協働作業を主導する姿勢、また、これらの協働により、高付加価値の商品やサービスを共に創り出す能力を養う」ための科目としては、「コミュニケーション特論 I」、「共創デザイン演習 I-A」など、13科目を配置している。

「デザインの諸活動の実践を通して、自己のアイデンティティを確立しその個性を磨き続ける意欲と、生涯にわたり自己成長を継続できる態度を養う」ための科目としては、「ライフマネジメント論 I」、「自律的キャリア教育」など、9科目を配置している。

「デザイン活動に必要な独自の観察力や洞察力を高める理論と技法の修得のもと、それらを総合して見出した課題に対して、適切かつ効果的なデザイン手法を活用する能力を養う」ための科目としては、「ビジネスデザイン概論」「共創デザイン演習 I-B」など、30

科目を配置している。

「産官学連携・地域連携等のプロジェクトの実施により多様な立場の人々との協働による高付加価値の商品企画や構想立案に関する体験を通して、講義や演習で得た知識と技能の総合化を図る」ための科目としては、「共創デザイン実践Ⅰ」、「産官学連携演習」など、6科目を配置している。【資料4】

⑤ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1 教育方法

(1) 授業の方法

授業方法は、知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技術や技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式及び実践形式による授業形態を採ることとしている。

(2) 学生数の設定

授業の内容に応じた学生数の設定については、授業科目毎の授業形態に則した教育目的を効果的かつ確実に達成するために、講義形式は20人から60人、演習形式及び実践形式は10人から30人を基準とする。

(3) 配当年次

配当年次は、基礎から基幹へと体系的な学習が可能となるようにするとともに、特に、専門教育においては、専門分野の教育内容毎に、知識、技能、応用といった授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意するとともに、特定の学年や学期において偏りのある履修登録がなされないように配慮した配当としている。

(4) 履修科目の登録上限

学生の主体的な学習を促し、教室における授業と教室外の学習を合わせた充実した授業を展開することにより学習効果を高めるために、1学年当たりの卒業要件科目の履修登録単位数の上限を1年次は42単位、2～4年次は49単位とする。

(5) 厳格なる成績評価

卒業時における学生の質を確保する観点から、予め学生に対して各授業における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これに基づき厳格な評価を行うとともに、客観的な評価基準を適用することから、厳格な成績評価の方法として、GPA制度を導入する。

(6) 他大学等における授業科目の履修

本学が教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において修得した単

位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

また、本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、大学の定めるところにより単位を与えることができる。これにより与えることができる単位数は、上述の「本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる」単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

2 履修指導方法

履修指導方法は、授業を受ける学生に対して、教員が相談に応じる専用の時間を設けることで、きめ細やかな教育指導を行う体制を整えることとし、学年別の履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適性や能力に応じて学生の履修科目の選択に関する助言を行う事務職員を配置し、個別の履修相談に応じるなど、学生の履修指導体制を整備する。

また、「学科専門科目」では、専門分野の学問体系と学習段階に即した授業科目を配置しており、学部教育段階では、基礎的な専門知識や技能を確実に修得させることに重点を置くことが重要であることを踏まえたうえで、特定の学年・学期における偏りのある履修登録を避け、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した履修モデルを提示する。【資料5】

3 卒業要件

卒業要件は、学部に4年以上在学し、体系的な授業科目の履修により124単位以上を修得することとし、「学部共通科目」は必修科目4単位を含む30単位以上、「学科専門科目」は必修科目70単位を含む94単位以上を修得することとしている。

(1) 学部共通科目

「学部共通科目」は必修科目2科目4単位、選択科目120科目208単位を配置しており、卒業要件は、「学部共通科目」全体として、必修科目4単位を含む30単位以上を修得することとしている。

(2) 学科専門科目

「学科専門科目」は必修科目32科目70単位、選択科目38科目90単位を配置しており、卒業要件は、「学科専門科目」全体として、必修科目70単位を含む94単位以上を修得することとしている。

⑥ 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

1 実習先の確保の状況

デザイン、広報、企画などの業務体験を目的として配置している「産官学連携実践」における実習先の確保については、当該実習科目の内容と時間や期間などを勘案して、履修希望者数を50人程度と想定していることから、この履修希望想定者数を踏まえた実習先を計画している。【資料6】

なお、実習先については、学科設置後、履修希望者の実態等を見極めながら、一層の充実を図ることとしている。

2 実習先との連携体制

実習開始前に、本学の実習担当教員と実習先の実習指導者で、実習の目的や到達の目標、実習の方法と内容、成績の評価などについて十分な打合せを行いながら、実習先での指導体制を整えるとともに、実習期間中においても、必要に応じて各実習先を実習担当教員が訪問し、実習状況の確認や打合せを行うこととする。

さらに、実習の開始前と終了後に、本学の実習担当教員と実習先の実習指導者との定期的な情報交換や意見交換を行うとともに、各実習施設との間で日常的な連絡や調整による緊密な連携体制をとることにより、円滑な意思の疎通を図ることができるよう努めることとする。

3 成績評価体制及び単位認定方法

実習における成績評価については、実習評価基準に基づいて、実習科目の担当教員が行うこととし、実習企業における実習指導者の評価及び出欠等の状況、実習記録、レポート、自己評価表、面接などにより、実習目標の到達度合に照らしながら、総合的に判断したうえで、単位の認定を行うこととする。

4 その他特記事項

学外実習の実施においては、実習の種類や内容の特性から、実習先への移動に時間を要する場合や実習期間が長期にわたる場合があることから、学生や実習担当教員の個別的な状況を踏まえたうえで、必要に応じて、移動や宿泊などへの配慮を行うこととする。

⑦ 入学者選抜の概要

1 入学者受入れの方針

共創デザイン学科では、デザイン学分野に関する教育研究を通して、伝達や用途などの目的や機能を考え、デザインする能力を身に付け、顧客や消費者をはじめとする多様な立場の人々と協働して、商品やサービスの価値を「共」に「創り」上げることのできる能力を備えた人材の養成を目的としており、この目的を達成するための教育課程の編成としている。

このような共創デザイン学科において養成する人材と教育課程との関連性を踏まえて、入学者の基本的な受入れ方針は、「デザイン学分野に対する強い興味と関心及び学部教育に対する高い学習意欲有している者であることを基本としつつ、学部教育を受けるに相応しい基礎学力と適性能力を有している者を受け入れる」こととする。

具体的には、共創デザイン学科の入学者受入れの方針は、以下のとおりとする。

●入学者受入れの方針

- ① デザイン学分野に対する強い興味と関心を持ち、学部教育に対する高い学習意欲を有している。
- ② 高等学校で履修した主要科目に関する基本的な知識を有し、基礎的な課題を解くことができる。
- ③ 自分の発想を素描や文章などにより適切に表現でき、他者に対して的確に伝えることができる。

2 選抜方法・選抜体制

入学者選抜は、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、特別選抜により行うこととしている。総合型選抜では志望理由・活動報告書等所定書類の提出、体験プログラムの実施、参考資料持参による面接を行い、学校推薦型選抜では専門試験、面接を行う。一般選抜では、日程により異なるが、学力試験（独自試験又は大学入学共通テスト利用）と専門試験、面接と専門試験を実施する。特別選抜は、社会人、帰国子女、外国人留学生の3種類を実施し、各対象者に合わせた提出書類、専門試験、面接を行う。選抜方法別の募集人員については、総合型選抜 15 人、学校推薦型選抜 18 人、一般選抜 22 人、特別選抜（社会人、帰国子女、外国人留学生）各若干名としている。

3 選抜基準・合否判定

多様な資質を持った学生を受け入れるために、選抜方法毎に異なる選抜基準を設定し、

「思考力・判断力・表現力」と「主体的に学習に取り組む態度」を重視して選抜することとしている。

合否判定は、入学者受入れの方針に基づき、提出書類、面接、専門試験、学力試験を組み合わせることにより行うこととしている。

総合型選抜では提出書類、事前課題持参による面接、体験プログラムの実施により総合的な判定を行う。学校推薦型選抜では、提出書類による高等学校での学びの成果及び専門試験・面接により判定し、一般選抜では、学力試験（独自試験又は大学入学共通テスト利用）及び専門試験・面接の組み合わせにより判定する。特別選抜は、社会人、帰国子女、外国人留学生の3種類を実施し、各対象者に合わせて提出書類、専門試験、面接により判定することとしている。

⑧ 教員組織の編制の考え方及び特色

共創デザイン学科では、デザイン学分野に関する教育研究を通して、「デザインを創造するための基礎的・基本的な知識と能力を習得させ、デザインの理論や手法を活用し、デザインの諸活動を主体的・合理的かつ共創的に行い、デザインによる地域や産業の振興を図るための創造的な能力と実践的な姿勢を育成する」こととしており、これを達成するための教育課程の編成としている。

このことから、共創デザイン学科の教員組織は、既設のデザイン・工芸学科から異動する専任教員1人を含めて、研究上の業績を有する者、デザイン分野における優れた知識と経験を有する者及びデザイン業界の現場経験豊富な者による編成としており、教育研究の質が担保される教員組織であると考えている。教育課程における中核的な科目や必修科目を中心として、教授3人と准教授3人を配置する計画としている。

教員組織の一層の充実を図る観点から、今後の専任教員の研究活動を推進すべく、修士相当以上の学位を保有していない専任教員は就任後、芸術学部のデザイン学分野における研究業績を有した専任教員のもとで研究活動等に豊富に接することにより研究活動を行うための研究能力の伸長を図るとともに、研究奨励に関する規程の活用促進など研究活動の推進に向けた環境を引き続き整備する。さらに、専任教員の学位取得を推進するため、当該の専任教員に対して着手可能な者から学位取得に向けた中期的な研究計画書を提出させるとともに、研究費の助成制度の奨励など計画的な学位取得が可能となるよう修学支援体制の整備を図る。

共創デザイン学科の教員組織の年齢構成については、完成年度時点で、40歳代2人、50歳代2人、60歳代2人から構成することとしており、特定の年齢層に偏ることのないよう計画しているとともに、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障がない教員組織の

編成となるように配慮している。

完成年度までに定年に達する者1人を配置する計画としているが、この者の任用については、「教職員就業規則」第11条第3項の規定に基づいて完成年度末までの定年延長の措置が理事会で承認されていることから、専任教員の配置計画における支障はないものと考えている。当該教員の後任となる教員の補充については、当該教員との引継ぎが適切に行われるように十分に配慮しながら、計画的に採用等の活動に取り組むこととしている。【資料7】

⑨ 施設、設備等の整備計画

1 校地、運動場の整備計画

共創デザイン学科を設置する杉並キャンパスは東京都杉並区和田に位置し、現在、校地面積は17,733.50㎡を有している。その内訳は、校舎敷地面積が16,423.50㎡、運動場面積が1,310.0㎡となっている。

2 校舎等施設の整備計画

共創デザイン学科を設置する杉並キャンパスでは、現在7棟の校舎を有しており、その面積は24,274.16㎡である。

共創デザイン学科の設置に伴う校舎等施設の整備計画については、現在、主に第1年次生と第2年次生が利用する建物（面積1,104.50㎡）を建設中で、令和4年11月末完成予定である。研究室は、教員組織として計画している専任教員6人に対して共同研究室を設け、教員毎にエリアを区切って利用する計画としている。教員が研究執務に専念できる環境を保持するとともに、オフィスアワーに適切に対応できるようにするなど、学生の教育上の観点からも適切な設備となるように配慮する。【資料8】

杉並キャンパスで学部教育に必要な主要な教室等としては、講義室10室、演習室32室、実験・実習室45室、情報処理室1室の他、教員研究室31室、非常勤講師室、図書館、学長室、会議室、事務室、医務室、学生相談室、学生食堂などを整備している。

設備の整備計画については、現在、杉並キャンパスで整備している教具1,502点、校具866点を有効的に転共用するとともに、共創デザイン学科における学生数を踏まえた教育課程における授業科目や授業形態を実施するために必要となる新たな設備として、教具134点、校具330点を整備することとしている。【資料9】

3 図書等の資料及び図書館の整備計画

(1) 図書等の資料の整備計画

共創デザイン学科の設置を計画している杉並キャンパスの図書館では、図書等の資料について、現在、図書171, 136冊（うち外国書21, 112冊）を所蔵しているとともに、学術雑誌211誌（うち外国雑誌58誌。電子ジャーナル1種（外国書）を含む。）、ビデオやDVDなどの視聴覚資料2, 274点の整備がなされている。

一方、本学の相模原キャンパスの図書館では、図書等の資料について、現在、図書220, 935冊（うち外国書48, 993冊）を所蔵しているとともに、学術雑誌261誌（うち外国雑誌76誌。電子ジャーナル3種（いずれも外国書）を含む。）、ビデオやDVDなどの視聴覚資料3, 978点及びオンラインデータベース2種の整備がなされていることから、これらを有効的に共用することとしている。

共創デザイン学科の設置計画に伴う図書等の資料の整備計画としては、共創デザイン学科の教育研究を行うために必要となる図書等の資料として、図書3, 497冊（うち外国書842冊）、ビデオやDVDなどの視聴覚資料104点を新たに整備し、学術雑誌（電子ジャーナルを含む）及びオンラインデータベースについては、現在両図書館で整備されているものを継続して購入又は運用していくこととしている。【資料10】

(2) 図書館の整備計画

共創デザイン学科の設置を計画している杉並キャンパスの図書館は、現在、本学の芸術学部及び共用する女子美術大学短期大学部造形学科の収容定員計1, 020人の約10.78%に当たる110席の閲覧座席数を確保している。開架式書庫及び閉架式書庫、サービスカウンター、レファレンスカウンター、グループ学習室、視聴覚コーナー、ブラウジングコーナーなどを整備しているとともに、図書館の機能としては、情報探索用パソコン14台、蔵書検索用パソコン3台、コピー機2台を設置しており、図書館システムは、株式会社リコー製の「LIMEDIO」を導入している。

この図書館システムにより、本学の相模原キャンパス図書館と常時専用線で接続されていることから、資料等を横断的に検索することが可能であり、また、国立情報学研究所の所蔵目録の検索や他の大学図書館等との文献複写や相互貸借等のサービスを可能としている。

⑩ 管理運営

1 教授会

教授会は、学長、専任の教授・准教授・助教で構成され、審議事項は以下のとおり規定している。原則として、毎月1回定例で開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催している。

- ① 教育課程に関すること
- ② 主要年中行事及び日程に関すること
- ③ 授業科目修了の認定に関すること
- ④ 学生の指導及び賞罰に関すること
- ⑤ 入学試験に関すること
- ⑥ 入学、退学、休学、転学及び卒業に関すること
- ⑦ 各種奨学金に関すること
- ⑧ 実習費等に関すること
- ⑨ 学則その他本学の制規に関すること
- ⑩ 専任教員の嘱任、昇任人事を除く教員人事に関すること
- ⑪ その他本学に関する重要なこと

2 教学運営会議

教学運営会議は、女子美術大学大学院美術研究科、女子美術大学芸術学部、女子美術大学短期大学部の教学運営（教育・研究の諸活動等）の全般の重要事項について協議、調整を行うとともに、必要な方針を定めるために学長の下に設置されており、審議事項は①教学運営についての提案及び方針に関する事項、②大学院研究科委員会及び両教授会への付議事項、③学長が特に必要と認めた事項としている。

構成員は、学長、常務理事、美術研究科長、芸術学部長、併設短期大学部部長、図書館長、美術館長、ガレリアニケ担当部長、研究所長、オープンカレッジセンター長、保健センター長、大学教務部長、併設短期大学部教務部長、学生部長（相模原）、学生部長（杉並）、キャリア支援センター長、国際交流担当部長、広報担当部長、学長補佐、芸術学部各学科の学科長、事務本部長、幹部事務職員及び学長が指名する者とし、年間10回程度開催している。

3 教授会以外の委員会

学長及び芸術学部長がつかさどる教育研究に関する事項の検討や起案などのために、芸術学部運営委員会、芸術学部入学試験運営委員会、国際交流委員会、研究支援委員会、杉並学生支援委員会等の各種委員会を設置している。各委員会の委員は、専任の教授・准教授・助教により構成され、各委員会の規程に基づき定期的で開催している。

⑪ 自己点検・評価

1 実施方法

内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織として、全学内部質保証推進委員会を置いている。自己点検・評価の具体的な方法は、まず、全学内部質保証推進委員会が自己点検・評価に係る方針・計画及び自己点検・評価項目を策定し、自己評価委員会に提示する。これを受けて、自己評価委員会は、自己点検の実施を自己点検委員会に付託する。自己点検委員会は、自己評価委員会からの付託を受けて、教育研究活動等の状況について学部・研究科、その他の組織レベルの自己点検を行う。その後、自己点検の結果（改善案の提言を含む）は自己評価委員会に報告され、自己評価委員会は、報告された結果に基づいて自己評価を行う。こうした学部・研究科、その他の組織レベルの自己点検・評価の結果は、全学内部質保証推進委員会に報告される。同委員会は、その結果に基づいて大学全体を組織体として見る全学的な観点からの自己点検・評価を行い、最終的に大学としての自己点検・評価結果として取りまとめ、理事会へ報告する。

2 実施体制

全学内部質保証推進委員会は、学長、副学長、美術研究科長、芸術学部長、併設短期大学部部長、事務本部長及び学長が指名する者を構成員とし、学長が委員長に就く。

自己評価委員会の構成員は、学長又は学長が指名する教員1人、図書館長、美術館長、ガレリアニケ担当部長、研究所長、オープンカレッジセンター長、保健センター長、大学教務部長、併設短期大学部教務部長、学生部長（相模原）、学生部長（杉並）、キャリア支援センター長、広報担当部長、国際交流担当部長、芸術学部各学科の学科長、教養研究室主任、共通専門研究室主任、併設短期大学部各コースの主任、併設短期大学部教養研究室主任、併設短期大学部共通専門研究室主任及び幹部事務職員とし、当委員会の統括のもとに、学部・研究科、その他の組織レベルの自己評価を実施している。学長又は学長が指名する教員1人が委員長に就く。

また、自己評価委員会規程に基づく自己点検委員会は、自己評価委員会委員長が指名した教職員をもって構成する。自己点検委員会の委員長は、委員の中から自己評価委員会委員長が指名する。自己点検委員会委員には、芸術学部又は美術研究科の専任教員、自己点検・評価項目に関係する部局を統括する教員役職者、事務実務に精通したグループ長職位者（専任事務職員）が選任され、教員、事務職員それぞれの立場から意見や指摘を出して多面的に検討できる体制をとっている。

3 結果の活用・公表及び評価項目

本学は、自己点検・評価を教育のPDCAサイクルを実質化させる最も重要な手段ととら

え、自己点検・評価した結果明らかになった課題を中期事業計画と年度事業計画に結び付けている。具体的な手続としては、自己点検・評価した結果明らかになった課題を計画に取り込み（P）、学部・研究科、その他の組織による実行（D）ののち、計画の到達目標の達成度合いを年二回確認（C）し、当該事業年度の翌年度5月に『事業報告書』として取りまとめ、大学ホームページで定例開示するという流れである。この仕組みにより、事業の遂行度合いを確認しながら、改善・向上の方向性や方法を必要に応じて見直すことを可能としている。年度中間時点の達成度合いの確認結果は次年度の年度事業計画につなげる課題やより改善・向上が必要な点の特定（A）に用い、年度末時点の達成度合いの確認結果は年度単位の取りまとめとして用いているので、この一連の手続によりPDCAサイクルを稼働させている。

自己点検・評価の結果は、理事会へ『全学自己点検・評価報告書』を報告した後、大学ホームページに掲載して公表している。平成20年度と同27年度に受審した認証評価の結果も同じサイトに並列して掲載し、社会に対する責任説明を果たしている。

芸術学部における自己点検・評価項目については、大学としての自己点検・評価の方針を踏まえたうえで、以下の大項目を設定している。

- ① 理念・目的
- ② 内部質保証
- ③ 教育研究組織
- ④ 教育課程・学習成果
- ⑤ 学生の受け入れ
- ⑥ 教員・教員組織
- ⑦ 学生支援
- ⑧ 教育研究等環境
- ⑨ 社会連携・社会貢献
- ⑩ 大学運営・財務

⑫ 情報の公表

1 実施方法

学則において大学の目的及び芸術学部の学科毎の人材の養成に関する目的を定め、これを広く社会に公表するとともに、教育研究活動等の状況など大学に関する情報全般について、大学ホームページや『大学案内』などの刊行物への掲載、その他広く一般に周知を図ることができる方法により提供することとしている。特に、教育上の目的に応じ学生が修得す

べき知識及び能力に関する情報を積極的に公表することとし、その際、大学の教育力の向上の観点から、学生がどのようなカリキュラムに基づき、何を学ぶことができるのかという観点が明確になるよう留意することとしている。

適正に情報を公表するため、女子美術大学・女子美術大学短期大学部情報公開規程を施行し、これに基づいた公表体制を整備している。同規程の目的を、「女子美術大学・女子美術大学短期大学部が有する情報の公開に関して必要な事項を定め、当該情報を公開することにより、本学の活動に関する社会的説明責任を果たし、公正かつ透明性の高い運営を実現し、構成員による自律的な運営及び教育研究の質の向上に資すること」とし、事務組織のグループ長職位者（専任事務職員）を「情報公開責任者」に指定している。

2 実施内容

教育研究活動等の状況に関する情報として、具体的には、①学校教育法施行規則第172条の2に規定する教育研究活動等の状況に係る情報、②教育職員免許法施行規則第22条の6に規定する教員の養成の状況についての情報、③私立学校法第47条に規定する財務情報、④シラバス、⑤大学運営上の方針等を大学ホームページに掲載している。これらの一部は、大学ポータルでも公表している。また、『大学案内』や『学生募集要項』などの広報媒体、オープンキャンパス、キャンパス見学、学内外での進学相談会、高等学校の教員訪問、高等学校での訪問授業なども、本学の各種情報を公表する有力な手段としている。

教育に係る以下の情報は、大学ホームページに掲載して公表し、広く周知を図っている。

① 大学の教育研究上の目的に関すること

大学の目的及び芸術学部の学科毎の人材の養成に関する目的を公表している。

<https://www.joshi.ac.jp/about/philosophy>

トップページ>女子美と出会う>教育理念

② 教育研究上の基本組織に関すること

芸術学部の学科を公表している。

<https://www.joshi.ac.jp/department/college>

トップページ>女子美がわかる>大学芸術学部

③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

教員が所属する芸術学部の学科、専任教員数並びに各教員が有する学位及び業績を公表している。

<https://www.joshi.ac.jp/about/president>

トップページ>女子美と出会う>学長・理事長・組織

<https://www.joshi.ac.jp/teachers>

トップページ>女子美がわかる>教員紹介

- ④ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

芸術学部に係る入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業した者の数並びに進学者数、就職者数、就職率、採用実績企業名、進路決定率及び外国人留学生の進路状況を公表している。

<https://www.joshi.ac.jp/about/philosophy>

トップページ>女子美と出会う>教育理念

<https://www.joshi.ac.jp/about/president>

トップページ>女子美と出会う>学長・理事長・組織

<https://www.joshi.ac.jp/campuslife/carriersupport/careeroptions>

トップページ>女子美と出会う>卒業後の進路

- ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

芸術学部で開設する授業科目のシラバスを公表している。

<https://www.joshi.ac.jp/department/college>

トップページ>女子美がわかる>大学芸術学部

- ⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

芸術学部『履修の手引』において、学習の評価方法、GPA制度、単位授与の基準、単位認定の基準、卒業条件等を公表している。

<https://www.joshi.ac.jp/department/college>

トップページ>女子美がわかる>大学芸術学部

- ⑦ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地へのアクセス・交通案内、校舎の配置や耐震化の状況、教室・学生食堂・図書館・美術館（展示施設）等の施設・設備の配置や案内、COVID-19への対応等を公表している。

<https://www.joshi.ac.jp/access>

トップページ>女子美と出会う>アクセス・交通案内

<https://www.joshi.ac.jp/campuslife>

トップページ>女子美と出会う>学生生活・進路・就職

<https://www.joshi.ac.jp/about/president>

トップページ>女子美と出会う>学長・理事長・組織

<https://www.joshi.ac.jp/COVID-19>

新型コロナウイルス感染症に関する対応について（特設サイト）

⑧ 授業料、入学金その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料、入学金その他の大学が徴収する費用及び学生宿舎・学生会館の住居費に関する事項を公表している。

<https://www.joshi.ac.jp/admission>

トップページ>女子美を受ける>大学芸術学部の入試

<https://www.joshi.ac.jp/campuslife>

トップページ>女子美と出会う>学生生活・進路・就職

⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

奨学金制度、宿舎・下宿サポート、保健センター（学生相談室、医務室）、学外施設・サービス割引利用制度、在学生・卒業生への奨励制度、外国人留学生向け情報、学籍異動の手続方法、キャリア支援に関する情報等を公表している。

<https://www.joshi.ac.jp/campuslife>

トップページ>女子美と出会う>学生生活・進路・就職

⑩ 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

学位授与の方針、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを公表している。

<https://www.joshi.ac.jp/about/philosophy>

トップページ>女子美と出会う>教育理念

⑪ 学則等各種規程

学則、学生懲戒に関する規程及びコンプライアンスに係る諸規程を公表している。

<https://www.joshi.ac.jp/about/report/bylaw>

トップページ>サイトマップ>在学生の方へ

⑫ 自己点検・評価報告書、認証評価の結果

自己点検・評価報告書及び認証評価の結果を公表している。

<https://www.joshi.ac.jp/about>

トップページ>サイトマップ>女子美について

⑬ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

1 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修

(1) 実施体制

教員を対象とする、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取組みについては、「FD委員会規程」を制定している。当該規程に基づき、学長、常務理事、専任教員、教学事務部長等で構成される「FD委員会」を設置し、授業内容及び方法の改善・向上を目的とした計画の立案と実施の推進を図ることとしている。【資料11】

(2) 実施内容

授業の内容及び方法の改善を図るために、主に以下に掲げる項目に取り組む計画としている。

- ① 教育課程編成・実施の方針に基づき、シラバスの記載項目、内容、方法などの適切性等を検証する（年1回）。
- ② 学生による授業評価アンケート調査を実施する（年2回）。
- ③ 教員相互の公開授業を実施し、他の教員の授業を参観する（年2回）。
- ④ 海外の大学の教育現場から知見を得て、自らのあるいは組織的な教育研究に還元するために、学術交流協定大学における学生の短期留学を引率する（年2～3回）。

2 大学職員に必要な知識・技能を習得させ、及び必要な能力及び資質を向上させるための研修等

(1) 実施体制

大学職員の研修等の取組みは、教員、大学執行部及び事務職員を対象として、大学等の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図ることを目的とする。これを実現するために、知識・技能の習得及び能力・資質の向上のための活動を推進することとしている。教員等に対する研修等はFD委員会が中心となって運営し、FD委員会が主催する研修等には事務職員も積極的に参加することとする。事務職員に対する研修等は、総務企画部が中心となって企画・実施する。なお、現在、技術職員等は雇用していない。

(2) 実施内容

事務職員に対する研修等の活動については、以下に掲げる内容により実施する計画としている。

- ① 大学等の管理運営及び教育研究支援に必要な知識及び技能を身に付け、能力及び資質の向上を図るための研修（年3回）
- ② リーダーシップ能力、マネジメント能力、知識・技能、業務処理能力等の向上を図るための研修（年2回）
- ③ スキルアップに役立つ資格取得（随時希望者募集）

なお、研修会等については、外部団体が主催して行う「学外研修会等」と大学等が独自に企画して開催する「学内研修会等」に大別し、さらに、これら学内外の研修会等を次のとおり区分して実施することとしている。

- ① 階層別：新任事務職員、中堅事務職員、指導的事務職員など、経験や役職（職階）に応じて必要な知識を得るための研修会等
- ② 目的別：特定の知識・技能を修得するための研修会等
- ③ 業務別：業務毎の質的向上や改善等に役立つための研修会等
- ④ 個別：事務職員個々が自主的に自己啓発、スキルアップ等を図るための研修会等

⑭ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1 教育課程内の取組み

「学部共通科目」は、職業生活や社会生活でも必要となる幅広く深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性、汎用的な技能及び芸術学分野の基礎的な知識と能力を身に付けることを目的としており、「学部共通科目」全体を通して、社会的・職業的自立を図るために必要な基礎的な知識や技能と態度を習得することとしている。

特に、「学部共通科目」に配置している「キャリア形成A～D」及び「インターンシップ1～4」を教育課程内における社会的・職業的自立に関する中心的な科目として位置付けている。これらの授業科目は、職業人が果たす役割と責任や自覚と態度を身に付けるとともに、職業現場への興味と関心及び自らの職業選択に対する意識の涵養を図ることを目的としている。教育課程内の取組みにおける組織体制としては、芸術学部運営委員会を設置し、芸術学部長、キャリア支援センター長、芸術学部各学科の学科長、各学科内の専攻・領域の主任教員等で構成する。キャリア支援センター長は教員の中から任用され、進路・就職支援における全学的な取組みに関して企画・立案を行うとともに、同委員会で提案された進路・就職支援に関する取組みの推進役となる。

2 教育課程外の取組み

社会的・職業的自立を図るための教育課程外の取組みとしては、キャリア支援年間計画に基づき、職業興味検査、業界研究セミナーなどの実施により職業観の涵養を図るとともに、各種資格取得講座、キャリア支援講座、就職試験対策講座等により職業及び就職に関する知識や技能の習得を図ることとしている。

また、個別カウンセリング、各種仕事に関するガイダンスなどの進路・就職指導及び相談に加えて、企業等採用説明会、ポートフォリオ（授業内外での芸術活動や制作作品をまとめた作品集）対策講座やポートフォリオ添削指導など就職志望者に対する取組みを行うこととしている。教育課程外の取組みにおける組織体制としては、キャリア支援センターが担当することとしている。

設置の趣旨等を記載した書類

資料目次

資料 1	学校法人女子美術大学 設置認可等に関わる組織の移行表	p. 2
資料 2	女子美術大学芸術学部における過去 4 年間の就職率等の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 3
資料 3	女子美術大学共創デザイン学科（仮称）進学需要等に関するアンケート調査結果報告書（抜粋版） ・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 4
資料 4	共創デザイン学科における学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び授業科目配置の関係図 ・・・・・・・・	p. 2 0
資料 5	共創デザイン学科履修モデル ・・・・・・・・	p. 2 1
資料 6	授業科目「産官学連携実践」における実習施設名、所在地及び受入れ可能人数一覧 ・・・・・・・・	p. 2 4
資料 7	教職員就業規則 ・・・・・・・・	p. 2 5
資料 8	杉並キャンパス 1 号館増築棟図面・建設工事工程表	p. 3 2
資料 9	設備等購入計画	p. 3 3
資料 10	図書等購入計画	p. 3 4
資料 11	F D 委員会規程	p. 3 5

学校法人女子美術大学

設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学定員	編入学定員	収容定員
女子美術大学			
芸術学部			
美術学科	190	3年次 14	788
デザイン・工芸学科	220	3年次 16	912
アート・デザイン表現学科	160	3年次 10	660
計	570	3年次 40	2,360
女子美術大学大学院			
美術研究科			
博士後期課程	3	-	9
美術専攻			
博士前期課程	35	-	70
美術専攻			
デザイン専攻	15	-	30
芸術文化専攻	7	-	14
計	60	-	123
女子美術大学短期大学部			
造形学科	180	-	360
計	180	-	360

令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
女子美術大学				
芸術学部				
美術学科	190	3年次 14	788	
デザイン・工芸学科	220	3年次 16	912	
アート・デザイン表現学科	160	3年次 10	660	
共創デザイン学科	60	-	240	学科の設置（届出）
計	630	3年次 40	2,600	
女子美術大学大学院				
美術研究科				
博士後期課程	3	-	9	
美術専攻				
博士前期課程	35	-	70	
美術専攻				
デザイン専攻	15	-	30	
芸術文化専攻	7	-	14	
計	60	-	123	
女子美術大学短期大学部				
造形学科	120	-	240	定員変更（△60）
計	120	-	240	

【資料2】

女子美術大学芸術学部における過去4年間の就職率等の状況

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
卒業者数	567	554	527	561
求人票件数	1,209	1,030	866	666
求職者数	351	362	348	343
就職者数 ¹⁾	313	327	319	241
就職率 ²⁾	89.17%	90.33%	91.67%	70.26%
就職未決定者数 ³⁾	38	35	29	102
進学者数	48	30	34	40
制作活動・アルバイト従事者数	113	120	30	56
進路先不明者数 ⁴⁾	55	42	115	122

- 1)求職者のうち、就職決定の報告があった者
 2)求職者のうち、就職者の割合(「就職者」÷「求職者」)
 3)求職者のうち、就職活動中の者
 4)進路の報告がない者

**女子美術大学共創デザイン学科 (仮称)
進学需要等に関するアンケート調査
結果報告書 (抜粋版)**

令和4年2月

株式会社 島津理化

目 次

I. 進学需要に関するアンケート調査（集計結果）

調査対象等	1
調査結果概要	2～6
大学進学全般に関する質問事項	
高等学校卒業後の進路	2
進学を希望する分野	3
女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項	
共創デザイン学科への興味・関心	4
共創デザイン学科の受験希望	5
共創デザイン学科への進学希望	6

II. 人材需要に関するアンケート調査（集計結果）

調査対象等	7
調査結果概要	8～12
人材需要全般に関する質問事項	
人材の採用見込み	8
女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項	
共創デザイン学科の社会的な必要性	9
共創デザイン学科で養成する人材の必要性	10
共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用	11
共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用人数	12

I. 進学需要に関するアンケート調査（集計結果）

I. 進学需要に関するアンケート調査（集計結果）

【調査対象等】

女子美術大学では、令和5年4月の開設に向けて、共創デザイン学科（仮称）の設置を計画しており、この共創デザイン学科（仮称）の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子を対象とした進学需要等に関するアンケート調査を実施した。

①調査対象

女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子

②調査方法

高等学校単位での一括配布、一括回収

③調査実施

令和3年11月～令和4年1月

④調査件数

回収件数： 96校

回収者数：2,013人

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

【調査結果概要】

<大学進学全般に関する質問事項>

1. 高等学校卒業後の進路

女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子に、高等学校卒業後の進路について質問したところ、回答者数2,013人の約93.24%にあたる1,877人が「大学進学（4年制・6年制）」、「短期大学進学」、「専門学校進学」と回答しており、そのうち「大学進学（4年制・6年制）」と回答している者は、回答者数2,013人の約67.46%にあたる1,358人と最も高い数値を示していることから、大学（4年制・6年制）への進学意向の高さをうかがうことができる。

問1 高等学校卒業後の進路

No.	カテゴリ	件数/人	全体/%
1	大学進学（4年制・6年制）	1,358	67.46
2	短期大学進学	125	6.21
3	専門学校進学	394	19.57
4	就職	103	5.12
5	その他	28	1.39
	未回答・不明	5	0.25
	合計	2,013	100.00

【調査結果概要】

<大学進学全般に関する質問事項>

2. 進学を希望する分野

女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子に、高等学校卒業後に進学をする場合、どの分野を希望するかについて質問したところ、第1希望では「美術学・デザイン学関係」と回答した者が回答者数2,013人の約64.68%にあたる1,302人で最も多く、次いで「文学・史学・哲学関係」と回答した者が約4.47%にあたる90人、「教育学・保育学関係」と回答した者が約4.37%にあたる88人となっている。

問2 進学を希望する分野

No.	進学希望分野	第1希望		第2希望	
		件数/人	全体/%	件数/人	全体/%
1	経済学・経営学関係	68	3.38	120	5.96
2	教育学・保育学関係	88	4.37	263	13.07
3	法学・政治学関係	21	1.04	42	2.09
4	社会学・福祉学関係	37	1.84	97	4.82
5	文学・史学・哲学関係	90	4.47	345	17.14
6	工学・理学関係	38	1.89	107	5.32
7	医学・歯学・薬学関係	44	2.19	43	2.14
8	美術学・デザイン学関係	1,302	64.68	301	14.95
9	家政学・生活科学関係	35	1.74	108	5.37
10	音楽学関係	12	0.60	183	9.09
11	体育学・スポーツ学関係	9	0.45	42	2.09
12	医療技術学関係	15	0.75	37	1.84
13	看護学関係	44	2.19	17	0.84
14	その他	186	9.24	112	5.56
	未回答・不明	24	1.19	196	9.74
	合計	2,013	100.00	2,013	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

3. 共創デザイン学科への興味・関心

女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子に、共創デザイン学科への興味・関心について質問したところ、回答者数2,013人の約54.74%にあたる1,102人が「興味・関心がある」と回答していることから、女子美術大学の共創デザイン学科への興味・関心の高さをうかがうことができる。

問3 共創デザイン学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	興味・関心がある	1,102	54.74
2	興味・関心がない	906	45.01
	未回答・不明	5	0.25
	合計	2,013	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

4. 共創デザイン学科の受験希望

女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子に、共創デザイン学科の受験希望について質問したところ、回答者数2,013人の約9.54%にあたる192人が「受験を希望する」と回答しており、女子美術大学の共創デザイン学科への受験に積極的な意向を示している。

問4 共創デザイン学科の受験希望

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	受験を希望する	192	9.54
2	受験を希望しない	1,767	87.78
	未回答・不明	54	2.68
	合計	2,013	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

5. 共創デザイン学科への進学希望

問4で、共創デザイン学科の「受験を希望する」と回答した者に、共創デザイン学科に合格した場合の進学希望について質問したところ、回答者数192人の約45.83%にあたる88人が「進学を希望する」と回答しており、回答者数192人の約51.56%にあたる99人が「併願大学の結果によって入学する」と回答しており、女子美術大学の共創デザイン学科への進学に積極的な意向を示している。

このような女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子に限定した調査結果においても、女子美術大学の共創デザイン学科への受験希望と進学希望の高さがうかがえることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

問5 共創デザイン学科への進学希望

No.	カテゴリ	件数/人	全体/%
1	進学を希望する(※)	88	45.83
2	併願大学の結果によって入学する(※)	99	51.56
3	進学を希望しない	4	2.08
	未回答・不明	1	0.52
	合計	192	100.00

(※) 問4「受験を希望する」×問5「進学を希望する」

(※) 問4「受験を希望する」×問5「併願大学の結果によって入学する」

Ⅱ. 人材需要に関するアンケート調査（集計結果）

Ⅱ. 人材需要に関するアンケート調査（集計結果）

【調査対象等】

女子美術大学では、令和5年4月の開設に向けて、共創デザイン学科（仮称）の設置を計画しており、この共創デザイン学科（仮称）の設置計画を策定するにあたり、人材需要の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業及びデザイン関連部門を有する企業等を中心とした人材需要等に関するアンケート調査を実施した。

①調査対象

女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業等

②調査方法

デザイン関連企業等への郵送による配布、回収

③調査実施

令和3年11月～令和4年1月

④調査件数

回答件数：76件

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

【調査結果概要】

<人材需要全般に関する質問事項>

1. 人材の採用見込み

女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業等に対して、人材の採用見込みについて質問したところ、回答件数 76 件の約 68.42%にあたる 52 件が「増加すると思う」と回答している。

問 1 人材の採用見込み

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	増加すると思う	52	68.42
2	増加すると思わない	24	31.58
	未回答・不明	0	0.00
	合計	76	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

2. 共創デザイン学科の社会的な必要性

女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業等に対して、共創デザイン学科の社会的な必要性について質問したところ、回答件数 76 件の約 97.37%にあたる 74 件が「必要性を感じる」と回答していることから、女子美術大学の共創デザイン学科の社会的な必要性の高さをうかがうことができる。

問2 共創デザイン学科の社会的な必要性

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	必要性を感じる	74	97.37
2	必要性を感じない	2	2.63
	未回答・不明	0	0.00
	合計	76	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

3. 共創デザイン学科で養成する人材の必要性

女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業等に対して、共創デザイン学科で養成する人材の必要性について質問したところ、回答件数 76 件の約 98.68% にあたる 75 件が「必要性を感じる」と回答していることから、女子美術大学の共創デザイン学科で養成する人材の必要性の高さをうかがうことができる。

問3 共創デザイン学科で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	必要性を感じる	75	98.68
2	必要性を感じない	1	1.32
	未回答・不明	0	0.00
	合計	76	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

4. 共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用

女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業等に対して、共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 76 件の約 85.53% にあたる 65 件が「採用したいと思う」と回答しており、女子美術大学の共創デザイン学科で学んだ卒業生への採用に積極的な意向を示している。

問4 共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	採用したいと思う	65	85.53
2	採用したいと思わない	11	14.47
	未回答・不明	0	0.00
	合計	76	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

5. 共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用人数

女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業等に対して、女子美術大学の共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用人数について質問したところ、問4で、共創デザイン学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答したデザイン関連企業等のうち、採用人数「1人」と回答したのが10件、「3人以上」と回答したのが4件、「人数は未定」と回答したのが50件となっている。

なお、採用人数を「3人以上」と回答したデザイン関連企業等の採用人数を「3人」とし、「人数は未定」と回答したデザイン関連企業等の採用人数を「1人」として、これらの採用人数を合計すると「72人」となり、これらの採用人数からも女子美術大学の共創デザイン学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

このような女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業及びデザイン関連部門を有する一部の企業等に限定した調査結果においても、女子美術大学の共創デザイン学科で学んだ卒業生への採用意向の高さがうかがえることから、卒業後の進路については十分な見通しがあると考えられる。

問5 共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	1人	10	15.38
2	2人	0	0.00
3	3人以上	4	6.15
4	人数は未定	50	76.92
	未回答・不明	1	1.54
	合計	65	100.00

問4×問5 卒業生の採用×卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数/件	全体/人
1*1	採用したいと思う/1人	10	10
1*2	採用したいと思う/2人	0	0
1*3	採用したいと思う/3人以上	4	12
1*4	採用したいと思う/人数は未定	50	50
	合計	64	72

共創デザイン学科 履修モデルA (プロダクト・CMF(カラー・マテリアル・フィニッシュ)デザイン重視)

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		合計	
	科目	単位数	科目	単位数	科目	単位数	科目	単位数		
学部共通科目	ファンデーション科目(必修)	2							4	
	女子美基礎講座	2								
	女子美の教養	2								
	ジェンダー論	2	人権・ダイバーシティとアート	2					8	
	グローバルな多様な社会に必要な知識を身につける	2	コミュニケーション論 環境とアート	2						
	美術解剖学A	2	色彩学A	2					10	
	美大生としての基礎力・創造力を養う	2	色彩学B	2					30	
	アートを社会と生活に生かす	2	西洋美術史特論C 音楽とアート	2						
	カラーコーディネート基礎	2	インテリアデザイン史	2					4	
	語学力を高め世界で活躍する	1	English Conversation A	1					4	
学科専門科目	Joshihi Foundation English A	1	English Conversation B	1					4	
	Joshihi Foundation English B	1								
	共創デザイン実技Ⅰ-A	2	共創デザイン実技Ⅱ-A	2	共創デザイン実技Ⅲ-A	2	共創デザイン実践Ⅳ	2	8	
	共創デザイン実技Ⅰ-B	2	共創デザイン実技Ⅱ-B	2	共創デザイン実技Ⅲ-B	2	卒業研究	8		
	共創デザイン実技Ⅰ-C	2	共創デザイン実技Ⅱ-C	2	共創デザイン実技Ⅲ-C	2				
	共創デザイン実技Ⅰ-D	2	共創デザイン実技Ⅱ-D	2	共創デザイン実技Ⅲ-D	2				
	共創デザイン実技Ⅰ-E	2	共創デザイン実技Ⅱ-E	2	知財・フィナンシャル概論	2				
	共創デザイン実技Ⅰ-F	2	共創デザイン実技Ⅱ-F	2	ファシリテーション論	2				
	共創デザイン実技Ⅰ-G	2	共創デザイン実践Ⅱ	2	ライフマネジメント論Ⅲ-A	2				
	共創デザイン実技Ⅰ-H	2	行動デザイン論	2	ライフマネジメント論Ⅲ-B	2				
	共創デザイン実技Ⅰ-I	2	コミュニケーション特論Ⅱ	2					70	
	共創デザイン実践Ⅰ	2	ライフマネジメント論Ⅱ-A	2						
	共創デザイン概論	2	ライフマネジメント論Ⅱ-B	2						
	ビジネスデザイン概論	2								
	コミュニケーション特論Ⅰ	2								
	ライフマネジメント論Ⅰ-A	2								
		2								
		2								
	必修									94
	選択必修	共創デザイン選択実技Ⅱ-B (プロダクトデザイン②)	2	共創デザイン選択実技Ⅱ-B	2	共創デザイン選択実技Ⅲ-B (プロダクトデザイン③)	2	共創デザイン実践Ⅳ	2	10
共創デザイン選択実技Ⅱ-C (CMFデザイン②)		2	共創デザイン選択実技Ⅱ-C	2	共創デザイン選択実技Ⅲ-Ea (クリエイティブインテグレーションA)	2				
		2	共創デザイン選択実技Ⅱ-C	2	共創デザイン選択実技Ⅲ-Bb (マーケティング/ブランニングB)	2				
選択	ドローイング演習	2	感性異分野共創論Ⅰ	2	感性異分野共創論Ⅱ	2	ライフマネジメント論Ⅳ-A	2	2	
	デザイン基礎集中演習	2	産官学連携演習	2			ライフマネジメント論Ⅳ-B	2	14	
合計		42	42	42	26	14	124	124		

共創デザイン学科 履修モデルB (UI(ユーザーインターフェース)／UX(ユーザーエクスペリエンス)デザイン重視)

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		合計
	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	
学部共通科目	2	女子美基礎講座	2	アートと法入門	2	図学A	2		4
	2	女子美の教養環境論	2	情報とアート	2	図学B	2		6
	2	印刷概論	2	デザイン史A	2	図学A	2		10
	2	美大生としての基礎力・創造力を養う	2	デザイン史B	2	図学B	2		30
	2	情報メディア基礎演習	2	表現と癒しの営み	2	キャリア形成D	2		6
	1	Joshihi Foundation English A	1	Joshihi Global English A	1				4
	1	Joshihi Foundation English B	1	Joshihi Global English B	1				4
	2	共創デザイン実技Ⅰ-A	2	共創デザイン実技Ⅱ-A	2	共創デザイン実技Ⅲ-A	2	共創デザイン実践Ⅳ	2
	2	共創デザイン実技Ⅰ-B	2	共創デザイン実技Ⅱ-B	2	共創デザイン実技Ⅲ-B	2	卒業研究	8
	2	共創デザイン実技Ⅰ-C	2	共創デザイン実技Ⅱ-C	2	共創デザイン実技Ⅲ-C	2		
2	共創デザイン実技Ⅰ-D	2	共創デザイン実技Ⅱ-D	2	共創デザイン実践Ⅲ	2			
2	共創デザイン実技Ⅰ-E	2	共創デザイン実技Ⅱ-E	2	知財・フェアナショナル概論	2			
2	共創デザイン実技Ⅰ-F	2	共創デザイン実技Ⅱ-F	2	ファシリテーション論	2			
2	共創デザイン実技Ⅰ-G	2	共創デザイン実技Ⅱ-G	2	ライフマネジメント論Ⅲ-A	2			
2	共創デザイン実技Ⅰ-H	2	共創デザイン実技Ⅱ-H	2	ライフマネジメント論Ⅲ-B	2			
2	共創デザイン実践Ⅰ	2	行動デザイン論	2	ライフマネジメント論Ⅲ-B	2			
2	共創デザイン実践Ⅱ	2	コミュニケーション特論Ⅱ	2					
2	共創デザイン実践Ⅲ	2	コミュニケーション特論Ⅰ	2					
2	共創デザイン実践Ⅳ	2	ライフマネジメント論Ⅱ-A	2					
2	共創デザイン実践Ⅴ	2	ライフマネジメント論Ⅱ-B	2					
2	ビジネスデザイン概論	2							
2	コミュニケーション特論Ⅰ	2							
2	ライフマネジメント論Ⅰ-A	2							
選択必修	2	共創デザイン選択実技Ⅱ-A (グラフィックデザイン②)	2	共創デザイン選択実技Ⅱ-A	2	共創デザイン選択実技Ⅲ-D (テックデザイン③)	2		2
	2	共創デザイン選択実技Ⅱ-D (テックデザイン②)	2	共創デザイン選択実技Ⅱ-D	2	共創デザイン選択実技Ⅲ-Da (サービズデザイン)	2		2
	2	共創デザイン選択実技Ⅱ-E	2	共創デザイン選択実技Ⅱ-E	2	共創デザイン選択実技Ⅲ-Eb (クリエイティブインテグレーションB)	2		2
選択	2	プログラミング演習	2	ソーシャルメディアデザイン論	2	感性異分野共創論Ⅱ	2	ライフマネジメント論Ⅳ-B	2
	2		人間工学	2	産官学連携演習	2			2
	2		共創デザイン演習Ⅱ-F	2					2
合計	40		42	30	12	94	124		

共創デザイン学科 履修モデルC (ビジネス・ブランドデザイン重視)

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		合計
	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	
学部 共通科目	2	女子美基礎講座	2	社会福祉学	2	観光学			4
	2	女子美の教養	2	国際関係論	2				8
	2	経済学							
	2	現代美学	2	西洋美術史概説	2	音楽とアート			10
		美大生としての基礎力・創造力を養う	2	芸術学B	2				30
		アートを生かす生活に生かす	2	造形心理学	2				
		地域共創学							2
		1	Joshihi Foundation English A	1	Joshihi Global English A	1	Joshihi Art English A		
		1	Joshihi Foundation English B	1	Joshihi Global English B	1	Joshihi Art English B		6
	学科 専門科目	2	共創デザイン実技 I-A	2	共創デザイン実技 II-A	2	共創デザイン実技 III-A	2	共創デザイン実践 IV
2		共創デザイン実技 I-B	2	共創デザイン実技 II-B	2	共創デザイン実技 III-B	2	卒業研究	
2		共創デザイン実技 I-C	2	共創デザイン実技 II-C	2	共創デザイン実技 III-C	2		
2		共創デザイン実技 I-D	2	共創デザイン実技 II-D	2	共創デザイン実技 III-D	2		
2		共創デザイン実技 I-E	2	共創デザイン実技 II-E	2	共創デザイン実技 III-E	2		
2		共創デザイン実技 I-F	2	共創デザイン実技 II-F	2	共創デザイン実技 III-F	2		
2		共創デザイン実技 I-G	2	共創デザイン実技 II-G	2	共創デザイン実技 III-G	2		
2		共創デザイン実技 I-H	2	共創デザイン実技 II-H	2	共創デザイン実技 III-H	2		
2		共創デザイン実践 I	2	共創デザイン実践 II	2	共創デザイン実践 III	2		
2		共創デザイン概論	2	行動デザイン論	2	ライフマネジメント論 III-A	2		
2		ビジネスデザイン概論	2	コミュニケーション特論 II	2	ライフマネジメント論 III-B	2		
2		コミュニケーション特論 I	2	コミュニケーション特論 I	2				
2		ライフマネジメント論 I-A	2	ライフマネジメント論 II-A	2				
2			2	ライフマネジメント論 II-B	2				
2			2		2				
選択必修	2	共創デザイン選択実技 II-A (グラフィックデザイン②)	2	共創デザイン選択実技 II-A	2	共創デザイン選択実技 III-C (ブランニング②)	2		
	2	共創デザイン選択実技 II-D (テックデザイン②)	2	共創デザイン選択実技 II-D	2	共創デザイン選択実技 III-Aa (ビジネスデザインA)	2		
	2		2		2	共創デザイン選択実技 III-Cb (ブランドデザインB)	2		
選択	2	ライフマネジメント論 I-B	2	ソーニャルグッドノブスデザイン論	2	産学官連携実践	2	ライフマネジメント論 IV-A	
	2	インクルーシブデザイン論	2	コミュニケーション特論 III	2	産学官連携演習	2		
				感性異分野共創論 I	2			15	
合計		42		42		29		12	125

【資料6】

授業科目「産官学連携実践」における実習施設名、所在地及び受入れ可能人数一覧

No.	実習施設名	所在地	受入れ可能人数
1	アクセンチュア株式会社	東京都港区三田1-4-1 住友不動産麻布十番ビル 「アクセンチュア インタラクティブ スタジオ東京」 内 FJORD TOKYO	10人
2	アサヒ飲料株式会社研究開発本部技術研究所	茨城県守谷市緑1-1-21	5人
3	株式会社スマイルズ	東京都目黒区中目黒1-10-23 シティホームズ中目黒203	5人
4	株式会社ロフトワーク	東京都渋谷区道玄坂 1-22-7 道玄坂ピア 8F/9F/10F	5人
5	公益財団法人日本デザイン振興会 (JDP)	東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー5階	5人
6	株式会社放電精密加工研究所	神奈川県横浜市港北区新横浜3-17-6 イノテックビル11 F	10人
7	マイクロテック・ラボラトリー株式会社	神奈川県相模原市南区上鶴間本町8丁目1-46	5人
8	株式会社スリーハイ	神奈川県横浜市都筑区東山田 4-42-16	3人
9	株式会社MEMOテクノス	神奈川県相模原市南区大野台1-5-2	2人
10	株式会社ニフコ	神奈川県横須賀市光の丘5-3	5人
		計	55人

○教職員就業規則

(平成 28 年 4 月 1 日施行)

(目的)

第 1 条 この規則は、学校法人女子美術大学（以下「法人」という。）の設置する大学、短期大学、付属高等学校及び付属中学校に勤務する専任教職員の就業に関する事項を定め、学園内秩序を確立し、専任教職員の福利増進を図り、教育の成果をあげることを目的とする。

(適用範囲等)

第 2 条 この規則は、法人と期間の定めのない雇用契約を締結した専任教職員に適用する。

2 専任教職員の職種及び職名は次のとおりとする。

職種	職名
専任教員	教授 准教授 講師 助教 A 助教 B
専任教員 B	教授 准教授 講師 助教
専任教諭（高中）	専任教諭
専任職員	専任職員

3 任期付教職員、非常勤教職員に関する規則は別に定める。

4 この規則に定めのない事項は、別に規則又は個別の雇用契約をもって定めることがある。

(任免)

第 3 条 専任教員の人事については、教員任免規程及び別の規則に定める。

(服務)

第 4 条 専任教職員は、その職務を通じて本学の使命達成に協力するものであることを自覚し、常に本学の規則を守り、責任をもって職務の遂行に専念しなければならない。

(遵守事項)

第 5 条 専任教職員は、次の各号を遵守しなければならない。

- 一 法人の名誉又は信用を傷つけないこと。
- 二 火災、傷害その他の事故を発生させないこと。
- 三 職務上知り得た機密をもらし、又は別に定められた以外は文書帳簿等を他に閲覧させてはならない。これに違反し、法人に損害を及ぼした場合は、在職中だけでなく、退職後であっても損害賠償の責を負うものとする。
- 四 セクシュアル・ハラスメント、その他のハラスメントを行わないこと。
- 五 法人の金品を私用に供し、他より不当に金品を借用し、又は職務に関連して自己の利益を図り、若しくは贈与を受けるなど不正な行為を行わないこと。
- 六 酒気をおびて就業するなど、専任教職員としてふさわしくない行為をしないこと。
- 七 その他不適切な行為を行わないこと。

2 ハラスメントの防止に関しては、ハラスメントの防止に関する規程、セクシュアル・ハラスメント防止等に関する指針及び付属高等学校・中学校セクシュアル・ハラスメントの防止に関する規程に定める。

3 専任教職員の行動規範は、教職員行動規範による。

(任命権者等)

第 6 条 専任教職員の任免その他人事に関する権限は任命権者である理事長が、服務の監督は次の者がこれを行う。

- 一 専任教員・専任教員 B 学長
- 二 専任教諭（高中） 校長
- 三 専任職員 事務本部長

(法令等との関係)

第 7 条 この規則に定めのない事項については、労働基準法その他の法令の定めるところにより又は別に規則を定めることがあり、若しくは個別の雇用契約をもって定めることがある。

(採用)

第 8 条 専任教職員として就業を希望する者より業務の必要性、年令、学歴、能力、資格等を考慮し、選考の上、適当と認められた者を専任教職員として雇い入れる。

2 雇用契約の締結に際し、労働基準法(昭和 22 年法律第 49 号。以下「労基法」という。)第 15 条及び労働基準法施行規則(昭和 22 年厚生省令第 23 号)第 5 条に定める事項を労働条件通知書又は雇用契約書にて明示する。

3 専任教職員は、諸規則、並びに業務上の指示、命令を遵守して誠実に職務に従事しなければならない。

4 専任教職員として採用された者は、次の書類を提出しなければならない。ただし、法人が認める場合はこの一部を省略することができる(第七号を除く。)

- 一 自筆の履歴書
- 二 住民票記載事項の証明書
- 三 健康診断書
- 四 最終学校の卒業証明書及び学業成績証明書

- 五 免許・資格に関する証明書
 六 最近(3カ月以内)撮影の写真
 七 次項で定める本人確認の書類の写し
 八 その他、法人が特に指定した書類
- 5 前項第7号で定める書類の写しは次のいずれかのものとする。
 一 個人番号カード
 二 通知カード及び写真付き身分証明書等(運転免許証、運転経歴書、旅券、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳、在留カード又は特別永住者証明書)
 三 その他行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律(平成25年法律第27号)で規定する本人確認の書類
- 6 専任教職員は、前項各号に掲げる書類の記載事項に変更があった場合は、その旨を、必要な書類を添えて、速やかに届け出なければならない。
 (試用期間)
- 第9条** 新たに採用した専任教職員については、採用の日から3カ月を試用期間とする。ただし、試用期間が不要と認められたときはこの限りではない。
- 2 試用期間中又は試用期間満了の際、引続き専任教職員として勤務させることを不適当と認められる者については、解雇することができる。
- 3 試用期間を満了し専任教職員として適格と認められた場合には、本採用とする。
- 4 試用期間が満了するにもかかわらず、専任教職員の適格性を判断できない場合は、試用期間を延長することができる。
- 5 試用期間は勤続年数に加算する。
 (異動)
- 第10条** 法人は、業務の必要により専任教職員に対し、職務・職種の異動・変更を命ずることができる。
 (定年)
- 第11条** 専任教員、専任教員B及び専任教諭(高中)の定年は65歳、専任職員は62歳とする。
- 2 定年による退職は、定年に達した日が属する年度の末日とする。ただし、本人が申し出て、理事長が特に認めた場合は定年に達した日をもって定年退職することができる。この場合において、退職事由は定年退職したものとする。
- 3 法人が教育上又は運営上特に必要と認めるときは定年を延長することができる。
- 4 第1項の規定は、学長、校長、法人の役員の任期期間中は適用しない。
- 5 定年を延長する場合は昇給は行わない。
- 6 定年退職後、高年齢者等の雇用の安定等に関する法律に規定する65歳までの再雇用については、定年退職者再雇用規程に定める。
- 7 専任教職員が定年年齢を選択する制度については、教職員選定年規程に定める。
 (退職)
- 第12条** 専任教職員が次の各号のいずれかに該当するに至った場合は、雇用契約は終了し、退職するものとする。
 一 専任教職員が退職を申し出て、理事長が承認したとき。
 二 定年退職日に至ったとき。
 三 死亡したとき。
 四 休職規程第9条に該当したとき。
 五 解雇されたとき。
 六 専任教職員と連絡不能の状態となり、90日以上経過したとき。
- 2 前項第1号の退職の申し出は、退職日の30日前に書面をもって願出するものとする。
 (退職に関する手続き)
- 第13条** 退職(解雇による場合を含む。)したときは、本学より貸与されたもの一切を直ちに返還し、給与の精算並びにこれに関連する諸手続きを行わなければならない。
 (休職)
- 第14条** 休職については、休職規程の定めるところによる。
 (引継ぎ)
- 第15条** 専任教職員は、異動・休職・退職に際して業務及び事務取扱事項に関する書類その他を速やかに引継がなければならない。
 (勤務時間)
- 第16条** 専任教職員の勤務時間は、休憩時間を除き週40時間とし、始業及び終業の時刻並びに休憩の時刻は別表のとおりとする。
 (勤務時間の特例)
- 第17条** 法人は、交通事情又は法人の業務上の都合により、前条に定める始業及び終業の時刻並びに休憩の時刻を変更することがある。ただし、1週間の勤務時間が40時間を超えることはない。
- 2 専任教員(助教Bを除く。)、専任教員Bの勤務時間には当分の間、自宅研究時間を含むものとする。
- 3 専任教員(助教Bに限る。)には毎週1日の研究日を与えるものとする。ただし、研究日については所属長を経て芸術学部長又は短期大学部部長に願出承認を得なければならない。
- 第18条** 削除
 (変形労働時間制)
- 第19条** 第16条の規定にかかわらず、業務の都合上、必要と認められる場合には、専任教職員に1カ月以内の期間を定めた変形労働時間制を採ることがある。この場合にあっても1週当たりの労働時間は、40時間を超えないものとする。
- 2 第16条の規定にかかわらず、労基法第32条の4に定める労使協定に基づき、専任教職員に1カ月を超え1年以内の期間を定めた変形労働時間制を採ることがある。この場合にあっても1週当たりの労働時間は、労使協定において定めた期間を平均し、40時間を超えないものとする。
- 3 前2項の場合、対象期間における労働日、始業及び終業の時刻並びに休憩の時刻は、勤務表等により定める。
 (休日)
- 第20条** 休日は次のとおりとする。
 一 日曜日
 二 国民の祝日に関する法律に定める休日

- 三 年末年始(12月29日から1月3日まで)
- 四 創立記念日(10月30日)
- 五 本学が定める夏期休業期間中の土曜日
- 2 前項の規定により難い場合は、4週間を通じて4日以上の日を定めることができる。この場合の4週間の起算日は毎年4月1日とする。
- 3 第1項の規定にかかわらず、変形労働時間制が適用される場合又は第1項により難い場合は、個別の雇用契約において、勤務表等により別に休日等を定めることができる。

(時間外・休日勤務)

第21条 所属長は、業務上必要がある場合には、専任職員、専任教諭(高中)に対し所定労働時間を超えて時間外勤務、休日勤務を命ずることができる。

- 2 時間外勤務は、所轄労働基準監督署へ届け出た時間外・休日労働協定の範囲内において、命ずることができる。
- 3 休日勤務は、当該休日勤務が法定休日の場合には、所轄労働基準監督署へ届け出た時間外・休日労働協定の範囲内とする。
- 4 所定の手続きによらない場合、又は所属長の指示命令によらない就業は、時間外労働、休日勤務として扱わない。

(休日の振替)

第22条 法人は、業務上必要がある場合には、専任職員の第20条第1項及び第3項に規定する休日を職場又は個人ごとに他の日に振り替えることができる。その場合は、所定勤務日を休日とし、従来の休日は通常の勤務日となる。

- 2 前項により休日を振り替えるときは、あらかじめ3週間以内の曜日を指定する。ただし、第20条第3項の適用者については、あらかじめ勤務表等の対象期間内の曜日を指定することとする。

(年次有給休暇)

第23条 法人は専任教職員に対し、4月1日に20日の年次有給休暇を付与する。

- 2 4月2日から9月30日までに新たに採用された者は20日、10月1日から3月31日までに新たに採用された者は、採用日に10日を付与する。
- 3 年次有給休暇を請求する場合は、事前に日時を指定して所属長に申し出るものとする。ただし、法人は、事業の正常な運営を妨げるときは、他の日時に変更することができる。
- 4 付与された年次有給休暇のうち10日間分については、半日単位での取得を認める。ただし、病人の看護付添い等法人がやむを得ない事情と認めた場合は10日を超えて認めることができる。
- 5 前項の半日とは、休憩時間を除いた1日の所定勤務時間の2分の1をいう。
- 6 年次有給休暇は、付与された日から2年間で消滅する。

(年次有給休暇積立保存)

第24条 専任教職員は、前条第6項の規定により消滅した年次有給休暇を一定日数まで積立保存し(以下「保存休暇」という。)、特定の目的のために利用することができる。

- 2 保存休暇の積立ができる日数は、1年につき10日、通算20日を上限とする。
- 3 保存休暇の利用については、年間20日を限度とする。
- 4 保存休暇は、次の各号のいずれかに該当し、法人がそれを認めたときに1日単位で利用できる。
 - 一 私傷病の治療のため、連続7日以上休業を必要とするとき。
 - 二 法人が認めた自己啓発、能力開発のために、休業を必要とするとき。
 - 三 配偶者、父母、子、配偶者の父母、祖父母及び兄弟姉妹又は孫であって専任教職員が同居し、且つ、扶養している者の介護又は看護を必要とするとき。
 - 四 出産休暇に入る予定の女性専任教職員が出産休暇開始7日前から休暇請求したとき。
 - 五 女性専任教職員から、生理日の就業が著しく困難であると休暇請求があったとき。ただし、月に2日までとする。
- 5 法人は必要に応じ、医師の診断書、報告書等を求めることができる。
- 6 保存休暇の利用が、業務に支障をきたす恐れがあるときは、法人は利用日時の変更をすることができる。

(春季休暇・夏季休暇及び冬季休暇等)

第25条 女子美術大学大学院学則12条、女子美術大学学則第13条及び女子美術大学短期大学部学則第15条並びに女子美術大学附属高等学校学則第8条及び女子美術大学附属中学校学則第8条に定める春・夏・冬の各休業期間及び女子美祭期間において、法人は専任職員に対し、勤務に差し支えない日数を特別有給休暇として与える。

- 2 この日数は、春季1日、夏季13日、冬季2日及び女子美祭1日とする。
- 3 この休暇を受けるときは、事前に所定の手続きを取り、所属長の承認を受けなければならない。
- 4 この休暇は原則として当該休業期間中に限る。

(土曜休暇)

第26条 法人は、専任職員に対し職務に支障のない限り、土曜休暇を隔週で与える。

- 2 この休暇を受けるときは、事前に所定の手続きを取り、所属長の承認を受けなければならない。
- 3 この休暇は、原則として、繰越を認めない。
- 4 この休暇の取扱いについては、別に定める。

(週日休暇)

第27条 法人は、専任職員に対し職務に支障のない限り、5月から12月の期間については週日休暇を隔週で1日与える。

- 2 この週日休暇の曜日については、事前に所定の手続きを取り、所属長の承認を受けなければならない。
- 3 この休暇は、原則として、繰越を認めない。
- 4 この休暇の取扱いについては、別に定める。

(忌引休暇)

第28条 専任教職員が親族の喪に遇ったときは、次の表による忌引休暇(有給)を取ることができる。

区分	配偶者	父母	子	祖父母	孫	兄弟姉妹	伯叔父母
血族	10日	7日	5日	3日	1日	3日	1日
姻族		3日		1日		1日	

- 一 死亡日から5日以内の本人が申請した日から起算し、連続して取得するものとし、分割は認めない。(第20条の休日は含まない。)
- 二 生計を同じくする姻族の場合は血族に準ずる。

- 三 葬儀のため遠隔の地に赴く必要がある場合は、往復の日数を加算する。
- 2 この休暇を受けるときは、事前に所定の手続きを取り、所属長の承認を受けなければならない。
(婚姻休暇)
- 第29条** 専任教職員又はその子が婚姻する場合には、次の婚姻休暇（有給）を取ることができる。
- 一 本人の場合 7日
 - 二 子の場合 3日
- 2 婚姻休暇の取得は、婚姻届提出日又は結婚式の5日前から後1年の期間内に連続して取得するものとし、分割は認めない。（第20条の休日は含まない。）
- 3 この休暇を受けるときは、事前に所定の手続きを取り、所属長の承認を受けなければならない。
(出産休暇)
- 第30条** 法人は、6週間（多胎妊娠の場合にあつては、14週間）以内に出産する予定の女性専任教職員が休暇を請求した場合においては、その者を就業させてはならない。
- 2 法人は、産後8週間を経過しない女性専任教職員を就業させてはならない。ただし、産後6週間を経過した女性専任教職員が請求した場合において、その者について医師が支障がないと認めた業務に就かせることは、差し支えない。
 - 3 法人は、妊娠中の女性専任教職員が請求した場合においては、他の軽易な業務に転換させなければならない。
 - 4 第1項及び第2項の休暇は無給とする。
- (育児休業)
- 第31条** 専任教職員は、育児休業取扱細則に定める要件を満たす場合は、育児休業を請求することができる。
(育児時間)
- 第32条** 生後満1年に達しない生児を育てる女性専任教職員は、申請により勤務時間中に1日2回各30分の育児時間を取ることができる。
- 2 前項の育児時間は有給とする。
(妊娠中及び出産後の健康管理)
- 第33条** 妊娠中及び出産後の女性専任教職員は、保健指導又は健康診査を受けるために必要な時間を取り、保健指導又は健康診査に基づく指導事項を守るための勤務時間変更、勤務軽減等必要な措置を受けることができる。
- 2 この取扱いについては母子健康管理のための措置に関する施行細則に定める。
(介護休業、介護短時間勤務)
- 第34条** 専任教職員は、介護休業及び介護短時間勤務に関する規程に定める要件を満たす場合は、介護休業等を請求することができる。
(生理休暇)
- 第35条** 女性専任教職員は、生理日の就業が著しく困難なとき、請求日数の休暇を取ることができる。ただし、無給とする。
(災害休暇)
- 第36条** 専任教職員が不慮の災害のため勤務不可能と認められた場合は、被害の程度により1週間を超えない範囲内で休暇（有給）を取ることができる。
- 2 この休暇を受けるときは、事前に所定の手続きを取り、所属長の承認を受けなければならない。
(出勤扱い)
- 第37条** 次に掲げる場合の欠勤は、出勤として取扱うことができる。
- 一 職務による負傷又は疾病のための療養を必要とした場合。
 - 二 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律により交通を遮断され、又は隔離された場合。ただし、本人が罹病したときを除く。
 - 三 非常災害及び交通機関の事故等の不可抗力のため、出勤不能の場合。
(勤務の記録)
- 第38条** 専任教職員は、出勤後自ら出勤簿に記録しなければならない。
(休暇・欠勤)
- 第39条** 専任教職員が病気又は事故のため休暇を取得し又は欠勤するときは、速やかに所属長に願い出なければならない。ただし、やむを得ない事情により、あらかじめ願い出ることができなかった場合には、事後速やかにその手続きを完了するものとする。
- 2 前項の場合、法人は、必要と認めるときは医師の診断書の提出を求めることができる。
(遅刻)
- 第40条** 専任教職員が遅刻する場合には、速やかに所属長に連絡しなければならない。
(早退)
- 第41条** 専任教職員が早退する必要があるときは、所属長の許可を得なければならない。
(外出)
- 第42条** 専任教職員が勤務中に私用のため外出する場合は、前条を準用する。
(法人の業務以外に従事する場合)
- 第43条** 専任教職員が本法人以外の職務（外部委員等）に従事するときは、あらかじめ所属長を経て学長、校長又は理事長の許可を得なければならない。
- 2 専任教職員が、他に兼業（本法人以外の他の団体等の役員・従業員の職務に従事する等）するときは、あらかじめ所属長を始め、学長、校長又は事務本部長の確認を経て、理事長の許可を得なければならない。
兼業の許可を得たとしても、責任をもって職務の遂行に専念することに支障がある場合は、許可の取り消しや職を変更する場合がある。
(研修)
- 第44条** 法人は、専任教職員に対し勤務能率の発揮及び増進のために研修を命ずることができる。
(債務の返済)
- 第45条** 専任教職員は、退職又は解雇に当たり本法人に債務があるときは、直ちに返済しなければならない。
(損害賠償)
- 第46条** 教職員が故意又は重大な過失によって法人に損害を与えた場合においては、当該教職員に対して相当の処分を行うほか、その損害の全部又は一部を賠償させることがある。
- 2 前項の賠償責任は、退職した後といえども免れない。

(給与)

第47条 専任教職員の給与の決定、計算、支払方法、締切、支払の時期及び昇給等給与に関する事項は、学校法人女子美術大学給与規程、学校法人女子美術大学事務職員給与に関する内規による。

2 前項のほか、個別の雇用契約において定めることがある。

(退職金)

第48条 専任教職員の退職金については、退職金規程に定める。

(災害補償)

第49条 専任教職員は、業務上の災害に関して、労働基準法及び労働者災害補償保険法の定めるところにより補償を受けるものとする。

(福利厚生)

第50条 専任教職員は、福利厚生に関し法人の諸施設及び機関を利用することができる。

(安全・衛生)

第51条 専任教職員は、安全及び衛生に関する業務に協力して危害の発生を未然に防止し、健康保持のため安全及び衛生に必要な事項を厳守しなければならない。

(健康管理)

第52条 専任教職員は、健康診断を受けなければならない。ただし、法人の指定した健康診断を希望しない場合、他の医師の行う健康診断を受け、その結果を証明する書面を提出しなければならない。

(受診指示等)

第53条 専任教職員は、法人より健康管理及び就業管理上の必要から医師等の診断の受診を指示されたときは、これに従わなければならない。ただし、専任教職員が法人の説明にもかかわらず、これを拒否したときは、法人は当該専任教職員に対する健康管理措置、安全配慮義務を免れるものとする。

(就業上の措置請求)

第54条 専任教職員は法人に対し、自己の健康保持のために就業上の健康管理措置を必要とするときは医師の診断書、意見書等を添えて申し出ることができる。

2 法人は、専任教職員からの就業上の措置の申し出に対し、産業医等の意見を聴き、所定の診断等を求め、措置するものとする。

(表彰)

第55条 法人は審議の上、専任教職員が次の各号の一に該当すると認めるときは表彰する。

- 一 本学の発展に多大の貢献をした者
 - 二 永年勤続した者
 - 三 災害防止又は災害に際してとくに功労があった者
 - 四 その他、特に表彰の価値があると認められる行為があった者
- 2 法人の発展に貢献し、その功績が著しい者の表彰については、学校法人女子美術大学功労者表彰規程に定める。

(表彰の種別)

第56条 表彰は次の各号によって行い、2種以上の併用を妨げない。

- 一 賞状
- 二 賞品
- 三 賞金
- 四 特別昇格

(普通解雇)

第57条 専任教職員が次のいずれかに該当するときは、解雇することができる。

- 一 勤務の成績又は業務能率が著しく不良で、向上の見込みがなく、他の職務にも転換できない等、就業に適さないと認められたとき。
 - 二 勤務状況が著しく不良で、改善の見込みがなく、専任教職員としての職責を果たし得ないと認められたとき。
 - 三 業務上の負傷又は疾病による療養の開始後3年を経過しても当該負傷又は疾病が治らない場合であって、専任教職員が傷病補償年金を受けているとき又は受けることとなったとき。(法人が打ち切り補償を支払ったときを含む。)
 - 四 精神又は身体の障害については、適正な雇用管理を行い、雇用の継続に配慮してもなおその障害により業務に耐えられないと認められたとき。
 - 五 試用期間中又は試用期間満了時まで専任教職員として不適格であると認められたとき。
 - 六 事業の運営上のやむを得ない事情又は天災事変その他これに準ずるやむを得ない事情により、事業の継続が困難なとき。
 - 七 事業の運営上のやむを得ない事情又は天災事変その他これに準ずるやむを得ない事情により、事業の縮小・転換を行う必要が生じ、他の職務に転換させることが困難なとき。
 - 八 その他前各号に準ずるやむを得ない事情があったとき。
- 2 前項の規定により専任教職員を解雇する場合は、少なくとも30日前に予告をするか又は予告に代えて平均賃金の30日分以上の解雇予告手当を支払う。ただし、労働基準監督署長の認定を受けてこの規則に定める懲戒解雇をする場合及び試用期間中の専任教職員(14日を超えて引き続き雇用される者を除く。)を解雇する場合は、この限りではない。
- 3 前項の規定により専任教職員の解雇に際し、法人は当該専任教職員の解雇の理由を記載した解雇理由書を交付する。

(懲戒の事由)

第58条 専任教職員が次のいずれかに該当するときは、情状に応じ、譴責、減給、出勤停止、降格又は諭旨退職とする。

- 一 正当な理由なく、無断欠勤に及ぶとき。
 - 二 正当な理由なくしばしば欠勤、遅刻、早退するなど勤務を怠ったとき。
 - 三 過失により法人に損害を与えたとき。
 - 四 部下教職員が懲戒処分を受ける等した場合で、管理監督者としての指導監督に適性を欠いていたとき。
 - 五 前各号のほか、法人の定める諸規則に違反したとき。
 - 六 前各号に準ずる程度の不適切な行為、法人に重大な不利益を与える行為又は法人の信用、体面を著しく損なう行為があったとき。
- 2 専任教職員が次のいずれかに該当するときは、懲戒解雇とする。この場合において、行政官庁の認定を受けたときは、労働基準法第20条に規定する解雇予告手当は支給しない。ただし、平素の服務態度その他情状によっては、この規則に定める普通解雇若しくは諭旨退職とすることがある。
- 一 重要な経歴を詐称して雇用されたとき。

- 二 正当な理由なく、無断欠勤に及び、出勤の督促に応じなかったとき。
- 三 正当な理由なく無断でしばしば遅刻、早退又は欠勤を繰り返し、注意を受けても改めなかったとき。
- 四 正当な理由なく、しばしば業務上の指示・命令に従わなかったとき。
- 五 故意又は重大な過失により法人に重大な損害を与えたとき。
- 六 刑法その他刑罰法規の各規定に違反する行為を行い、その犯罪事実が明らかになったとき。(当該行為が軽微な違反である場合を除く。)
- 七 素行不良で著しく学内の秩序又は風紀を乱したとき。
- 八 数回にわたり懲戒を受けたにもかかわらず、なお、勤務態度等に関し、改善の見込みがないと認められたとき。
- 九 相手方が望まない性的言動を含む行為により、円滑な職務遂行を妨げたり、職場の環境を悪化させ、又はその言動に対する相手方の対応によって一定の不利益を与えるような行為を行ったとき。
- 十 許可なく職務以外の目的で法人の施設、物品等を使用したとき。
- 十一 職務上の地位を利用して私利を図り、又は取引先等により不当な金品を受けて、若しくは求め、又は供給を受けたとき。
- 十二 私生活上の非違行為や法人に対する誹謗中傷等によって法人の名誉信用を傷つけ、業務に重大な悪影響を及ぼすような行為があったとき。
- 十三 法人の業務上重要な秘密を外部に漏洩して法人に損害を与え、又は業務の正常な運営を阻害したとき。
- 十四 前各号のほか、法人の定める諸規則に違反したとき。
- 十五 前各号に準ずる程度の不適切の行為、法人に重大な不利益を与える行為又は法人の信用、体面を著しく損なう行為があったとき。

(懲戒の種類及び量定)

第59条 懲戒は、次の各号によって行う。

- 一 譴責 始末書を提出させて、将来を戒める。
 - 二 減給 始末書を提出させて、給与の一部を減額する。この場合において、1回の減額は、労働基準法第91条に定める範囲とする。
 - 三 出勤停止 始末書を提出させて、一定期間の出勤停止を命ずる。その間、給与を支給しない。
 - 四 降格 下位等級へ資格変更する。
 - 五 諭旨退職 退職願を提出させて、退職させる。この場合において、退職金の全部又は一部を減額する。
 - 六 懲戒解雇 予告期間を設けずに即時に解雇する。退職金は全額を支給しない。この場合において、所轄の労働基準監督署長の解雇予告除外認定を受けたときは、解雇予告手当を支給しない。
- 2 懲戒の種類及び量定の決定に当たっては、次に掲げる事項を総合的に考慮するものとする。
- 一 非違行為の動機、態様及び結果
 - 二 故意又は過失の程度
 - 三 非違行為を行った教職員の職責及びその職責と非違行為との関係
 - 四 他の教職員及び社会に与える影響
 - 五 過去の非違行為の有無
 - 六 日頃の勤務態度及び非違行為後の対応
- 3 懲戒に関する審議は、対象者の意見を聴取の上、理事会の議を経てその処分を決定する。
- 4 専任教職員の懲戒解雇に際し、法人は当該専任教職員の懲戒解雇の理由を記載した解雇理由書を交付する。

(個人情報保護)

第60条 法人が保有する個人情報の保護に関する基本的事項及び個人情報の適正な取扱いについては、学校法人女子美術大学個人情報保護規程に定める。

(公益通報)

第61条 法人の関係者からの組織的若しくは個人的な法令違反行為等に関する通報又は相談の適正な処理の仕組みに関する事項は、公益通報規程に定める。

(利益相反マネジメント)

第62条 法人における利益相反による弊害の発生を抑制については、学校法人女子美術大学利益相反マネジメントポリシーに定める。

(旅費等)

第63条 国内に出張に支給する旅費及び海外に出張に対する旅費については、旅費規程及び海外旅費規程に定める。

(出向)

第64条 専任教職員の出向については、学校法人女子美術大学職員出向規程に定める。

(規則の改廃)

第65条 この規則の改廃は、理事会の決定による。

付 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 次の規程は、平成28年3月31日をもって廃止する。
 - 一 昭和40年4月1日制定教職員就業規則
 - 二 年次有給休暇積立保存制度に関する規程
 - 三 教職員定年規程
 - 四 附属高等学校・同中学校定年規程

付 則

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

付 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

付 則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

付 則

この規則は、令和4年2月1日から施行する。

別表

職 種		始 業 時 刻	終 業 時 刻 (土曜日)	休 憩 時 間	休 憩 時 刻	実 勤 務 時 間
杉 並	専 任 教 員	9:20	17:20 (15:20)	1 時間	12:30~13:20 別に午前・午後 各 5 分	7 時間 (5 時間)
	専 任 職 員	9:20	17:20 (15:20)	1 時間	11:30~12:30	7 時間 (5 時間)
相 模 原	専 任 教 員	9:20	17:20 (15:20)	1 時間	12:30~13:20 別に午前・午後 各 5 分	7 時間 (5 時間)
	専 任 職 員	9:20	17:20 (15:20)	1 時間	11:30~12:30	7 時間 (5 時間)
付 属	専 任 教 諭 (高 中)	8:15	16:15 (14:15)	1 時間	12:40~13:20 別に午前・午後 各 10 分	7 時間 (5 時間)
	専 任 職 員	8:30	16:30 (14:30)	1 時間	11:30~12:30	7 時間 (5 時間)

専任教員・専任教諭（高中）の授業担当時間については別に定める。

共創デザイン学科に関する杉並キャンパス1号館増築棟建設工事工程表

工事名称	内容	2021(令和3)年度											
		9	10	11	12	1	2	3					
1号館増築棟 建設工事	本体工事				建築・電気・空調・給排水衛生・エレベーター工事								
	什器備品設置												

工事名称	内容	2022(令和4)年度											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1号館増築棟 建設工事	本体工事				建築・電気・空調・給排水衛生・エレベーター工事								
	什器備品設置									什器備品搬入設置			

【資料 9】

設備等購入計画

年次	品目	台数
開設前年度	色評価システム	6
	刺繍ミシン	1
	ガーメントプリンター	1
	普通のミシン	4
	厚物用ミシン	1
	複合機	7
	スキャナー	1
	大型プリンター	1
	中型プリンター	1
	コミュニケーションツール	1
	3Dプリンター	10
	レーザーカッター	3
	3Dスキャナ	1
	工作機器	7
	小計	45
	第 1 年次	机・椅子（教室用：1年・2年）
机・椅子（工房用）		40
机・椅子		10
PC		48
撮影機材一式（工房内撮影ブース用）		1
オンラインシステム機器（1年・2年・サロン用）		3
スピーカーシステム機器（1年・2年・サロン用）		3
TV（60インチ有機EL：1年・2年教室用）		4
大型プロジェクター（天つりタイプ1年・2年用）		2
中型プロジェクター（ポータブル1年・サロン用）		4
空気清浄機（1年教室、工房、研究室、サロン用）		4
耐火金庫		1
小計		260
第 2 年次		中型プロジェクター（ポータブル2年用）
	空気清浄機（2年教室用）	1
	小計	3

年次	品目	台数
第 3 年次	机・椅子（教室用：3年用）	70
	オンラインシステム機器（3年用）	1
	スピーカーシステム機器（3年用）	1
	TV（60インチ：3年教室用）	2
	大型プロジェクター（天つりタイプ3年用）	1
	中型プロジェクター（ポータブル3年用）	2
	空気清浄機（3年教室用）	1
	小計	78
第 4 年次	机・椅子（教室用：4年）	70
	オンラインシステム機器（4年用）	1
	スピーカーシステム機器（4年用）	1
	TV（60インチ：4年教室用）	2
	大型プロジェクター（天つりタイプ4年用）	1
	中型プロジェクター（ポータブル4年用）	2
	空気清浄機（4年教室用）	1
	小計	78
合計	464	

【資料10】

図書等購入計画

年次	種類	大学全体の購入 (杉並キャンパス図書館と相模原キャンパス図書館の合計)		単位
			うち、共創デザイン学科の教育研究を行うために必要となる図書等の資料 (杉並キャンパス図書館)	
開設前年度	図書 [うち外国書]	3,214 [581]	807 [194]	冊
	学術雑誌 [うち外国書]	472 [134]	— [—]	種
	電子ジャーナル [うち外国書]	4 [4]	— [—]	種
	視聴覚資料	80	24	点
	オンラインデータベース	2	—	種
第1年次	図書 [うち外国書]	3,214 [581]	807 [194]	冊
	学術雑誌 [うち外国書]	472 [134]	— [—]	種
	電子ジャーナル [うち外国書]	4 [4]	— [—]	種
	視聴覚資料	80	24	点
	オンラインデータベース	2	—	種
第2年次	図書 [うち外国書]	3,214 [581]	807 [194]	冊
	学術雑誌 [うち外国書]	472 [134]	— [—]	種
	電子ジャーナル [うち外国書]	4 [4]	— [—]	種
	視聴覚資料	80	24	点
	オンラインデータベース	2	—	種
第3年次	図書 [うち外国書]	3,214 [581]	538 [130]	冊
	学術雑誌 [うち外国書]	472 [134]	— [—]	種
	電子ジャーナル [うち外国書]	4 [4]	— [—]	種
	視聴覚資料	80	16	点
	オンラインデータベース	2	—	種
第4年次	図書 [うち外国書]	3,214 [581]	538 [130]	冊
	学術雑誌 [うち外国書]	472 [134]	— [—]	種
	電子ジャーナル [うち外国書]	4 [4]	— [—]	種
	視聴覚資料	80	16	点
	オンラインデータベース	2	—	種
合計	図書 [うち外国書]	16,070 [2,905]	3,497 [842]	冊
	学術雑誌 [うち外国書]	472 [134]	— [—]	種
	電子ジャーナル [うち外国書]	4 [4]	— [—]	種
	視聴覚資料	400	104	点
	オンラインデータベース	2	—	種

(注)

学術雑誌（電子ジャーナルを含む）及びオンラインデータベースについては、現在両図書館で整備されているものを継続して購入又は運用する。

○FD委員会規程

(平成26年7月16日施行)

(目的)

第1条 女子美術大学大学院美術研究科、女子美術大学芸術学部、女子美術大学短期大学部は、教育理念及び教育目標に基づいて行う教育内容及び方法の改善・向上を図ることを目的として、FD委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) ファカルティ・ディベロップメント（以下、「FD」という。）の基本方針及び実施計画の立案
- (2) FD活動の実施及び評価
- (3) FD活動に関する情報の収集と提供
- (4) カリキュラムポリシーに基づき、シラバスの内容の適正性等を検証
- (5) その他FDに関する事項

(構成員)

第3条 委員会の構成は、次のとおりとする。

- (1) 学長
- (2) 常務理事
- (3) 美術研究科長、芸術学部長、短期大学部部长
- (4) 大学教務部長、短期大学部教務部長
- (5) 美術研究科長が指名した者 1名
- (6) 芸術学部長が指名した者 3名
- (7) 短期大学部部长が指名した者 1名
- (8) 教学事務部長
- (9) その他委員会が必要と認めた者 若干名

2 前項第5号、第6号及び第7号の指名は、全学調整協議会内規第2条に定める構成員の中から指名する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合は、これを補充し、その任期は前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 委員会に委員の互選により委員長を置く。

2 委員長は、委員会を招集しその議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

4 委員会は、過半数以上の委員の出席により成立し、議決は出席委員の過半数で決するものとする。

(委員以外の意見聴取)

第6条 委員会は、委員以外の教職員の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第7条 委員会の下に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会について必要な事項は、委員会が別に定める。

(事務)

第8条 委員会の事務は、教育支援センター杉並グループ、教育支援センター相模原グループが担当する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、研究科委員会及び両教授会が決定する。

付 則

この規程は、平成26年7月16日から施行する。

付 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	p. 2
① 学生の確保の見通し	p. 2
ア 定員充足の見込み	p. 2
1 入学定員設定の考え方	p. 2
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	p. 2
1 基礎となる学科の志願者数等の状況	p. 2
2 進学実績のある高等学校等に対する進学需要調査結果	p. 2
ウ 学生納付金の設定の考え方	p. 3
② 学生確保に向けた具体的な取組状況	p. 3
(2) 人材需要の動向等社会の要請	p. 4
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	p. 4
1 人材の養成に関する目的	p. 4
2 教育研究上の目的	p. 5
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	p. 5
1 共創デザイン学科を設置する芸術学部の求人件数等の状況	p. 5
2 採用実績のある企業等に対する人材需要調査結果	p. 6

学生の確保の見直し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見直し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見直し

ア 定員充足の見込み

1 入学定員設定の考え方

入学定員設定の考え方は、設置を計画している共創デザイン学科の基礎となるデザイン・工芸学科における最近の志願者状況等を踏まえるとともに、本学への進学実績を有する高等学校を中心とする共創デザイン学科設置の初年度に受験対象となる高等学校2年生の女子に対する「進学需要に関するアンケート調査」（以下「進学需要調査」という。）及び企業等に対する「人材需要に関するアンケート調査」（以下「人材需要調査」という。）の結果などを総合的に勘案したうえで、入学定員を60人としている。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1 基礎となる学科の志願者数等の状況【資料1】

共創デザイン学科の基礎となるデザイン・工芸学科の最近4年間の志願者数は、入学定員220人に対して、平成31年度780人、令和2年度787人、令和3年度605人、令和4年度746人と安定した志願者数の確保を維持しており、最近4年間の平均志願者数は730人、入学定員に対する志願者数の平均倍率は約3.31倍、実質的な競争倍率である合格者数に対する受験者数の平均倍率は約1.44倍となっている。

共創デザイン学科の設置計画においては、既設のデザイン・工芸学科における最近の志願者状況等を踏まえたうえで、デザイン・工芸学科の中で展開してきたデザインに関する教育内容を基礎として、学部教育の多様な展開を図り、特色ある教育の実現に向けた充実した教育内容として設置することから、十分な志願者数を見込むことができるものと考えている。

2 進学実績のある高等学校等に対する進学需要調査結果【資料2】【資料5】【資料7】

今般の共創デザイン学科の設置計画は、基礎となるデザイン・工芸学科の最近の志願者状況等を踏まえたうえで計画していることから、十分な学生確保が見込め

るものであるが、設置計画を策定するに当たり、学生確保の見通しを計量的な数値から確認することを目的として、本学への進学実績を有する高等学校を中心とする共創デザイン学科設置の初年度に受験対象者となる高等学校2年生の女子に対する進学需要調査を実施した。

進学需要調査の結果、共創デザイン学科への興味・関心については、回答者数2,013人の約54.74%に当たる1,102人が「興味・関心がある」と回答しており、共創デザイン学科の受験希望については、回答者数2,013人の約9.54%に当たる192人が「受験を希望する」と回答していることから、共創デザイン学科への興味・関心及び受験意向の高さをうかがうことができる。

また、共創デザイン学科への進学意向については、共創デザイン学科の「受験を希望する」と回答した者のうち、共創デザイン学科に合格した場合、「進学を希望する」と回答した者は、回答者数192人の約45.83%に当たる88人、「併願大学の結果によって入学する」と回答した者は、回答者数192人の約51.56%に当たる99人となっており、共創デザイン学科への進学意向の高さをうかがうことができる。

このように、本学への進学実績を有する高等学校を中心とする一部の高等学校の2年生の女子に限定した調査結果においても、共創デザイン学科への進学意向の高さがうかがえることから、共創デザイン学科を設置した場合においても、十分な志願者数及び入学者数の確保を見込むことができるものと考えられる。

ウ 学生納付金の設定の考え方【資料3】

学生納付金については、大学及び学部運営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を踏まえるとともに、想定される競合校（武蔵野美術大学造形構想学部クリエイティブイノベーション学科、多摩美術大学美術学部統合デザイン学科）の学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度における教育研究経費比率や経営経費依存率を見極めつつ、大学及び学部の運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による金額として設定している。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けた具体的な取組状況としては、大学案内や学生募集用パンフレットの配布をはじめ、高等学校生徒向けの一般広報 WEB 媒体を中心とした広報活動の

他、ホームページやSNS等の電子媒体など多数のメディアを使用したPR活動を行うとともに、特に入学実績のある美術系高等学校や女子高等学校などに対しては、高等学校訪問等を通し、共創デザイン学科についての詳細や情報提供を丁寧に行うこととしている。

また、オープンキャンパスや体験型ワークショップイベントをはじめ、各地域における会場型学外進学相談会や高等学校内での出張授業等の開催を通じて、共創デザイン学科における学位授与方針・教育課程の編成・実施方針・学生の受け入れ方針をはじめとする様々な教育情報について、高等学校生徒や保護者、高等学校教諭、予備校教員に対して広く周知を図ることとしている。

加えて、共創デザイン学科の教育内容をはじめとする教育情報の詳細かつ丁寧な情報提供を目指すことから、特に、受験生に対して養成する人材及び習得する知識や能力に応じた履修モデルなどを提示することにより、卒業後の進路や自己の学習目標に沿った科目履修の可視化を可能とすることで、共創デザイン学科の教育内容に対する理解を促すこととしている。

そのうえで、募集活動については、これまで芸術学部において重点的に行ってきた、高等学校訪問による高等学校教員とのパイプ醸成や高等学校内ガイダンスや出張授業による受験生との対面広報等を中心とする、「人」と「人」との直接広報を更に強化していく。

また、従来の美術・デザイン系を志望する美大受験生層のみならず、経営やビジネス等に興味を持っている一般総合大学受験生層への広報展開にも取り組み、新たな受験生層からの入学者の確保も目指すこととする。

（2）人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

1 人材の養成に関する目的

共創デザイン学科では、伝達や用途などの目的や機能を考え、デザインする能力を身に付け、顧客や消費者をはじめとする多様な立場の人々と協働して、商品やサービスの価値を「共」に「創り」上げることのできる能力を備えた人材を養成することとしている。

具体的には、共創デザイン学科では、伝達や用途などの目的や機能を考え、デザインする創出力、デザインの理論や手法を活用した発想や構想と課題の解決に向けてデザイン手法を運用する主体性・開拓力、デザインやデザイン手法に関する知識と能

力を統合し、他者と共に商品やサービスの価値の創造に取り組むことができる実装力と柔軟性を身に付けることとしている。

2 教育研究上の目的

共創デザイン学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「美術分野」として、デザインを創造するための基礎的・基本的な知識と能力を習得させ、デザインの理論や手法を活用し、デザインの諸活動を主体的・合理的かつ共創的に行い、デザインによる地域や産業の振興を図るための創造的な能力と実践的な姿勢を育成することを教育研究上の目的（教育目標に相当）としている。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1 共創デザイン学科を設置する芸術学部の求人件数等の状況【資料4】

共創デザイン学科を設置する芸術学部における最近4年間の求人件数は、平成29年度は就職希望者351人に対して、求人件数1,209件で求人倍率は約3.44倍、平成30年度は就職希望者362人に対して、求人件数1,030件で求人倍率は約2.85倍、令和元年度は就職希望者348人に対して、求人件数866件で求人倍率は約2.49倍、令和2年度は就職希望者343人に対して、求人件数666件で求人倍率は約1.94倍となっており、昨今の就職難の状況下においても大きな影響を受けることなく、多数の求人件数を得ている。なお、令和2年度の求人件数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による社会経済活動への影響を反映して下落したと考えられる。

また、共創デザイン学科を設置する芸術学部における最近4年間の就職実績は、平成29年度は就職希望者351人に対して就職者数313人で就職率は約89.17%、平成30年度は就職希望者362人に対して就職者数327人で就職率は約90.33%、令和元年度は就職希望者348人に対して就職者数319人で就職率は約91.67%、令和2年度は就職希望者343人に対して就職者数241人で就職率は約70.26%となっており、高い就職率で推移している。なお、令和2年度の就職率については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による社会経済活動への影響を反映して下落したと考えられる。

以上のことは、共創デザイン学科を設置する芸術学部における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、社会的、地域的な人材需要の動向等社会の要請

を踏まえたものであることの裏付けとなるものであり、今般の共創デザイン学科の設置計画においては、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、芸術学部デザイン分野における卒業生の進路や卒業生を受け入れる側の需要を十分に勘案したうえで、デザインによる地域や産業の振興を図るための創造的な能力と実践的な姿勢を育成することを目的とした教育組織として設置することから、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであると考える。

2 採用実績のある企業等に対する人材需要調査結果【資料2】【資料6】【資料7】

今般の共創デザイン学科の設置計画を策定するうえで、共創デザイン学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることを客観的根拠となるデータから検証することを目的として、本学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業やデザイン関連部門等を有する企業等を対象として、共創デザイン学科の卒業生に対する人材需要調査を実施した。

その結果、人材の採用見込みについては、有効回答数76件の約68.42%に当たる52件が「増加すると思う」と回答していることから、本学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業やデザイン関連部門等を有する企業等においては、一定程度の人材需要を見込むことができるものと考えられる。

また、共創デザイン学科の社会的な必要性については、有効回答数76件の約97.37%に当たる74件が「必要性を感じる」と回答しており、共創デザイン学科で養成する人材については、有効回答数76件の約98.68%に当たる75件が「必要性を感じる」と回答していることから、共創デザイン学科の社会的な必要性及び共創デザイン学科で養成する人材の必要性の高さをうかがうことができる。

また、共創デザイン学科で学んだ卒業生に対する採用意向については、有効回答数76件の約85.53%に当たる65件が「採用したいと思う」と回答しているとともに、共創デザイン学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業等の採用人数については、「1人」と回答した企業等が10件、「3人以上」と回答した企業等が4件、「人数は未定」と回答した企業等が50件となっている。

なお、「3人以上」と回答した企業等の採用人数を3人とし、「人数は未定」と回答した企業等の採用人数を1人として、これらの採用人数を合計すると72人となり、この採用人数からも、共創デザイン学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる結果となっている。

このような本学への求人実績や卒業生の採用実績がある一部のデザイン関連企業やデザイン関連部門等を有する企業等に限定した調査結果においても、共創デザイン学科で学んだ卒業生への採用意向の高さがうかがえる結果となっていることから、卒業後の進路については十分な見通しがあると考えられる。

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料（その1）目次

資料1	女子美術大学芸術学部における過去4年間の志願者数等の状況・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 2
資料2	女子美術大学共創デザイン学科（仮称）進学需要等に関するアンケート調査結果報告書（抜粋版）・・・・・・・・	p. 3
資料3	学納金比較一覧・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 19
資料4	女子美術大学芸術学部における過去4年間の就職率等の状況・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 20
資料5	進学需要調査における調査票様式・・・・・・・・	p. 21
資料6	人材需要調査における調査票様式・・・・・・・・	p. 22
資料7	進学需要調査及び人材需要調査において回答者に示した設置計画の概要・・・・・・・・	p. 23

【資料1】

女子美術大学芸術学部における過去4年間の志願者数等の状況

		平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	4年間平均
美術学科	入学定員	190	190	190	190	190
	志願者数	580	697	484	543	576
	受験者数	560	665	461	521	552
	合格者数	396	453	392	356	399
	入学者数	215	217	221	214	217
	入学定員超過率	1.13	1.14	1.16	1.12	1.13
	入学定員に対する志願者数の倍率	3.05	3.66	2.54	2.85	3.02
合格者数に対する受験者数の倍率	1.41	1.46	1.17	1.46	1.37	
デザイン・工芸学科	入学定員	220	220	220	220	220
	志願者数	780	787	605	746	730
	受験者数	741	758	572	707	695
	合格者数	520	512	451	441	481
	入学者数	243	239	238	247	242
	入学定員超過率	1.10	1.08	1.08	1.12	1.09
	入学定員に対する志願者数の倍率	3.54	3.57	2.75	3.39	3.31
合格者数に対する受験者数の倍率	1.42	1.48	1.26	1.60	1.44	
アート・デザイン表現学科	入学定員	160	160	160	160	160
	志願者数	451	556	482	579	517
	受験者数	440	512	463	539	489
	合格者数	241	235	219	225	230
	入学者数	192	184	185	182	186
	入学定員超過率	1.20	1.15	1.15	1.13	1.15
	入学定員に対する志願者数の倍率	2.81	3.47	3.01	3.61	3.22
合格者数に対する受験者数の倍率	1.82	2.17	2.11	2.39	2.12	
合計	入学定員	570	570	570	570	570
	志願者数	1,811	2,040	1,571	1,868	1,823
	受験者数	1,741	1,935	1,496	1,767	1,735
	合格者数	1,157	1,200	1,062	1,022	1,110
	入学者数	650	640	644	643	644
	入学定員超過率	1.14	1.12	1.12	1.12	1.12
	入学定員に対する志願者数の倍率	3.17	3.57	2.75	3.27	3.19
合格者数に対する受験者数の倍率	1.50	1.61	1.40	1.72	1.55	

**女子美術大学共創デザイン学科 (仮称)
進学需要等に関するアンケート調査
結果報告書 (抜粋版)**

令和4年2月

株式会社 島津理化

目 次

I. 進学需要に関するアンケート調査（集計結果）

調査対象等	1
調査結果概要	2～6
大学進学全般に関する質問事項	
高等学校卒業後の進路	2
進学を希望する分野	3
女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項	
共創デザイン学科への興味・関心	4
共創デザイン学科の受験希望	5
共創デザイン学科への進学希望	6

II. 人材需要に関するアンケート調査（集計結果）

調査対象等	7
調査結果概要	8～12
人材需要全般に関する質問事項	
人材の採用見込み	8
女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項	
共創デザイン学科の社会的な必要性	9
共創デザイン学科で養成する人材の必要性	10
共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用	11
共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用人数	12

I. 進学需要に関するアンケート調査（集計結果）

I. 進学需要に関するアンケート調査（集計結果）

【調査対象等】

女子美術大学では、令和5年4月の開設に向けて、共創デザイン学科（仮称）の設置を計画しており、この共創デザイン学科（仮称）の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子を対象とした進学需要等に関するアンケート調査を実施した。

①調査対象

女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子

②調査方法

高等学校単位での一括配布、一括回収

③調査実施

令和3年11月～令和4年1月

④調査件数

回収件数： 96校

回収者数：2,013人

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

【調査結果概要】

<大学進学全般に関する質問事項>

1. 高等学校卒業後の進路

女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子に、高等学校卒業後の進路について質問したところ、回答者数2,013人の約93.24%にあたる1,877人が「大学進学（4年制・6年制）」、「短期大学進学」、「専門学校進学」と回答しており、そのうち「大学進学（4年制・6年制）」と回答している者は、回答者数2,013人の約67.46%にあたる1,358人と最も高い数値を示していることから、大学（4年制・6年制）への進学意向の高さをうかがうことができる。

問1 高等学校卒業後の進路

No.	カテゴリ	件数/人	全体/%
1	大学進学（4年制・6年制）	1,358	67.46
2	短期大学進学	125	6.21
3	専門学校進学	394	19.57
4	就職	103	5.12
5	その他	28	1.39
	未回答・不明	5	0.25
	合計	2,013	100.00

【調査結果概要】

<大学進学全般に関する質問事項>

2. 進学を希望する分野

女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子に、高等学校卒業後に進学をする場合、どの分野を希望するかについて質問したところ、第1希望では「美術学・デザイン学関係」と回答した者が回答者数2,013人の約64.68%にあたる1,302人で最も多く、次いで「文学・史学・哲学関係」と回答した者が約4.47%にあたる90人、「教育学・保育学関係」と回答した者が約4.37%にあたる88人となっている。

問2 進学を希望する分野

No.	進学希望分野	第1希望		第2希望	
		件数/人	全体/%	件数/人	全体/%
1	経済学・経営学関係	68	3.38	120	5.96
2	教育学・保育学関係	88	4.37	263	13.07
3	法学・政治学関係	21	1.04	42	2.09
4	社会学・福祉学関係	37	1.84	97	4.82
5	文学・史学・哲学関係	90	4.47	345	17.14
6	工学・理学関係	38	1.89	107	5.32
7	医学・歯学・薬学関係	44	2.19	43	2.14
8	美術学・デザイン学関係	1,302	64.68	301	14.95
9	家政学・生活科学関係	35	1.74	108	5.37
10	音楽学関係	12	0.60	183	9.09
11	体育学・スポーツ学関係	9	0.45	42	2.09
12	医療技術学関係	15	0.75	37	1.84
13	看護学関係	44	2.19	17	0.84
14	その他	186	9.24	112	5.56
	未回答・不明	24	1.19	196	9.74
	合計	2,013	100.00	2,013	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

3. 共創デザイン学科への興味・関心

女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子に、共創デザイン学科への興味・関心について質問したところ、回答者数2,013人の約54.74%にあたる1,102人が「興味・関心がある」と回答していることから、女子美術大学の共創デザイン学科への興味・関心の高さをうかがうことができる。

問3 共創デザイン学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	興味・関心がある	1,102	54.74
2	興味・関心がない	906	45.01
	未回答・不明	5	0.25
	合計	2,013	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

4. 共創デザイン学科の受験希望

女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子に、共創デザイン学科の受験希望について質問したところ、回答者数2,013人の約9.54%にあたる192人が「受験を希望する」と回答しており、女子美術大学の共創デザイン学科への受験に積極的な意向を示している。

問4 共創デザイン学科の受験希望

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	受験を希望する	192	9.54
2	受験を希望しない	1,767	87.78
	未回答・不明	54	2.68
	合計	2,013	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

5. 共創デザイン学科への進学希望

問4で、共創デザイン学科の「受験を希望する」と回答した者に、共創デザイン学科に合格した場合の進学希望について質問したところ、回答者数 192 人の約 45.83%にあたる 88 人が「進学を希望する」と回答しており、回答者数 192 人の約 51.56%にあたる 99 人が「併願大学の結果によって入学する」と回答しており、女子美術大学の共創デザイン学科への進学に積極的な意向を示している。

このような女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子に限定した調査結果においても、女子美術大学の共創デザイン学科への受験希望と進学希望の高さがうかがえることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

問5 共創デザイン学科への進学希望

No.	カテゴリ	件数/人	全体/%
1	進学を希望する (※)	88	45.83
2	併願大学の結果によって入学する (※)	99	51.56
3	進学を希望しない	4	2.08
	未回答・不明	1	0.52
	合計	192	100.00

(※) 問4「受験を希望する」×問5「進学を希望する」

(※) 問4「受験を希望する」×問5「併願大学の結果によって入学する」

Ⅱ. 人材需要に関するアンケート調査（集計結果）

Ⅱ. 人材需要に関するアンケート調査（集計結果）

【調査対象等】

女子美術大学では、令和5年4月の開設に向けて、共創デザイン学科（仮称）の設置を計画しており、この共創デザイン学科（仮称）の設置計画を策定するにあたり、人材需要の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業及びデザイン関連部門を有する企業等を中心とした人材需要等に関するアンケート調査を実施した。

①調査対象

女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業等

②調査方法

デザイン関連企業等への郵送による配布、回収

③調査実施

令和3年11月～令和4年1月

④調査件数

回答件数：76件

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

【調査結果概要】

<人材需要全般に関する質問事項>

1. 人材の採用見込み

女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業等に対して、人材の採用見込みについて質問したところ、回答件数 76 件の約 68.42%にあたる 52 件が「増加すると思う」と回答している。

問 1 人材の採用見込み

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	増加すると思う	52	68.42
2	増加すると思わない	24	31.58
	未回答・不明	0	0.00
	合計	76	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

2. 共創デザイン学科の社会的な必要性

女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業等に対して、共創デザイン学科の社会的な必要性について質問したところ、回答件数 76 件の約 97.37%にあたる 74 件が「必要性を感じる」と回答していることから、女子美術大学の共創デザイン学科の社会的な必要性の高さをうかがうことができる。

問2 共創デザイン学科の社会的な必要性

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	必要性を感じる	74	97.37
2	必要性を感じない	2	2.63
	未回答・不明	0	0.00
	合計	76	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

3. 共創デザイン学科で養成する人材の必要性

女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業等に対して、共創デザイン学科で養成する人材の必要性について質問したところ、回答件数 76 件の約 98.68% にあたる 75 件が「必要性を感じる」と回答していることから、女子美術大学の共創デザイン学科で養成する人材の必要性の高さをうかがうことができる。

問3 共創デザイン学科で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	必要性を感じる	75	98.68
2	必要性を感じない	1	1.32
	未回答・不明	0	0.00
	合計	76	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

4. 共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用

女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業等に対して、共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 76 件の約 85.53% にあたる 65 件が「採用したいと思う」と回答しており、女子美術大学の共創デザイン学科で学んだ卒業生への採用に積極的な意向を示している。

問4 共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	採用したいと思う	65	85.53
2	採用したいと思わない	11	14.47
	未回答・不明	0	0.00
	合計	76	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

5. 共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用人数

女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業等に対して、女子美術大学の共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用人数について質問したところ、問4で、共創デザイン学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答したデザイン関連企業等のうち、採用人数「1人」と回答したのが10件、「3人以上」と回答したのが4件、「人数は未定」と回答したのが50件となっている。

なお、採用人数を「3人以上」と回答したデザイン関連企業等の採用人数を「3人」とし、「人数は未定」と回答したデザイン関連企業等の採用人数を「1人」として、これらの採用人数を合計すると「72人」となり、これらの採用人数からも女子美術大学の共創デザイン学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

このような女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業及びデザイン関連部門を有する一部の企業等に限定した調査結果においても、女子美術大学の共創デザイン学科で学んだ卒業生への採用意向の高さがうかがえることから、卒業後の進路については十分な見通しがあると考えられる。

問5 共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	1人	10	15.38
2	2人	0	0.00
3	3人以上	4	6.15
4	人数は未定	50	76.92
	未回答・不明	1	1.54
	合計	65	100.00

問4×問5 卒業生の採用×卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数/件	全体/人
1*1	採用したいと思う/1人	10	10
1*2	採用したいと思う/2人	0	0
1*3	採用したいと思う/3人以上	4	12
1*4	採用したいと思う/人数は未定	50	50
	合計	64	72

学納金比較一覧

女子美術大学		(単位:円)					
部門	入学金(入学時)	授業料(年額)	施設設備料(年額)	維持費(年額)	実習料(年額)	合計(年額)	
芸術学部 共創デザイン学科 (参考)	220,000 (110,000)	1,198,000	360,000	50,000	60,000	1,888,000	
美術学科	220,000	1,198,000	360,000	50,000	38,200 ~ 71,200	1,866,200 ~ 1,899,200	
デザイン・工芸学科	220,000	1,198,000	360,000	50,000	50,000 ~ 58,000	1,878,000 ~ 1,886,000	
アート・デザイン表現学科	220,000	1,198,000	360,000	50,000	68,200	1,896,200	

注 1年次の入学金の()内の金額は、本学付属高等学校からの推薦入学者に適用する。

武蔵野美術大学

部門	入学金(入学時)	授業料(年額)	施設設備料(年額)	維持費(年額)	実習料(年額)	合計(年額)
造形構想学部 クリエイティブイノベーション学科	300,000	1,185,000	324,000	32,400	57,500	1,898,900

多摩美術大学

部門	入学金(入学時)	授業料(年額)	施設設備料(年額)	維持費(年額)	実習料(年額)	合計(年額)
美術学部 統合デザイン学科	270,000	1,187,000	350,000	50,000	38,000	1,895,000

【資料4】

女子美術大学芸術学部における過去4年間の就職率等の状況

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
卒業者数	567	554	527	561
求人票件数	1,209	1,030	866	666
求職者数	351	362	348	343
就職者数 ¹⁾	313	327	319	241
就職率 ²⁾	89.17%	90.33%	91.67%	70.26%
就職未決定者数 ³⁾	38	35	29	102
進学者数	48	30	34	40
制作活動・アルバイト従事者数	113	120	30	56
進路先不明者数 ⁴⁾	55	42	115	122

1)求職者のうち、就職決定の報告があった者

2)求職者のうち、就職者の割合(「就職者」÷「求職者」)

3)求職者のうち、就職活動中の者

4)進路の報告がない者

女子美術大学 芸術学部 共創デザイン学科(仮称)
設置構想に関するアンケート調査(高校2年生女子対象)

女子美術大学では、「共創デザイン学科(仮称)」の新設を検討しております。

このアンケート調査は、高校生の皆さんに、高校卒業後の進路等についてお聞きし、「共創デザイン学科(仮称)」の設置に向けての基礎資料とするものですので、ご協力くださいますようお願いいたします。なお、このアンケート調査の結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、個別の回答内容について公開することはありません。

回答は、別紙『女子美術大学 芸術学部 共創デザイン学科(仮称) 設置計画の概要』をご覧ください。また、設問の順に、該当する番号を直接回答欄にご記入ください。

【回答欄】

問1 あなたは、高校卒業後、どのような進路をお考えですか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | | |
|-----------------|----------|---|
| 1 大学進学(4年制・6年制) | 2 短期大学進学 | <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 3 専門学校進学 | 4 就職 | |
| 5 その他(具体的に) | | |

問2 あなたが、高校卒業後に進学をする場合、どの分野を希望されますか。

次の中から、第2希望まで選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | | | |
|----------------|---------------|------|---|
| 1 経済学・経営学関係 | 2 教育学・保育学関係 | 第1希望 | <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 3 法学・政治学関係 | 4 社会学・福祉学関係 | | |
| 5 文学・史学・哲学関係 | 6 工学・理学関係 | 第2希望 | <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 7 医学・歯学・薬学関係 | 8 美術学・デザイン学関係 | | |
| 9 家政学・生活科学関係 | 10 音楽学関係 | | |
| 11 体育学・スポーツ学関係 | 12 医療技術学関係 | | |
| 13 看護学関係 | 14 その他(具体的に) | | |

問3 あなたは、女子美術大学の「共創デザイン学科(仮称)」に興味・関心がありますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | | |
|------------|------------|---|
| 1 興味・関心がある | 2 興味・関心がない | <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
|------------|------------|---|

問4 あなたは、女子美術大学の「共創デザイン学科(仮称)」の受験を希望されますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | |
|--|---|
| 1 受験を希望する(学校推薦型選抜・総合型選抜・一般選抜・共通テストを含む) | <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 2 受験を希望しない | |

<問5は、問4で「1」と回答された方のみ、お答えください>

問5 あなたは、女子美術大学の「共創デザイン学科(仮称)」に合格した場合、進学を希望されますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | | |
|------------|-------------------|---|
| 1 進学を希望する | 2 併願大学の結果によって入学する | <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 3 進学を希望しない | | |

これで、アンケート調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。

【資料6】

**女子美術大学 芸術学部 共創デザイン学科(仮称)
設置構想に関するアンケート調査(企業対象)**

女子美術大学では、「共創デザイン学科(仮称)」の新設を検討しております。

このアンケート調査は、人事・採用ご担当の皆様からのご意見をお聞きし、「共創デザイン学科(仮称)」の設置に向けての基礎資料とするものですので、ご協力くださいますようお願いいたします。なお、このアンケート調査の結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、個別の回答内容について公開することはありません。

回答は、別紙『女子美術大学 芸術学部 共創デザイン学科(仮称) 設置計画の概要』をご覧ください。えで、設問の順に、該当する番号を直接回答欄にご記入ください。

【回答欄】

問1 今後の貴社・貴機関における人材の採用見込について、お尋ねいたします。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 増加すると思う 2 増加すると思わない

問2 女子美術大学の「共創デザイン学科(仮称)」の社会的な必要性について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に記入してください。

- 1 必要性を感じる 2 必要性を感じない

問3 女子美術大学の「共創デザイン学科(仮称)」で養成する人材について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 必要性を感じる 2 必要性を感じない

問4 女子美術大学の「共創デザイン学科(仮称)」で学んだ卒業生の採用について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 採用したいと思う 2 採用したいと思わない

<問5は、問4で「1」と回答された方のみ、お答えください>

問5 女子美術大学の「共創デザイン学科(仮称)」で学んだ卒業生の採用人数について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 1人 2 2人
3 3人以上 4 人数は未定

これで、アンケート調査は終わりです。

ご多忙中、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

女子美術大学 芸術学部 共創デザイン学科(仮称) 設置計画の概要

□**計画概要** ※学科名称、学生定員、開設時期、設置場所等については予定

- * 設置組織：共創デザイン学科（4年制）
- * 学生定員：入学定員60名／収容定員240名
- * 開設時期：令和5年4月
- * 設置場所：東京都杉並区和田1-49-8
- * アクセス：東京メトロ丸の内線 東高円寺駅下車 徒歩8分



□**教育研究上の目的**

- * 共創デザイン学科では、デザインを創造するための基礎的・基本的な知識と能力を習得させ、デザインの理論や手法を活用し、デザインの諸活動を主体的・合理的かつ共創的に行い、デザインによる地域や産業の振興を図るための創造的な能力と実践的な姿勢を育成することを教育研究上の目的としています。

□**養成する人材**

- * 共創デザイン学科では、伝達や用途などの目的や機能を考え、デザインに表現する能力を身に付け、デザインの理論や手法を活用し、顧客や消費者をはじめとする多様な立場の人々と協働して、商品やサービスの価値を「共」に「創り」上げることのできる能力を備えた人材を養成します。

□**修得する知識・能力等**

- * 共創デザイン学科では、伝達や用途などの目的や機能を考え、デザインに表現する創出力、デザインの理論や手法を活用した発想や構想と課題の解決にむけてデザイン手法を運用する主体性・開拓力、デザインやデザイン手法に関する知識と能力を統合し、他者と共に商品やサービスの価値の創造に取り組むことができる実装力と柔軟性を身に付けます。

□**想定される卒業後の進路**

- * 卒業後の進路としては、デザイン会社をはじめとする関連企業等に所属し、地域におけるデザイン活動の促進やデザインを活用した地域振興、産業界における産業振興にむけたデザインの活用促進などの活動を通じて、地域の活性化や産業界の振興に貢献することが期待されます。
- * 例えば、製造元や顧客との意思の疎通や連携を図りながら、商品の特色や魅力を包装や容器で表現することで、商品の価値の創造に寄与することなどが想定されます。

□**学費** ※近隣の私立大学類似学科の学費との比較

- * 女子美術大学 芸術学部 共創デザイン学科 1,886,000円（入学金220,000円 授業料等1,666,000円）
- * 武蔵野美術大学 造形構想学部 クリエイティブイノベーション学科 1,898,900円（入学金300,000円 授業料等1,598,900円）
- * 多摩美術大学 美術学部 統合デザイン学科 1,945,000円（入学金270,000円 授業料等1,675,000円）

※ 他大学の学費は2021年10月時点の各大学ホームページ掲載情報です。

※ その他、各大学とも諸会費別途必要となる場合があります。

上記内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料（その2）目次

参照資料	女子美術大学共創デザイン学科（仮称）進学需要等に関するアンケート調査結果報告書・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 25
------	---	-------

**女子美術大学共創デザイン学科（仮称）
進学需要等に関するアンケート調査
結果報告書**

令和4年2月

株式会社 島津理化

目 次

I. 進学需要に関するアンケート調査（集計結果）

調査対象等	1
調査結果概要	2～6
大学進学全般に関する質問事項	
高等学校卒業後の進路	2
進学を希望する分野	3
女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項	
共創デザイン学科への興味・関心	4
共創デザイン学科の受験希望	5
共創デザイン学科への進学希望	6

II. 人材需要に関するアンケート調査（集計結果）

調査対象等	7
調査結果概要	8～12
人材需要全般に関する質問事項	
人材の採用見込み	8
女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項	
共創デザイン学科の社会的な必要性	9
共創デザイン学科で養成する人材の必要性	10
共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用	11
共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用人数	12

III. 参考資料

進学需要に関するアンケート調査関係	
進学需要に関するアンケート調査 依頼高等学校一覧	
アンケート調査票（高校生）	
共創デザイン学科 設置計画の概要	
人材需要に関するアンケート調査関係	
人材需要に関するアンケート調査 依頼企業等一覧	
アンケート調査票（企業等）	
共創デザイン学科 設置計画の概要	

I. 進学需要に関するアンケート調査（集計結果）

I. 進学需要に関するアンケート調査（集計結果）

【調査対象等】

女子美術大学では、令和5年4月の開設に向けて、共創デザイン学科（仮称）の設置を計画しており、この共創デザイン学科（仮称）の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子を対象とした進学需要等に関するアンケート調査を実施した。

①調査対象

女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子

②調査方法

高等学校単位での一括配布、一括回収

③調査実施

令和3年11月～令和4年1月

④調査件数

回収件数： 96校

回収者数：2,013人

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

【調査結果概要】

<大学進学全般に関する質問事項>

1. 高等学校卒業後の進路

女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子に、高等学校卒業後の進路について質問したところ、回答者数2,013人の約93.24%にあたる1,877人が「大学進学（4年制・6年制）」、「短期大学進学」、「専門学校進学」と回答しており、そのうち「大学進学（4年制・6年制）」と回答している者は、回答者数2,013人の約67.46%にあたる1,358人と最も高い数値を示していることから、大学（4年制・6年制）への進学意向の高さをうかがうことができる。

問1 高等学校卒業後の進路

No.	カテゴリ	件数/人	全体/%
1	大学進学（4年制・6年制）	1,358	67.46
2	短期大学進学	125	6.21
3	専門学校進学	394	19.57
4	就職	103	5.12
5	その他	28	1.39
	未回答・不明	5	0.25
	合計	2,013	100.00

【調査結果概要】

<大学進学全般に関する質問事項>

2. 進学を希望する分野

女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子に、高等学校卒業後に進学をする場合、どの分野を希望するかについて質問したところ、第1希望では「美術学・デザイン学関係」と回答した者が回答者数2,013人の約64.68%にあたる1,302人で最も多く、次いで「文学・史学・哲学関係」と回答した者が約4.47%にあたる90人、「教育学・保育学関係」と回答した者が約4.37%にあたる88人となっている。

問2 進学を希望する分野

No.	進学希望分野	第1希望		第2希望	
		件数/人	全体/%	件数/人	全体/%
1	経済学・経営学関係	68	3.38	120	5.96
2	教育学・保育学関係	88	4.37	263	13.07
3	法学・政治学関係	21	1.04	42	2.09
4	社会学・福祉学関係	37	1.84	97	4.82
5	文学・史学・哲学関係	90	4.47	345	17.14
6	工学・理学関係	38	1.89	107	5.32
7	医学・歯学・薬学関係	44	2.19	43	2.14
8	美術学・デザイン学関係	1,302	64.68	301	14.95
9	家政学・生活科学関係	35	1.74	108	5.37
10	音楽学関係	12	0.60	183	9.09
11	体育学・スポーツ学関係	9	0.45	42	2.09
12	医療技術学関係	15	0.75	37	1.84
13	看護学関係	44	2.19	17	0.84
14	その他	186	9.24	112	5.56
	未回答・不明	24	1.19	196	9.74
	合計	2,013	100.00	2,013	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

3. 共創デザイン学科への興味・関心

女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子に、共創デザイン学科への興味・関心について質問したところ、回答者数2,013人の約54.74%にあたる1,102人が「興味・関心がある」と回答していることから、女子美術大学の共創デザイン学科への興味・関心の高さをうかがうことができる。

問3 共創デザイン学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	興味・関心がある	1,102	54.74
2	興味・関心がない	906	45.01
	未回答・不明	5	0.25
	合計	2,013	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

4. 共創デザイン学科の受験希望

女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子に、共創デザイン学科の受験希望について質問したところ、回答者数2,013人の約9.54%にあたる192人が「受験を希望する」と回答しており、女子美術大学の共創デザイン学科への受験に積極的な意向を示している。

問4 共創デザイン学科の受験希望

No.	カテゴリ	件数/人	全体/%
1	受験を希望する	192	9.54
2	受験を希望しない	1,767	87.78
	未回答・不明	54	2.68
	合計	2,013	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

5. 共創デザイン学科への進学希望

問4で、共創デザイン学科の「受験を希望する」と回答した者に、共創デザイン学科に合格した場合の進学希望について質問したところ、回答者数 192 人の約 45.83%にあたる 88 人が「進学を希望する」と回答しており、回答者数 192 人の約 51.56%にあたる 99 人が「併願大学の結果によって入学する」と回答しており、女子美術大学の共創デザイン学科への進学に積極的な意向を示している。

このような女子美術大学への受験実績や進学実績を有する高等学校を中心とする2年生の女子に限定した調査結果においても、女子美術大学の共創デザイン学科への受験希望と進学希望の高さがうかがえることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

問5 共創デザイン学科への進学希望

No.	カテゴリ	件数/人	全体/%
1	進学を希望する (※)	88	45.83
2	併願大学の結果によって入学する (※)	99	51.56
3	進学を希望しない	4	2.08
	未回答・不明	1	0.52
	合計	192	100.00

(※) 問4「受験を希望する」×問5「進学を希望する」

(※) 問4「受験を希望する」×問5「併願大学の結果によって入学する」

Ⅱ. 人材需要に関するアンケート調査（集計結果）

Ⅱ. 人材需要に関するアンケート調査（集計結果）

【調査対象等】

女子美術大学では、令和5年4月の開設に向けて、共創デザイン学科（仮称）の設置を計画しており、この共創デザイン学科（仮称）の設置計画を策定するにあたり、人材需要の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業及びデザイン関連部門を有する企業等を中心とした人材需要等に関するアンケート調査を実施した。

①調査対象

女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業等

②調査方法

デザイン関連企業等への郵送による配布、回収

③調査実施

令和3年11月～令和4年1月

④調査件数

回答件数：76件

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

【調査結果概要】

<人材需要全般に関する質問事項>

1. 人材の採用見込み

女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業等に対して、人材の採用見込みについて質問したところ、回答件数 76 件の約 68.42%にあたる 52 件が「増加すると思う」と回答している。

問 1 人材の採用見込み

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	増加すると思う	52	68.42
2	増加すると思わない	24	31.58
	未回答・不明	0	0.00
	合計	76	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

2. 共創デザイン学科の社会的な必要性

女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業等に対して、共創デザイン学科の社会的な必要性について質問したところ、回答件数 76 件の約 97.37%にあたる 74 件が「必要性を感じる」と回答していることから、女子美術大学の共創デザイン学科の社会的な必要性の高さをうかがうことができる。

問2 共創デザイン学科の社会的な必要性

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	必要性を感じる	74	97.37
2	必要性を感じない	2	2.63
	未回答・不明	0	0.00
	合計	76	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

3. 共創デザイン学科で養成する人材の必要性

女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業等に対して、共創デザイン学科で養成する人材の必要性について質問したところ、回答件数 76 件の約 98.68% にあたる 75 件が「必要性を感じる」と回答していることから、女子美術大学の共創デザイン学科で養成する人材の必要性の高さをうかがうことができる。

問3 共創デザイン学科で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	必要性を感じる	75	98.68
2	必要性を感じない	1	1.32
	未回答・不明	0	0.00
	合計	76	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

4. 共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用

女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業等に対して、共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 76 件の約 85.53% にあたる 65 件が「採用したいと思う」と回答しており、女子美術大学の共創デザイン学科で学んだ卒業生への採用に積極的な意向を示している。

問4 共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	採用したいと思う	65	85.53
2	採用したいと思わない	11	14.47
	未回答・不明	0	0.00
	合計	76	100.00

【調査結果概要】

<女子美術大学の共創デザイン学科に関する質問事項>

5. 共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用人数

女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業等に対して、女子美術大学の共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用人数について質問したところ、問4で、共創デザイン学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答したデザイン関連企業等のうち、採用人数「1人」と回答したのが10件、「3人以上」と回答したのが4件、「人数は未定」と回答したのが50件となっている。

なお、採用人数を「3人以上」と回答したデザイン関連企業等の採用人数を「3人」とし、「人数は未定」と回答したデザイン関連企業等の採用人数を「1人」として、これらの採用人数を合計すると「72人」となり、これらの採用人数からも女子美術大学の共創デザイン学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

このような女子美術大学への求人実績や卒業生の採用実績があるデザイン関連企業及びデザイン関連部門を有する一部の企業等に限定した調査結果においても、女子美術大学の共創デザイン学科で学んだ卒業生への採用意向の高さがうかがえることから、卒業後の進路については十分な見通しがあると考えられる。

問5 共創デザイン学科で学んだ卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	1人	10	15.38
2	2人	0	0.00
3	3人以上	4	6.15
4	人数は未定	50	76.92
	未回答・不明	1	1.54
	合計	65	100.00

問4×問5 卒業生の採用×卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数/件	全体/人
1*1	採用したいと思う/1人	10	10
1*2	採用したいと思う/2人	0	0
1*3	採用したいと思う/3人以上	4	12
1*4	採用したいと思う/人数は未定	50	50
	合計	64	72

Ⅲ. 参 考 资 料

進学需要に関するアンケート調査関係

女子美術大学 芸術学部 共創デザイン学科(仮称)
設置構想に関するアンケート調査(高校2年生女子対象)

女子美術大学では、「共創デザイン学科(仮称)」の新設を検討しております。

このアンケート調査は、高校生の皆さんに、高校卒業後の進路等についてお聞きし、「共創デザイン学科(仮称)」の設置に向けての基礎資料とするものですので、ご協力くださいますようお願いいたします。なお、このアンケート調査の結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、個別の回答内容について公開することはありません。

回答は、別紙『女子美術大学 芸術学部 共創デザイン学科(仮称) 設置計画の概要』をご覧ください。えで、設問の順に、該当する番号を直接回答欄にご記入ください。

【回答欄】

問1 あなたは、高校卒業後、どのような進路をお考えですか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | |
|-----------------|----------|
| 1 大学進学(4年制・6年制) | 2 短期大学進学 |
| 3 専門学校進学 | 4 就職 |
| 5 その他(具体的に) | |

問2 あなたが、高校卒業後に進学をする場合、どの分野を希望されますか。

次の中から、第2希望まで選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | | |
|----------------|---------------|------|
| 1 経済学・経営学関係 | 2 教育学・保育学関係 | 第1希望 |
| 3 法学・政治学関係 | 4 社会学・福祉学関係 | |
| 5 文学・史学・哲学関係 | 6 工学・理学関係 | |
| 7 医学・歯学・薬学関係 | 8 美術学・デザイン学関係 | 第2希望 |
| 9 家政学・生活科学関係 | 10 音楽学関係 | |
| 11 体育学・スポーツ学関係 | 12 医療技術学関係 | |
| 13 看護学関係 | 14 その他(具体的に) | |

問3 あなたは、女子美術大学の「共創デザイン学科(仮称)」に興味・関心がありますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | |
|------------|------------|
| 1 興味・関心がある | 2 興味・関心がない |
|------------|------------|

問4 あなたは、女子美術大学の「共創デザイン学科(仮称)」の受験を希望されますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | |
|--|
| 1 受験を希望する(学校推薦型選抜・総合型選抜・一般選抜・共通テストを含む) |
| 2 受験を希望しない |

<問5は、問4で「1」と回答された方のみ、お答えください>

問5 あなたは、女子美術大学の「共創デザイン学科(仮称)」に合格した場合、進学を希望されますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | |
|------------|-------------------|
| 1 進学を希望する | 2 併願大学の結果によって入学する |
| 3 進学を希望しない | |

これで、アンケート調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。

女子美術大学 芸術学部 共創デザイン学科(仮称) 設置計画の概要

□**計画概要** ※学科名称、学生定員、開設時期、設置場所等については予定

- * 設置組織：共創デザイン学科（4年制）
- * 学生定員：入学定員60名／収容定員240名
- * 開設時期：令和5年4月
- * 設置場所：東京都杉並区和田1-49-8
- * アクセス：東京メトロ丸の内線 東高円寺駅下車 徒歩8分

□**教育研究上の目的**

- * 共創デザイン学科では、デザインを創造するための基礎的・基本的な知識と能力を習得させ、デザインの理論や手法を活用し、デザインの諸活動を主体的・合理的かつ共創的に行い、デザインによる地域や産業の振興を図るための創造的な能力と実践的な姿勢を育成することを教育研究上の目的としています。



□**養成する人材**

- * 共創デザイン学科では、伝達や用途などの目的や機能を考え、デザインに表現する能力を身に付け、デザインの理論や手法を活用し、顧客や消費者をはじめとする多様な立場の人々と協働して、商品やサービスの価値を「共」に「創り」上げることのできる能力を備えた人材を養成します。

□**修得する知識・能力等**

- * 共創デザイン学科では、伝達や用途などの目的や機能を考え、デザインに表現する創出力、デザインの理論や手法を活用した発想や構想と課題の解決にむけてデザイン手法を運用する主体性・開拓力、デザインやデザイン手法に関する知識と能力を統合し、他者と共に商品やサービスの価値の創造に取り組むことができる実装力と柔軟性を身に付けます。

□**想定される卒業後の進路**

- * 卒業後の進路としては、デザイン会社をはじめとする関連企業等に所属し、地域におけるデザイン活動の促進やデザインを活用した地域振興、産業界における産業振興にむけたデザインの活用促進などの活動を通じて、地域の活性化や産業界の振興に貢献することが期待されます。
- * 例えば、製造元や顧客との意思の疎通や連携を図りながら、商品の特色や魅力を包装や容器で表現することで、商品の価値の創造に寄与することなどが想定されます。

□**学費** ※近隣の私立大学類似学科の学費との比較

- * 女子美術大学 芸術学部 共創デザイン学科 1,886,000円（入学金220,000円 授業料等1,666,000円）
- * 武蔵野美術大学 造形構想学部 クリエイティブイノベーション学科 1,898,900円（入学金300,000円 授業料等1,598,900円）
- * 多摩美術大学 美術学部 統合デザイン学科 1,945,000円（入学金270,000円 授業料等1,675,000円）

※ 他大学の学費は2021年10月時点の各大学ホームページ掲載情報です。

※ その他、各大学とも諸会費別途必要となる場合があります。

上記内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

人材需要に関するアンケート調査関係

女子美術大学 芸術学部 共創デザイン学科(仮称)
設置構想に関するアンケート調査(企業対象)

女子美術大学では、「共創デザイン学科(仮称)」の新設を検討しております。

このアンケート調査は、人事・採用ご担当の皆様からのご意見をお聞きし、「共創デザイン学科(仮称)」の設置に向けての基礎資料とするものですので、ご協力くださいますようお願いいたします。なお、このアンケート調査の結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、個別の回答内容について公開することはありません。

回答は、別紙『女子美術大学 芸術学部 共創デザイン学科(仮称) 設置計画の概要』をご覧ください。えで、設問の順に、該当する番号を直接回答欄にご記入ください。

【回答欄】

問1 今後の貴社・貴機関における人材の採用見込について、お尋ねいたします。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 増加すると思う 2 増加すると思わない

問2 女子美術大学の「共創デザイン学科(仮称)」の社会的な必要性について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に記入してください。

- 1 必要性を感じる 2 必要性を感じない

問3 女子美術大学の「共創デザイン学科(仮称)」で養成する人材について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 必要性を感じる 2 必要性を感じない

問4 女子美術大学の「共創デザイン学科(仮称)」で学んだ卒業生の採用について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 採用したいと思う 2 採用したいと思わない

<問5は、問4で「1」と回答された方のみ、お答えください>

問5 女子美術大学の「共創デザイン学科(仮称)」で学んだ卒業生の採用人数について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 1人 2 2人
3 3人以上 4 人数は未定

これで、アンケート調査は終わりです。

ご多忙中、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

女子美術大学 芸術学部 共創デザイン学科(仮称) 設置計画の概要

□**計画概要** ※学科名称、学生定員、開設時期、設置場所等については予定

- * 設置組織：共創デザイン学科（4年制）
- * 学生定員：入学定員60名／収容定員240名
- * 開設時期：令和5年4月
- * 設置場所：東京都杉並区和田1-49-8
- * アクセス：東京メトロ丸の内線 東高円寺駅下車 徒歩8分

□**教育研究上の目的**

- * 共創デザイン学科では、デザインを創造するための基礎的・基本的な知識と能力を習得させ、デザインの理論や手法を活用し、デザインの諸活動を主体的・合理的かつ共創的にを行い、デザインによる地域や産業の振興を図るための創造的な能力と実践的な姿勢を育成することを教育研究上の目的としています。



□**養成する人材**

- * 共創デザイン学科では、伝達や用途などの目的や機能を考え、デザインに表現する能力を身に付け、デザインの理論や手法を活用し、顧客や消費者をはじめとする多様な立場の人々と協働して、商品やサービスの価値を「共」に「創り」上げることのできる能力を備えた人材を養成します。

□**修得する知識・能力等**

- * 共創デザイン学科では、伝達や用途などの目的や機能を考え、デザインに表現する創出力、デザインの理論や手法を活用した発想や構想と課題の解決にむけてデザイン手法を運用する主体性・開拓力、デザインやデザイン手法に関する知識と能力を統合し、他者と共に商品やサービスの価値の創造に取り組むことができる実装力と柔軟性を身に付けます。

□**想定される卒業後の進路**

- * 卒業後の進路としては、デザイン会社をはじめとする関連企業等に所属し、地域におけるデザイン活動の促進やデザインを活用した地域振興、産業界における産業振興にむけたデザインの活用促進などの活動を通じて、地域の活性化や産業界の振興に貢献することが期待されます。
- * 例えば、製造元や顧客との意思の疎通や連携を図りながら、商品の特色や魅力を包装や容器で表現することで、商品の価値の創造に寄与することなどが想定されます。

□**学費** ※近隣の私立大学類似学科の学費との比較

- * 女子美術大学 芸術学部 共創デザイン学科 1,886,000円（入学金220,000円 授業料等1,666,000円）
- * 武蔵野美術大学 造形構想学部 クリエイティブイノベーション学科 1,898,900円（入学金300,000円 授業料等1,598,900円）
- * 多摩美術大学 美術学部 統合デザイン学科 1,945,000円（入学金270,000円 授業料等1,675,000円）

※ 他大学の学費は2021年10月時点の各大学ホームページ掲載情報です。

※ その他、各大学とも諸会費別途必要となる場合があります。

上記内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	オガラ フミ 小倉 文子 <令和元年6月>		短期大学卒		女子美術大学 学長 (令和元.6~令和5.5)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
5	専	准教授	チノ(石川) ヤマ 千木良(石川) 康子 ＜令和5年4月＞		学士 (工学)		共創デザイン実践Ⅱ ライフマネジメント論Ⅱ-A 共創デザイン演習Ⅱ-F コミュニケーション特論Ⅲ 共創デザイン実践Ⅲ 共創デザイン選択演習Ⅲ-B 共創デザイン選択演習Ⅲ-Ea 共創デザイン選択演習Ⅲ-Eb 共創デザイン実践Ⅳ 卒業研究 ライフマネジメント論Ⅳ-A ライフマネジメント論Ⅳ-B	2通 2後 2休 2前 3通 3前 3後 4前 4通 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 8 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	元 株式会社東芝 本社技術部技術企画 室室員 (令2.7まで)	5日
6	専	准教授	ハヤシ 雅也 羽田 成宏 ＜令和5年4月＞		修士 (工学)		共創デザイン演習Ⅰ-G 共創デザイン実践Ⅰ 共創デザイン概論※ プログラミング演習 産官学連携演習 共創デザイン実践Ⅱ 共創デザイン選択演習Ⅱ-D 共創デザイン実践Ⅲ 共創デザイン選択演習Ⅲ-D 共創デザイン実践Ⅳ 卒業研究 ライフマネジメント論Ⅳ-A ライフマネジメント論Ⅳ-B	1後 1通 1前 1前 1・2・3通 2通 2後 3通 3前 4前 4通 4前 4後	2 2 0.1 2 2 2 2 2 8 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	株式会社「グマイ」 事業開発マネージャー (令2.11)	3日
7	兼担	教授	オヤマ アキコ 奥山 亜喜子 ＜令和5年4月＞		修士 (法学) ※		女子美基礎講座※ 女子美の教養※ 女性と法 人権・ダイバーシティとアート プロジェクト・スタディーズ アーティスト・イン・レジデンス 国際芸術プログラム インターンシップ1 インターンシップ2 インターンシップ3 インターンシップ4 感性異分野共創論Ⅱ※	1前 1前 1・2・3前・後 2・3・4前・後 2・3・4前・後 2・3・4前・後 3・4前・後 3・4前・後 3・4前・後 3・4前・後 3前	0.3 0.8 2 2 2 2 1 2 3 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	女子美術大学 芸術学部 教授 (平11.4)	
8	兼担	教授	コバヤシ アツシ 小林 篤志 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		コミュニケーション論 言語学 Joshibi Foundation English A Joshibi Foundation English B Joshibi Global English A Joshibi Global English B	1・2・3前・後 1・2・3前・後 1前 1後 1・2・3前 1・2・3後	2 2 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	女子美術大学 芸術学部 教授 (平13.4)	
9	兼担	教授	デニス リンダ アン Deniss Linda Anne ＜令和6年4月＞		博士 (美術)		ジェンダーとアート研究 プロジェクト・スタディーズ	2・3・4前・後 2・3・4前・後	2 2	1 1	女子美術大学 芸術学部 教授 (平28.4)	
10	兼担	教授	ヒスマ テイコ 日沼 禎子 ＜令和5年4月＞		芸術 学士		アーティスト・イン・レジデンス概論※ 博物館概論 感性異分野共創論Ⅱ※	1・2・3前・後 1前・後 3前	0.5 2 0.3	1 1 1	女子美術大学 芸術学部 教授 (平23.4)	
11	兼担	教授	フクシ トモコ 福土 朋子 ＜令和6年4月＞		博士 (美術)		感性異分野共創論Ⅰ※	2前	0.3	1	女子美術大学 芸術学部 教授 (平21.4)	
12	兼担	教授	ミヨコ(黒田) リカ 三谷(黒田) 理華 ＜令和5年4月＞		修士 (文学) ・ MASTER (Spē cialite HISTOIRE DE L'ART) フランス		女子美の教養※ 博物館概論 感性異分野共創論Ⅱ※	1前 1前・後 3前	0.1 2 0.3	1 1 1	女子美術大学 芸術学部 教授 (令2.9)	
13	兼担	教授	ムラカミ キミヲ 村岡 貴美男 ＜令和6年4月＞		芸術学 修士 ※		感性異分野共創論Ⅰ※	2前	0.3	1	女子美術大学 芸術学部 教授 (平21.4)	
14	兼担	准教授	アラ シズメ 荒 姿寿 ＜令和6年4月＞		修士 (美術)		感性異分野共創論Ⅰ※	2前	0.3	1	女子美術大学 芸術学部 准教授 (平24.4)	
15	兼担	准教授	カネノ(浅野) ナホ 加藤(浅野) 尚子 ＜令和6年4月＞		学士 (芸術)		感性異分野共創論Ⅰ※	2前	0.3	1	女子美術大学 芸術学部 准教授 (令3.4)	
16	兼担	准教授	コスグローブ サイモン ジェームス Cosgrove Simon James ＜令和5年4月＞		MA (Dept. of Music) アメリカ		女子美の教養※ 音楽とアート 芸術学C Joshibi Foundation English A Joshibi Foundation English B English in Film and the Performing Arts A English in Film and the Performing Arts B	1前 2・3・4前・後 1・2・3前・後 1前 2後 2・3・4前 2・3・4後	0.3 2 2 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	女子美術大学 芸術学部 准教授 (平29.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
17	兼任	准教授	ナヤマ(フジワ) ミツル 橋山(藤原) 満照 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		女子美の教養※ 古美術研究 感性異分野共創論Ⅱ※	1前 3前・後 3前	0.1 2 0.3	1 1 1	女子美術大学 芸術学部 准教授 (令3.4)	
18	兼任	准教授	ホカ カスヒト 保高 一仁 ＜令和5年4月＞		修士 (芸術)		表現と癒しの営み	1・2・3前・後	2	1	女子美術大学 芸術学部 准教授 (令2.4)	
19	兼任	助教	ホシ エリコ 帆足 枝里子 ＜令和6年4月＞		博士 (美術)		感性異分野共創論Ⅰ※	2前	0.4	1	女子美術大学 芸術学部 助教 (令2.4)	
20	兼任	講師	アカイ ヒロミ 赤池 宏文 ＜令和6年4月＞		学士 (造形)		共創デザイン選択演習Ⅱ-C	2後	2	1	株式会社オネックジヤパ ン デザイン部チーフ・ リーダー (令3.4)	
21	兼任	講師	アツ ノブミ 阿久津 望 ＜令和5年4月＞		専門学 校卒		共創デザイン演習Ⅰ-C 共創デザイン選択演習Ⅱ-A	1前 2後	2 2	1 1	元 PROJECT GROUP, LTD. アートディレクター (平30.3まで)	
22	兼任	講師	アケヤマ ジュンヤ 明山 淳也 ＜令和7年4月＞		学士 (工学)		共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Aa 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ab	3後 3後	2 2	1 1	株式会社GOODTIME 代表取締役 (平26.3)	
23	兼任	講師	アサマ カシ 浅沼 尚 ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		産官学連携演習	1・2・3通	2	1	Japan Digital Design株式会社 Chief Experience Officer (平30.6)	
24	兼任	講師	アベ ヒロミ 阿部 宏史 ＜令和5年4月＞		学士 (文学)		印刷概論	1・2・3前・後	2	1	阿部事務所代表 (平20.1)	
25	兼任	講師	アラエ(エヒサリ) キョウコ 新江(海老澤) 京子 ＜令和5年4月＞		修士 (文学) ※		日本美術史特論B	1・2・3前・後	2	1	女子美術大学 大学院美術研究科 非常勤講師 (令4.4)	
26	兼任	講師	アヲタ ケイタ 栗田 大輔 ＜令和5年4月＞		博士 (美術)		現代美術論	1・2・3前・後	2	1	女子美術大学 芸術学部 非常勤講師 (平26.4)	
27	兼任	講師	アンソウ ユカ 安念 有加 ＜令和6年4月＞		Bachelor of Science アメリカ		コミュニケーション特論Ⅲ	2前	2	1	元Fujitsu Network Communications Inc. コーディネーター (平16.8まで)	
28	兼任	講師	イダ マスミ 飯田 菜純 ＜令和5年4月＞		学士 (芸術)		書道A 書道B 感性異分野共創論Ⅱ※	1・2・3前 1・2・3後 3前	1 1 0.3	1 1 1	株式会社アトスペース 営業コーディネーター (令2.11)	
29	兼任	講師	イヅリ(ナツメ) ユミ 伊澤(夏目) 佑美 ＜令和5年4月＞		学士 (文学)		コミュニケーション特論Ⅰ	1後	2	1	株式会社しごと総合 研究所 クリエイティブプランナー (令2.2)	
30	兼任	講師	イシガミ ナツキ 石神 夏希 ＜令和7年4月＞		修士 (ネットワーク コミュニティー)		感性異分野共創論Ⅱ※	3前	0.5	1	株式会社The Cave 取締役 (平28.6)	
31	兼任	講師	イシガミ リタル 石上 渉 ＜令和5年4月＞		学士 (医療経営)		ビジネスデザイン概論	1後	2	1	株式会社NTTデータ 経営研究所 シニアマネージャー (平21.1)	
32	兼任	講師	イシバシ カツシ 石橋 勝利 ＜令和5年4月＞		学士 (言語・ 文化)		自律的キャリア教育 コミュニケーション特論Ⅱ	1・2・3通 2前	2 2	1 1	株式会社AXIS 編集統括・ディレクター (平29.4)	
33	兼任	講師	イノ ケンジ 井戸 健二 ＜令和6年4月＞		修士 (工学)		人間工学 (スペース&プロダクト)	2前	2	1	株式会社東芝 デザイナー (平9.4)	
34	兼任	講師	イノ ケンジ 伊東 賢司 ＜令和5年4月＞		学士 (経済学)		産官学連携演習	1・2・3通	2	1	株式会社NTTデータ 経営研究所所員 (令2.9)	
35	兼任	講師	イノ コウヘイ 伊藤 恒平 ＜令和6年4月＞		学士 (工学)		共創デザイン演習Ⅱ-B	2前	2	1	ヒューマンフロンティア株式会社 代表取締役社長 (平28.4)	
36	兼任	講師	イノ タケ 伊藤 太一 ＜令和5年4月＞		学士 (デザイン 工学)		共創デザイン演習Ⅰ-E 共創デザイン選択演習Ⅱ-B	1後 2後	2 2	1 1	ペクトル株式会社 代表取締役 (平23.4)	
37	兼任	講師	イノ シンタ 伊東 圭昌 ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		産官学連携演習	1・2・3通	2	1	地方独立行政法人神 奈川県立産業技術総 合研究所 事業化促 進グループリーダー (平30.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
38	兼任	講師	イハハ カズエ 稲葉 和栄 ＜令和5年4月＞		修士 (人文科 学)		異文化理解 日本語A 日本語B	1・2・3前・後 1前 1後	2 1 1	1 1 1	秀明大学 観光ビジネス学部 講師 (平24.4)	
39	兼任	講師	イマムラ ジュンコ 今村 純子 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		哲学 思想史	1・2・3前・後 1・2・3前・後	2 2	1 1	女子美術大学 芸術学部 非常勤講師 (平17.4)	
40	兼任	講師	ウエノ ノブコ 上殿 康子 ＜令和5年4月＞		学士 (芸術)		共創デザイン演習 I-E 共創デザイン選択演習 II-B	1後 2後	2 2	1 1	Oiwai Factory デザイナー (平29.6)	
41	兼任	講師	ウエノ ヨシフミ 上野 祥史 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		比較文化論 文化遺産学	1・2・3前・後 1・2・3前・後	2 2	1 1	国立歴史民俗博物館 准教授 (平21.10)	
42	兼任	講師	ウチノ ヒロコ 内野 博子 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		西洋美術史特論C 美学	1・2・3前・後 1・2・3前・後	2 2	1 1	女子美術大学 芸術学部 非常勤講師 (平22.4)	
43	兼任	講師	ウメダ (イワキ) アユミ 梅田(岩崎) 亜由美 ＜令和6年4月＞		修士 (人間・ 環境学)		環境とアート	2・3・4前・後	1	1	元 女子美術大学美 術館 学芸員 (平24.3まで)	
44	兼任	講師	エダミ サクラ 江上 さくら ＜令和7年4月＞		学士 (芸術)		ライフマネジメント論III-B	3後	2	1	株式会社ADKクリエイイ ブ・ワン プロデューサー (平31.1)	
45	兼任	講師	エダシマキミコ 遠藤 久美子 ＜令和5年4月＞		学士 (芸術)		インクルーシブデザイン論	1後	2	1	S. P. ヒューム株式会社 取締役会長 (平25.11)	
46	兼任	講師	エダシマキミコ 遠藤 美穂子 ＜令和5年4月＞		学士 (経済 学)		キャリア形成A※ キャリア形成B※ キャリア形成C※ キャリア形成D※	1・2・3前・後 1・2・3前・後 2・3・4前・後 2・3・4前・後	0.1 0.1 0.1 0.1	1 1 1 1	株式会社近代マネジメント キャリアコンサルタント (平23.4)	
47	兼任	講師	オホカ ユミコ 大熊 裕美子 ＜令和6年4月＞		芸術 学士		共創デザイン演習 II-B	2前	2	1	東芝テック株式会社 参事 (平27.4)	
48	兼任	講師	オホタ ショウゴ 大谷 省悟 ＜令和7年4月＞		学士 (商学)		共創デザイン選択演習応用III-Cb	3後	2	1	株式会社301 代表取締役 (平26.9)	
49	兼任	講師	オホタ トモコ 大谷 智子 ＜令和5年4月＞		博士 (心理 学)		心理学	1・2・3前・後	2	1	明治大学 総合数理学部 助教 (令2.4)	
50	兼任	講師	オホタ トシユキ 大友 聡 ＜令和6年4月＞		専門学 校卒		共創デザイン選択演習 II-B	2後	2	1	株式会社良品計画 プロダクトデザイン課 課長 (平21.5)	
51	兼任	講師	オホハ カ 大庭 香江 ＜令和5年4月＞		修士 (文学) ※		Joshihi Foundation English A Joshihi Foundation English B	1前 1後	1 1	1 1	女子美術大学 芸術学部 非常勤講師 (平28.4)	
52	兼任	講師	オホサキ コウジ 岡崎 浩二 ＜令和5年4月＞		学士 (法学)		キャリア形成A※ キャリア形成B※ キャリア形成C※ キャリア形成D※	1・2・3前・後 1・2・3前・後 2・3・4前・後 2・3・4前・後	1.5 1.5 1.5 1.5	1 1 1 1	株式会社岡崎人事コン サルタント 取締役社長 (平20.12)	
53	兼任	講師	オホミ ユキ 岡宮 由樹 ＜令和5年4月＞		修士 (工学)		共創デザイン演習 I-G 共創デザイン選択演習 II-D	1後 2後	2 2	1 1	ルネサスエレクトロニクス株式会 社 IoTプラットフォーム事 業部主任 (令3.1)	
54	兼任	講師	オホリ カヨ 小川 佳代子 ＜令和5年4月＞		修士 (保健福 祉学)		スポーツ演習A スポーツ演習B 健康科学A 健康科学B	1・2・3前・後 1・2・3前・後 1・2・3前 1・2・3後	1 1 1 1	1 1 1 1	女子美術大学 芸術学部 特命講師 (平30.4)	
55	兼任	講師	オホシノ 越智 郁乃 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		文化人類学	1・2・3前・後	2	1	東北大学 文学研究科 准教授 (令和2.4)	
56	兼任	講師	オホシゲル 乙葉 茂 ＜令和5年4月＞		専門学 校卒		共創デザイン演習 I-H 共創デザイン概論※ 共創デザイン選択演習応用III-Da 共創デザイン選択演習応用III-Db	1後 1前 3後 3後	2 0.3 2 2	1 1 1 1	株式会社東芝 CPSx7*デザイン部デザイン マネージャー (令2.4)	
57	兼任	講師	オハラ チ 織原 千絵 ＜令和5年4月＞		学士 (造形)		共創デザイン演習 I-H	1後	2	1	株式会社東芝 CPSx7*デザイン部共創推 進担当 (令2.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
58	兼任	講師	カタ アミ 垣田 彩水 ＜令和5年4月＞		Extended Diploma in Creative Media Production & Technology イギリス		共創デザイン演習 I-D	1前	2	1	株式会社olio 代表 (令和3.1)	
59	兼任	講師	カウ シュウヘイ 加藤 修平 ＜令和7年4月＞		修士 (哲学)		ファンシレーション論	3後	2	1	株式会社ロフトワーク クリエイティブディレクター (平30.6)	
60	兼任	講師	カネノ(ヨキマ) カ 金森(横山) 香 ＜令和5年4月＞		Bachelo r of Arts(Ho nours) イギリス		地域共創学 アーティスト・イン・レジデンス概論※	1・2・3前・後 1・2・3前・後	2 0.7	1 1	株式会社アロコ 執行役員 (令2.2)	
61	兼任	講師	カネノ ケイ 金成 慧 ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		数理科学	1・2・3前・後	2	1	宇都宮大学 工学部 助教 (令2.4)	
62	兼任	講師	カネノ トモチ 金子 智昭 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学) ※		子ども発達論	1・2・3前・後	2	1	鎌倉女子大学 短期大学部 講師 (令3.4)	
63	兼任	講師	カネノ ヒサ 金子 日奈 ＜令和7年4月＞		学士 (造形)		共創デザイン選択演習応用III-Ba	3後	2	1	株式会社メイト バイ (令3.6)	
64	兼任	講師	カネノ シズハ 金田 静葉 ＜令和5年4月＞		学士 (造形)		共創デザイン演習 I-F	1後	2	1	日産自動車株式会社 グローバルデザイン本部 CMディレクター (令4.1)	
65	兼任	講師	カマチョ・クルス・ハビエル Camacho Cruz Javier ＜令和5年4月＞		修士 (歴史・ 美術史)		西洋美術史特論 A	1・2・3前・後	2	1	翻訳・通訳業 (平23.9)	
66	兼任	講師	カネノ マリコ 神森 真理子 ＜令和6年4月＞		学士 (文学)		感性異分野共創論 I ※ 感性異分野共創論 II ※	2前 3前	0.3 0.3	1 1	ジヤパン・デザイン・イノベーション チェラボ株式会社 代表取締役 (平25.11)	
67	兼任	講師	カネノ リカル 神谷 渉 ＜令和6年4月＞		博士 (商学)		行動デザイン論	2前	2	1	玉田大学 経営学部 准教授 (平28.4)	
68	兼任	講師	カワバタ コウヘイ 川畑 耕平 ＜令和5年4月＞		修士 (芸術工 学)		デザイン史A デザイン史B インテリアデザイン史	1・2・3前・後 1・2・3前・後 1・2・3前・後	2 2 2	1 1 1	スタジオMKT一級建築士 事務所 代表 (平16.1)	
69	兼任	講師	カマタ ノブヒコ 川又 伸彦 ＜令和5年4月＞		法学 修士 ※		法学（日本国憲法）	1・2・3前・後	2	1	埼玉大学大学院 人文社会学研究科 教授 (平20.4)	
70	兼任	講師	カワムラ マサリ 川村 雅徳 ＜令和5年4月＞		文学士		カラーコーディネート基礎	1・2・3前・後	2	1	DICカラーデザイン株式会 社 カラーマーケティングプロ デュース (平18.4)	
71	兼任	講師	キシモト アツシ 岸本 純 ＜令和5年4月＞		学士 (経営)		共創デザイン演習 I-C 共創デザイン選択演習 II-A	1前 2後	2 2	1 1	FB7 モーション株式会社 フォトographer (平30.3まで)	
72	兼任	講師	キタオ ヒロヨ 喜多尾 浩代 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		身体とアート 身体機能論	2・3・4前・後 1・2・3前・後	2 2	1 1	女子美術大学 大学院美術研究科 非常勤講師 (平18.4)	
73	兼任	講師	キモト リエ 木本 梨絵 ＜令和7年4月＞		学士 (造形)		共創デザイン演習 III-B	3前	2	1	株式会社HARKEN クリエイティブディレクター (令2.7)	
74	兼任	講師	グリン パトリック ラファエル Glinn Patrick Raphael ＜令和5年4月＞		Master of Music アメリカ		English Conversation A English Conversation B	1・2・3前 1・2・3後	1 1	1 1	元 インタラク株式会社 ランゲージコンサルタント (平26.12まで)	
75	兼任	講師	コノイ ヨシオ 小祝 誉士夫 ＜令和5年4月＞		学士 (経済)		共創デザイン演習 I-A 共創デザイン選択演習 III-C	1前 3前	2 2	1 1	株式会社TNC 代表取締役社長 (平20.2)	
76	兼任	講師	コヤマ チカル 小玉 千陽 ＜令和5年4月＞		学士 (工学)		共創デザイン概論※ 共創デザイン選択演習 III-A 共創デザイン選択演習応用 III-Ea	1前 3前 3後	0.1 2 2	1 1 1	株式会社ium 代表取締役社長 (平29.8)	
77	兼任	講師	コトウ コウスケ 後藤 浩介 ＜令和6年4月＞		修士 (環境 学)		プロジェクト・スタディーズ	2・3・4前・後	2	1	女子美術大学 短期大学部 教授 (平22.4)	
78	兼任	講師	コバヤシ アコ 小林 亜子 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学) ※		歴史学	1・2・3前・後	2	1	埼玉大学大学院 人文社会学研究科 教授 (平8.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
79	兼任	講師	コバヤシ サヤ 小林 紗也 ＜令和5年4月＞		学士 (芸術)		共創デザイン演習Ⅰ-B	1前	2	1	株式会社ムット マネージャー (令2.3)	
80	兼任	講師	コバヤシ ヨシコ 小林 洋子 ＜令和6年4月＞		修士 (都市計 画)		行動デザイン論	2前	2	1	株式会社NTTデータ 経営研究所所員 (平18.6)	
81	兼任	講師	コハラ トオル 古原 徹 ＜令和5年4月＞		修士 (工学)		インクルーシブデザイン論	1後	2	1	アサヒビル株式会社 シニアマネージャー (令4.1)	
82	兼任	講師	サイトリ(イダ) アヤ 齋藤(飯田) 綾 ＜令和5年4月＞		修士 (美術)		図学B	1・2・3前・後	2	1	小阪淳子デザイン事務所 デザイナー (平9.4)	
83	兼任	講師	サイトリ(シヅカ) アツコ 齋藤(藤塚) 慈子 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		行動心理学	1・2・3前・後	2	1	上智大学 総合人間科学部 准教授 (平30.4)	
84	兼任	講師	サクライ ユリコ 櫻井 夕里子 ＜令和5年4月＞		修士 (文学) ※		西洋美術史概説	1・2・3前・後	2	1	女子美術大学 芸術学部 非常勤講師 (平21.4)	
85	兼任	講師	サトリ マスミ 佐藤 真澄 ＜令和6年4月＞		短期大 学卒		プロジェクト・スタディーズ	2・3・4前・後	2	1	女子美術大学 短期大学部 教授 (平17.4)	
86	兼任	講師	サトリ(ムネミ) リコ 佐藤(村上) 紀子 ＜令和5年4月＞		博士 (美術)		図学A	1・2・3前・後	2	1	元 女子美術大学 芸術学部 助教 (令4.3まで)	
87	兼任	講師	シゲマツ ユウ 重松 佑 ＜令和5年4月＞		学士 (芸術)		共創デザイン選択演習Ⅱ-A	2後	2	1	株式会社Shhh 代表取締役 (令2.1)	
88	兼任	講師	シバサキ コミコ 柴崎 由美子 ＜令和6年4月＞		学士 (芸術)		環境とアート	2・3・4前・後	1	1	社会福祉法人わたぼうしの会 プロジェクトディレクター (平16.4)	
89	兼任	講師	ジビキキ ケイイチ 地曳 慶一 ＜令和5年4月＞		Master of Laws アメリカ		共創デザイン概論※ 知財・ファイナンシャル概論	1前 3前	0.1 2	1 1	貝印株式会社 上席執行役員 (令1.4)	
90	兼任	講師	ソバチ サトコ 渋谷 聡子 ＜令和5年4月＞		修士 (宗教学)		共創デザイン概論※ ライフマネジメント論Ⅳ-A	1前 4前	0.1 2	1 1	合同会社ファミリーコンパス 代表 (平26.9)	
91	兼任	講師	シゲダ(ミチ子) トモコ 下田(南田) 倫子 ＜令和5年4月＞		学士 (芸術)		環境論	1・2・3前・後	1	1	quad design architects 一級建 築士事務所 建築士 (平24.4)	
92	兼任	講師	ショウジ タケヤ 庄司 拓也 ＜令和5年4月＞		修士 (史学) ※		社会福祉学	1・2・3前・後	2	1	女子美術大学 芸術学部 非常勤講師 (平24.4)	
93	兼任	講師	ソバチ カオリ 白幡 香織 ＜令和5年4月＞		準学士 (芸術)		情報メディア基礎演習	1・2・3前	2	1	女子美術大学 芸術学部 非常勤講師 (平13.4)	
94	兼任	講師	スズキ キヨシガ 鈴木 清重 ＜令和5年4月＞		博士 (心理 学)		造形心理学	1・2・3前・後	2	1	愛知淑徳大学 人間情報学部 講師 (令4.4)	
95	兼任	講師	タケギ マキコ 高木 麻紀子 ＜令和5年4月＞		博士 (美術)		西洋美術史特論B	1・2・3前・後	2	1	東京藝術大学大学院 美術研究科 専門研究員 (平28.4)	
96	兼任	講師	タケナチ ヒロユキ 高口 裕之 ＜令和7年4月＞		修士 (経営 学)		共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Bb	3後	2	1	株式会社おやつカン パニー 取締役専務執行役 員 (平29.4)	
97	兼任	講師	タシザリ マミ 滝沢 真美 ＜令和5年4月＞		修士 (家政 学)		共創デザイン演習Ⅰ-E 共創デザイン演習Ⅰ-F	1後 1後	2 2	1 1	株式会社カテーデーション 研究所 プロジェクト推 進部副部長 (平26.3)	
98	兼任	講師	タケナチ ヒロユキ 竹内 裕明 ＜令和7年4月＞		学士 (法律 学)		知財・ファイナンシャル概論	3前	2	1	先端起業科学研究所 所長 (平14.7)	
99	兼任	講師	タケカ ジュンヤ 田中 準也 ＜令和7年4月＞		工学士		共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ba	3後	2	1	株式会社イノフーズ 代表取締役社長 (平27.11)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
100	兼任	講師	タニグチ エリ 谷口 英理 ＜令和5年4月＞		博士 (美術)		日本美術史特論C	1・2・3前・後	2	1	国立新美術館 学芸課特定研究員 (平25.4)	
101	兼任	講師	タムラ マサキ 田村 真輝 ＜令和5年4月＞		学士 (経済)		Joshihi Foundation English A Joshihi Foundation English B	1前 1後	1 1	1 1	翻訳業 (平29.3)	
102	兼任	講師	チヨウ チノリ 長 チノリ ＜令和5年4月＞		修士 (学術) ※		ジェンダーとアート概論	1・2・3前・後	2	1	女子美術大学 保健センター特定職員 (平28.4)	
103	兼任	講師	テラチ キョウ 寺内 暁 ＜令和5年4月＞		学士 (総合政 策学)		共創デザイン演習Ⅰ-C 共創デザイン選択演習Ⅱ-A	1前 2後	2 2	1 1	フーラスフットグラフィア ・エディトリアルデザイナー (平29.8)	
104	兼任	講師	トコシ 宝子 富樫 宝子 ＜令和6年4月＞		学士 (芸術)		共創デザイン演習Ⅱ-E 共創デザイン選択演習Ⅲ-C	2後 3前	2 2	1 1	株式会社カクティ ファッションエンターテインメント事 業部主任 (令3.11)	
105	兼任	講師	トミタ キョウイチ 富田 京一 ＜令和5年4月＞		文学士		生命科学	1・2・3前・後	2	1	肉食爬虫類研究所 所長 (平14.3)	
106	兼任	講師	トラウトマン マティアス フランク Trautmann Matthias Frank ＜令和5年4月＞		専門学 校卒		ドイツ語ⅠA ドイツ語ⅠB ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	1・2・3前 1・2・3後 2・3・4前 2・3・4後	1 1 1 1	1 1 1 1	ゲーテ・インスティテュート 東京 専任講師 (平13.4)	
107	兼任	講師	トリコエ リョウコ 鳥越 良子 ＜令和5年4月＞		学士 (教育)		共創デザイン演習Ⅱ-A	2前	2	1	株式会社アレイド プロダクトデザイナー (令3.6)	
108	兼任	講師	ナガオ マキコ 長尾 真紀子 ＜令和5年4月＞		博士 (美術)		芸術学B	1・2・3前・後	2	1	株式会社スタジオホーナス ディレクター (昭60.2)	
109	兼任	講師	ナカガキ マリモ 中垣 まりも ＜令和5年4月＞		博士 (美術)		美術解剖学A 美術解剖学B	1・2・3前・後 1・2・3前・後	2 2	1 1	女子美術大学 芸術学部 非常勤講師 (平23.4)	
110	兼任	講師	ナガノ(小) ケイ 永澤(小野) 桂 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		女子美基礎講座※ 歴史の中の女性 ジェンダー論	1前 1・2・3前・後 1・2・3前・後	1.3 2 2	1 1 1	女子美術大学 芸術学部 非常勤講師 (平23.4)	
111	兼任	講師	ナカノ マアサ 中島 彩花 ＜令和5年4月＞		博士 (美術)		日本美術史概説	1・2・3前・後	2	1	元 女子美術大学 芸術学部 助教 (令2.3まで)	
112	兼任	講師	ナカノ カキ 中務 貴之 ＜令和6年4月＞		学士 (経営 学)		共創デザイン演習Ⅱ-D	2前	2	1	日本IBM株式会社 シニア・マネージング・コンサルタント (令2.5)	
113	兼任	講師	ナカノ ヒロ(ヒロ) 中野 仁詞(仁) ＜令和5年4月＞		修士 (美学)		芸術文化政策論	1・2・3前・後	2	1	公益財団法人神奈川 芸術文化財団 キュレーター (平26.2)	
114	兼任	講師	ナカムラ トモミ 中村 友美 ＜令和5年4月＞		学士 (総合文 化学)		地域共創学 アーティスト・イン・レジデンス概論※	1・2・3前・後 1・2・3前・後	2 0.7	1 1	女子美術大学 芸術学部 非常勤講師 (令3.4)	
115	兼任	講師	ニミ ユキコ 新見 友紀子 ＜令和5年4月＞		修士 (農学)		共創デザイン概論※ ビジネスデザイン概論	1前 1後	0.1 2	1 1	株式会社NTTデータ 経営研究所 ライフ・バリュー・クリエイションユ ニットマネージャー (平18.12)	
116	兼任	講師	ニシオ アツシ 西尾 淳史 ＜令和6年4月＞		学士 (芸術)		共創デザイン演習Ⅱ-B	2前	2	1	アド・デー株式会社 代表取締役 (平31.1)	
117	兼任	講師	ニシガキ ユウキ 西口 雄基 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		教育心理学 青年心理学 精神保健	2前・後 1・2・3前・後 1・2・3前・後	2 2 2	1 1 1	千葉大学 教育学部 准教授 (令4.4)	
118	兼任	講師	スズノダ ケイコ 沼下 桂子 ＜令和5年4月＞		修士 (美術)		女子美の教養※	1前	0.3	1	ア・フ前橋 学芸員 (平31.4)	
119	兼任	講師	ノダ キリカル 野崎 互 ＜令和7年4月＞		修士 (環境 学)		共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Aa 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ab	3後 3後	2 2	1 1	株式会社スマイルズ Chief Creative Officer (令1.10)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
120	兼任	講師	ノノ リナ 野田 若菜 ＜令和5年4月＞		学士 (芸術)		情報とアート	2・3・4前・後	2	1	グラフィックデザイナー (平19.4)	
121	兼任	講師	ノノ(カシマ) 加 野村(川島) 佳世 ＜令和5年4月＞		修士 (社会学) ※		国際関係論	1・2・3前・後	2	1	女子美術大学 芸術学部 非常勤講師 (平19.4)	
122	兼任	講師	ハリ ヒロユキ 羽島 裕之 ＜令和7年4月＞		短期大 学卒		共創デザイン選択演習用III-Eb	3後	2	1	株式会社オーテックジャパン デザイン部チーフクリエイティブデザイナー (平30.7)	
123	兼任	講師	ハカリ ヒロ 早川 弘佳 ＜令和7年4月＞		学士 (芸術)		共創デザイン演習III-B	3前	2	1	株式会社 代表取締役社長 (平29.12)	
124	兼任	講師	ハラガ アユミ 原田 あゆみ ＜令和5年4月＞		修士 (芸術学) ※		東洋美術史特論B	1・2・3前・後	2	1	九州国立博物館 学芸部文化財課長 (平30.7)	
125	兼任	講師	ヒガキ アイコ 平賀 愛子 ＜令和7年4月＞		学士 (芸術)		共創デザイン選択演習III-B	3前	2	1	元 東芝ライテック株式会 社 デザイナー (平24.3まで)	
126	兼任	講師	ヒラノ トモヒロ 平野 智洋 ＜令和5年4月＞		修士 (文学) ※		女子美の教養※ 日本美術史特論A	1前 1・2・3前・後	0.5 2	1 1	女子美術大学 芸術学部 非常勤講師 (平14.4)	
127	兼任	講師	フクリ マサミ 風当 将文 ＜令和5年4月＞		学士 (造形)		ドローイング演習	1前	2	1	ヤマハ株式会社 プロダクトデザイナー (平31.4)	
128	兼任	講師	フナハシ モモヨ 舟橋 桃代 ＜令和6年4月＞		学士 (芸術)		共創デザイン演習II-E 共創デザイン選択演習III-C	2後 3前	2 2	1 1	カルビー株式会社 マーケティング (令2.4)	
129	兼任	講師	ホシナ チス子 保科 千寿子 ＜令和5年4月＞		修士 (美術)		女子美基礎講座※	1前	0.4	1	女子美術大学 芸術学部 非常勤講師 (平26.4)	
130	兼任	講師	ホヤ トモヒロ 細矢 智寛 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		教育原論	1前・後	2	1	女子美術大学 短期大学部 助教 (平30.4)	
131	兼任	講師	サルカ セイゾウ (ホリノ ユキ) 猿岩 清三郎 (堀越 裕貴) ＜令和5年4月＞		高等学 校卒		伝統文化論	1・2・3前・後	2	1	株式会社猿岩流事務 所 取締役 (平13.4)	
132	兼任	講師	マスタ レイ 増田 玲 ＜令和5年4月＞		国際学 修士		写真史	1・2・3前・後	2	1	東京国立近代美術館 美術課主任研究員 (平15.4)	
133	兼任	講師	マツバヤシ ノブオ 松林 伸生 ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		経済学	1・2・3前・後	2	1	慶應義塾大学 理工学部 教授 (平18.4)	
134	兼任	講師	マツヤマ ミチ 松山 美咲 ＜令和5年4月＞		学士 (芸術)		共創デザイン演習I-C 共創デザイン演習II-C	1前 2前	2 2	1 1	株式会社kicK デザイナー (平31.4)	
135	兼任	講師	ミヤ コウスケ 宮 江介 ＜令和5年4月＞		修士 (農学)		環境論	1・2・3前・後	1	1	有限会社造園研究所 代表取締役 (平16.4)	
136	兼任	講師	ミヤモト カズキ 宮本 和佐 ＜令和5年4月＞		学士 (芸術)		ドローイング演習	1前	2	1	東京デザイン専門学校 イラストレーション科 講師 (平31.4)	
137	兼任	講師	ミヤモト ヨシ 宮本 由紀 ＜令和6年4月＞		Master of Fine Arts アメリカ		Joshi Art English A Joshi Art English B	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	株式会社アート・アイソス 代表 (平24.7)	
138	兼任	講師	ミヤマツ テツミ 村松 哲文 ＜令和5年4月＞		修士 (文学) ※		東洋美術史概説 東洋美術史特論A	1・2・3前・後 1・2・3前・後	2 2	1 1	駒沢大学 仏教学部 教授 (平17.4)	
139	兼任	講師	ムラヤマ ジュンコ 村山 潤子 ＜令和6年4月＞		学士 (経済)		ライフマネジメント論II-A	2後	2	1	東芝エレクトロニクスパー 株式会社 人材開発 事業部部長 (令2.4)	
140	兼任	講師	ムロウチ ミチ 室内 美緒 ＜令和5年4月＞		学士 (芸術)		色彩学A 色彩学B	1・2・3前 1・2・3後	2 2	1 1	女子美術大学 短期大学部 非常勤講師 (平11.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
141	兼任	講師	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞ モリ(トモエ) マリコ 森(豊平) 真理子 ＜令和5年4月＞		学士 (文学)		芸術学A	1・2・3前・後	2	1	一般社団法人 torindo 代表理事 (平24.1)	
142	兼任	講師	モリヤ タカエ 守谷 貴絵 ＜令和5年4月＞		学士 (芸術)		共創デザイン概論※ 産官学連携演習	1前 1・2・3通	0.1 2	1 1	地方独立行政法人神 奈川県立産業技術総 合研究所 企画支援 グループ 主任研究員 (平30.4)	
143	兼任	講師	モリマ マサチ 門馬 昌道 ＜令和5年4月＞		学士 (商学)		キャリア形成A※ キャリア形成B※ キャリア形成C※ キャリア形成D※	1・2・3前・後 1・2・3前・後 2・3・4前・後 2・3・4前・後	0.4 0.4 0.4 0.4	1 1 1 1	女子美術大学 キャリア支援センター担当 部長 (平29.4)	
144	兼任	講師	ヤノ カツヒコ 矢野 勝彦 ＜令和5年4月＞		法学士		ソーシャルグッドネスデザイン論	2後	2	1	株式会社NTTデータ経 営研究所 ライフ・ハ ビリティ・クリエイションユニット長 (平26.4)	
145	兼任	講師	ヤマガチ サチコ 山口 沙和子 ＜令和5年4月＞		学士 (文学)		共創デザイン実践Ⅰ 共創デザイン実践Ⅱ 共創デザイン実践Ⅲ	1通 2通 3通	2 2 2	1 1 1	アケビチヤ株式会社 ディレクター (平29.11)	
146	兼任	講師	ヤマタ トシオ 山下 敏男 ＜令和5年4月＞		高等学 校卒		デザイン基礎集中演習	1休	2	1	INTEROBANG DESIGN 株式会社 代表取締役 (平27.6)	
147	兼任	講師	ヤマダ ナツコ (フジタ ミチコ) 山田 夏子 (藤田 美奈子) ＜令和5年4月＞		学士 (造形)		コミュニケーション特論Ⅰ	1後	2	1	株式会社しごと総合 研究所 代表取締役社長 (平20.7)	
148	兼任	講師	ヤマダ ヒロシ 山田 洋 ＜令和5年4月＞		博士 (総合社 会文化)		視光学	1・2・3前・後	2	1	秀明大学 観光ビジネス学部 准教授 (令3.4)	
149	兼任	講師	ヤマダ ユカ 山田 遊 ＜令和5年4月＞		学士 (文学)		共創デザイン演習Ⅰ-B	1前	2	1	株式会社ムット 代表取締役 (平21.11)	
150	兼任	講師	ヤマモト サトミ 山本 聡美 ＜令和5年4月＞		学士 (法学)		ライフマネジメント論Ⅰ	1前	2	1	美容薬膳研究所 所長 (平29.4)	
151	兼任	講師	ヤマモト ユウジウ 山本 雄三 ＜令和6年4月＞		芸術学 修士		感性異分野共創論Ⅰ※	2前	0.3	1	女子美術大学 短期大学部 教授 (平23.4)	
152	兼任	講師	ユリ テロウ 柳 太漢 ＜令和5年4月＞		学士 (理学)		共創デザイン実践Ⅰ 共創デザイン実践Ⅱ 共創デザイン実践Ⅲ	1通 2通 3通	2 2 2	1 1 1	アケビチヤ株式会社 デザインディレクター (平29.5)	
153	兼任	講師	ヨコヤマ シュウイチロウ 横山 修一郎 ＜令和5年4月＞		修士 (地域文 化)		文学 イタリア語ⅠA イタリア語ⅠB イタリア語ⅡA イタリア語ⅡB	1・2・3前・後 1・2・3前 1・2・3後 2・3・4前 2・3・4後	2 1 1 1 1	1 1 1 1 1	女子美術大学 芸術学部 非常勤講師 (平17.4)	
154	兼任	講師	ラチ アキラ 良知 暁 ＜令和5年4月＞		学士 (社会 学)		現代美学	1・2・3前・後	2	1	株式会社アートイト 編集 (平22.7)	
155	兼任	講師	リケン(シバヤ トキハ) 李 研(渋谷 研紀晴) ＜令和5年4月＞		修士 (教育 学)		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB	1・2・3前 1・2・3後 2・3・4前 2・3・4後	1 1 1 1	1 1 1 1	A&B合同会社 代表 (平28.6)	
156	兼任	講師	ルモワニス ファビアン デニス Lemoine Fabien Denis ＜令和5年4月＞		Le master Didacti que des langues フランス		フランス語ⅠA フランス語ⅠB フランス語ⅡA フランス語ⅡB	1・2・3前 1・2・3後 2・3・4前 2・3・4後	1 1 1 1	1 1 1 1	女子美術大学 芸術学部 非常勤講師 (平26.4)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	1人	人	2人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	1人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	1人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	1人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	1人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	1人	1人	人	2人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	1人	人	人	人	人	